

平成30年度

特別養護老人ホームにおける入居者のケアと口腔状態の実態

高齢者施設入所者の口腔機能調査プロジェクト

調査報告書

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会
一般社団法人 日本自立支援介護・パワーリハ学会

はじめに

口からしっかり食べられる、咀嚼をおこなえるということは、高齢者の自立支援を目指すときにどれだけ重要であるかということ、歯科・介護に携わる専門職でさえ、認知されていない現状がある。そのため多くの高齢者が義歯を作成することなく、またあわない義歯を装着し生活を送っている。その一方で自立支援介護を実践している現場では、義歯の調整などを行い口腔機能を正常に戻すと、単にふつう食にもどったというだけでなく、例えばそれまで歩けなかった人が歩き出すなどの全身の活動力が飛躍的に向上する例を少なからず経験し驚かされる。歯は口だけのものでなく全身を引き立たせる神秘的な力を持っている。

本プロジェクトでは、こうした全身との関連を予感しつつ、いうまでもなく高齢者が好きなものを美味しく食べ、健康的に過ごすことができるようになるために、特定非営利活動法人日本顎咬合学会と一般社団法人日本自立支援介護・パワーリハ学会がお互いの専門性が高齢者の生活にどの程度貢献できているのか、さらに今後のどのように貢献すべきかの道筋をつけるものである。

— 目 次 —

1. 調査概要	1
1-1. 調査・研究目的	1
1-2. 調査対象者	1
1-3. 調査方法	1
1-4. 調査・研究体制	2
1-5. 調査・研究実施スケジュール	2
1-6. 倫理的配慮	2
1-7. 調査票回収状況	2
2. 集計結果の留意点	3
3. 単純集計（施設調査票）	4
3-1. 施設種別	4
3-2. 入所定員	5
3-3. 居室タイプ	6
3-4. 入所者の平均要介護度（平成30年11月1日時点）	7
3-5. 施設内での食事に関する研修会の実施	8
3-6. 施設内での口腔（口腔機能や口腔ケア）に関する研修会の実施	9
3-7. 経口移行加算の取得状況（有無）	10
3-8. 経口移行加算の取得状況（人数）	11
3-9. 経口維持加算（Ⅰ）の取得状況（有無）	12
3-10. 経口維持加算（Ⅰ）の取得状況（人数）	13
3-11. 経口維持加算（Ⅱ）の取得状況（有無）	14
3-12. 経口維持加算（Ⅱ）の取得状況（人数）	15
3-13. 口腔機能向上加算の取得状況（有無）	16
3-14. 口腔機能向上加算の取得状況（人数）	17
3-15. 口腔衛生管理体制加算の取得状況（有無）	18
4. 単純集計（職員調査票）	19
4-1. 利用者基本情報	19
4-1-1. 年齢	19
4-1-2. 性別	20
4-1-3. 要介護度	21
4-1-4. 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）	22
4-1-5. 認知症高齢者の日常生活自立度	23
4-2. バーセルインデックス（機能的評価）	24
4-2-1. 食事	24
4-2-2. 車椅子からベッドへの移動	25
4-2-3. 整容	26

4-2-4. トイレ動作.....	27
4-2-5. 入浴.....	28
4-2-6. 歩行.....	29
4-2-7. 階段昇降.....	30
4-2-8. 着替え.....	31
4-2-9. 排便コントロール.....	32
4-2-10. 排尿コントロール.....	33
4-2-11. バーセルインデックス（機能的評価）合計.....	34
4-3. 基本ケア.....	35
4-3-1. 平均的な1日の水分摂取量.....	35
4-3-2. 平均的な1日の歩行量.....	36
4-3-3. 平均的な1日の食事摂取カロリー.....	37
4-3-4. 排泄様式.....	38
4-4. 食事の状況.....	39
4-4-1. 食形態.....	39
4-4-2. 食事動作.....	41
4-4-3. 姿勢.....	42
4-4-4. むせの有無.....	43
4-5. 口の状況.....	44
4-5-1. ふだんの状態.....	44
4-5-2. 歯ぐきなどの状態.....	45
4-6. 歯と義歯.....	48
4-6-1. 上顎.....	48
4-6-2. 下顎.....	49
4-6-3. 義歯の有無.....	50
4-6-4. 義歯の作成時期.....	51
4-6-5. 義歯の使用状況.....	52
4-6-6. 義歯の適合性.....	53
4-6-7. 会話の明瞭度.....	54
4-6-8. 入所後の義歯調整.....	55
5. クロス集計（最近3か月の歯科医師の診療の有無）.....	58
5-1. 主食.....	58
5-2. 副食.....	59
5-3. 食事動作.....	60
5-4. 姿勢.....	61
5-5. むせの有無.....	62
5-6. ふだん（日常）の状態.....	63
5-7. 歯肉（歯ぐき）などの状態.....	64
5-7-1. 痛み、腫れ出血など.....	64

5-7-2. 口臭.....	65
5-7-3. 食物残渣（食べかす）.....	66
5-8. 上顎.....	67
5-9. 下顎.....	68
5-10. 義歯の作成時期.....	69
5-11. 義歯の使用状況.....	70
5-12. 義歯の適合性.....	71
5-13. 会話の明瞭度.....	72
6. クロス集計（最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無）.....	73
6-1. 主食.....	73
6-2. 副食.....	74
6-3. 食事動作.....	75
6-4. 姿勢.....	76
6-5. むせの有無.....	77
6-6. ふだん（日常）の状態.....	78
6-7. 歯肉（歯ぐき）などの状態.....	79
6-7-1. 痛み、腫れ出血など.....	79
6-7-2. 口臭.....	80
6-7-3. 食物残渣（食べかす）.....	81
6-8. 上顎.....	82
6-9. 下顎.....	83
7. クロス集計（最近3か月の義歯調整の有無）.....	84
7-1. 主食.....	84
7-2. 副食.....	85
7-3. 食事動作.....	86
7-4. 姿勢.....	87
7-5. むせの有無.....	88
7-6. ふだん（日常）の状態.....	89
7-7. 歯肉（歯ぐき）などの状態.....	90
7-7-1. 痛み、腫れ出血など.....	90
7-7-2. 口臭.....	91
7-7-3. 食物残渣（食べかす）.....	92
7-8. 上顎.....	93
7-9. 下顎.....	94
7-10. 義歯の作成時期.....	95
7-11. 義歯の使用状況.....	96
7-12. 義歯の適合性.....	97
7-13. 会話の明瞭度.....	98
8. クロス集計（義歯の有無とバーセルインデックス：機能評価）.....	99

8-1. 食事.....	99
8-2. 車椅子からベッドへの移動.....	100
8-3. 整容.....	101
8-4. トイレ動作.....	102
8-5. 入浴.....	103
8-6. 歩行.....	104
8-7. 階段昇降.....	105
8-8. 着替え.....	106
8-9. 排便コントロール.....	107
8-10. 排尿コントロール.....	108
8-11. バーセルインデックス（機能的評価）合計.....	109
9. 統計解析（義歯の有無とバーセルインデックス：機能的評価の関係）.....	110
9-1. 対象グループの正規性の検定.....	110
9-2. 義歯の有無ごとの群間比較.....	111
10. 総括.....	112
参考資料	
11. プレ調査.....	118

1. 調査概要

1-1. 調査・研究目的

高齢者施設の入所者の中には、咀嚼・摂食機能に障害を持つものが多い。介護食を必要としている多くのものは、義歯の調整や修理により、咀嚼・摂食機能の回復が見込め、常食に移行することが可能である。これらを踏まえ第 I 調査として実態調査（パイロットスタディ）をおこなった。これらの結果から高齢者の口腔内の状況はよいとはいえない状態であった。そこで、本調査は、口腔状態とケアの状況、さらにはその状態がどのように ADL に影響しているのかを明らかにすることを目的とする。

本調査は、顎咬合学会と日本自立支援・パワーリハ学会との共同事業としておこなわれ、今後の歯科と介護の協働を期待するものである。

1-2. 調査対象者

①独立行政法人福祉医療機構が運営している福祉・保健・医療インターネット総合サイトである WAM NET (<https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/kourei/service/>) に平成 30 年 11 月に登録されている全国の特別養護老人ホームから各都道府県 15 事業所をエクセルのランダム抽出を用いて抽出された 705 事業所。その特別養護老人ホームに勤務する介護職。

② 当学会会員の特別養護老人ホーム 64 事業所。その特別養護老人ホームに勤務する介護職。

①②の 769 事業所。1 事業所 10 名を対象とする（合計利用者 7,690 名）。

1-3. 調査方法

調査対象事業所と当該施設に所属する介護職員への用紙によるアンケート調査。調査票は、郵送・宅配便により対象事業所に発送した。

調査項目の概要は、施設の基本情報、調査対象利用者の介護基本情報、ケアの状態、機能評価、歯科・口腔状態に関する内容とした。回答方法については、番号による選択、および、数値の記入を主たる方法とした。

1-4. 調査・研究体制

調査責任者	日本自立支援介護・パワーリハ学会 会長 国際医療福祉大学大学院 教授	竹内孝仁
調査責任者	日本自立支援介護・パワーリハ学会 理事 国際医療福祉大学大学院 准教授	小平めぐみ
分担研究者	聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 介護福祉学科 教授	古川 和稔
分担研究者	杏林大学 理学療法学科 准教授	榎本 雪絵
分担研究者	順天堂大学大学院 医療看護学研究科 准教授	藤尾 祐子
分担研究者	順天堂大学 保健看護学部 高齢者看護学 講師	榎本 佳子
分担研究者	国際医療福祉大学大学院 助教	坂田 佳美
分担研究者	聖隷クリストファー大学 介護福祉専門学校 講師	植田 裕太郎

1-5. 調査・研究実施スケジュール

本調査研究事業は以下のスケジュールに沿って行われた。

年 月	実 施 内 容
平成 30 年 9 月	○アンケート作成
平成 30 年 10 月	○倫理審査申請
平成 30 年 11 月～12 月	○調査票発送・回収
平成 30 年 12 月	○データ入力、集計作業
平成 31 年 1 月	○統計分析作業
平成 31 年 2 月～3 月	○報告書作成

1-6. 倫理的配慮

日本自立支援介護・パワーリハ学会研究倫理審査にて承認を得ている（承認番号 No18115）。

個人情報の提供に際して説明を行い、個人情報は厳正に管理した。また、分析にあたっては施設や個人が特定化できないよう集計したデータをもとに分析を行っている。

1-7. 調査票回収状況

調査票の回収率は以下のとおりとなった。

表 2 アンケート回収率

アンケート種別	送付数	回収数	回収率
施設調査票	769	108	14.0%
介護職員調査票	7,690	1,408	18.3%

2. 集計結果の留意点

1. 比率 (%) については、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。このため、単数回答においては、比率の合計が 100.0%にならない場合がある。
2. 複数回答の場合、回答施設数、または、回答者数を分母として比率を算出している。このため、比率の合計は 100.0%にはならない。
3. 選択枝外の回答や異常値は集計対象から除外し、有効回答と無回答を集計対象とした。このため、回答数の合計が回答施設数、または、回答者数と異なる場合がある。
4. 一部グラフにおいて、比率の母数は「n」で表記している。
5. 職員用調査票の集計における「義歯の有無」の項目は、調査票にはない項目であり、「上顎」と「下顎」の回答をもとに、集計項目を追加した。集計項目の定義は下記の通りである。
 - 「義歯なし」:「上顎」と「下顎」いずれにおいても、「自歯（欠損歯なし）、または、「欠損歯あるが義歯を持っていない」を回答したもの。
 - 「片顎義歯」:「上顎」と「下顎」のいずれかにおいて、「部分義歯」、または、「総義歯」を回答したもの。
 - 「両顎義歯」:「上顎」と「下顎」のいずれにおいても、「部分義歯」、または、「総義歯」を回答したもの。
6. 職員調査票の下記項目については、「上顎」と「下顎」において部分義歯と総義歯のいずれかがあるデータ（義歯あり）を対象とした。すなわち、これらに該当するデータを分母とした。
 - 「片顎義歯」または「両顎義歯」を分母とする項目:「義歯の作成時期」、「義歯の適合性」、「入所後の義歯調整」
 - 「両顎義歯」を分母とする項目:「義歯の使用状況」

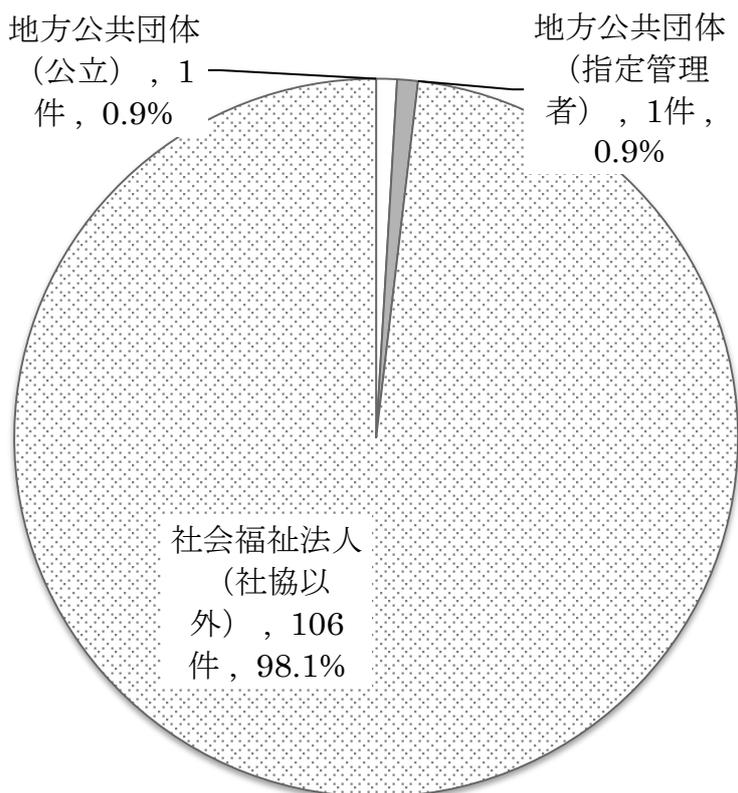
3. 単純集計（施設調査票）

3-1. 施設種別

「施設種別」については、「社会福祉法人（社協以外）」が106件（98.1%）で最も多く、「地方公共団体（指定管理者）」と「地方公共団体（公立）」は、それぞれ1件（0.9%）であった。その他の項目については回答がなかった。

表 3 施設種別 [単位:件]

項目	件数	比率
地方公共団体（公立）	1	0.9%
地方公共団体（指定管理者）	1	0.9%
社会福祉法人（社協以外）	106	98.1%
合計	108	100.0%

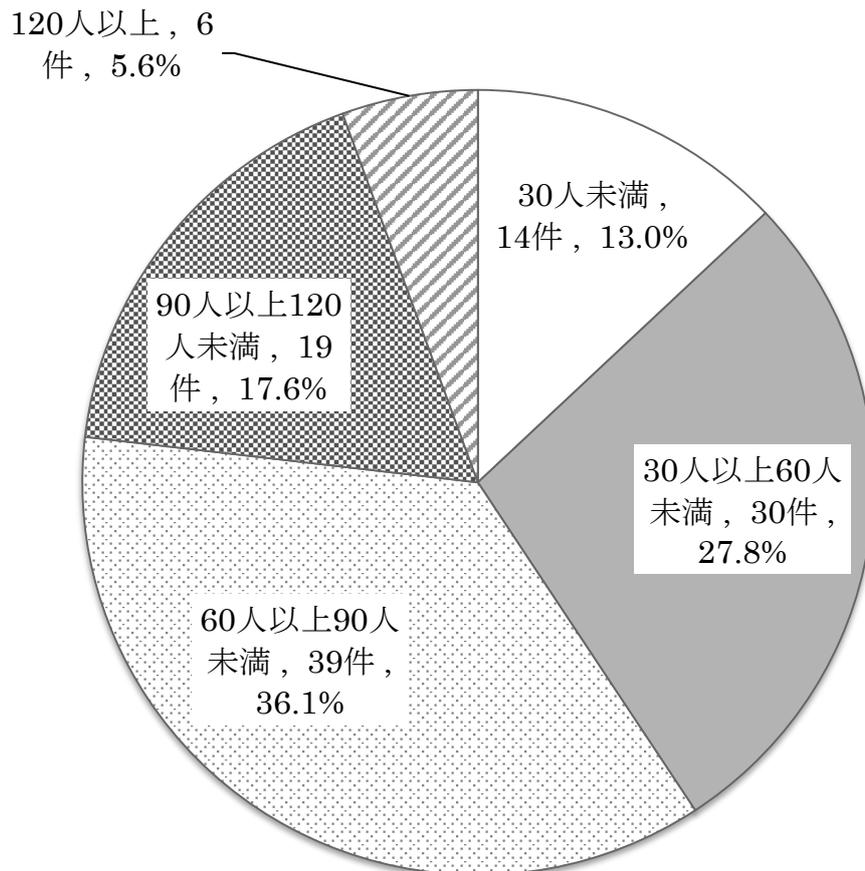


3-2. 入所定員

「入所定員」については、「60人以上、90人未満」が39件（36.1%）で最も回答が多く、続いて「30人以上、60人未満」が30件（27.8%）で多く、そして、「90人以上、120人未満」が19件（17.6%）であった。また、平均は67.2人、最大は125人、最小は18人であった。

表 4 入所定員 [単位:件]

項目	件数	比率
30人未満	14	13.0%
30人以上、60人未満	30	27.8%
60人以上、90人未満	39	36.1%
90人以上、120人未満	19	17.6%
120人以上	6	5.6%
合計	108	100.0%

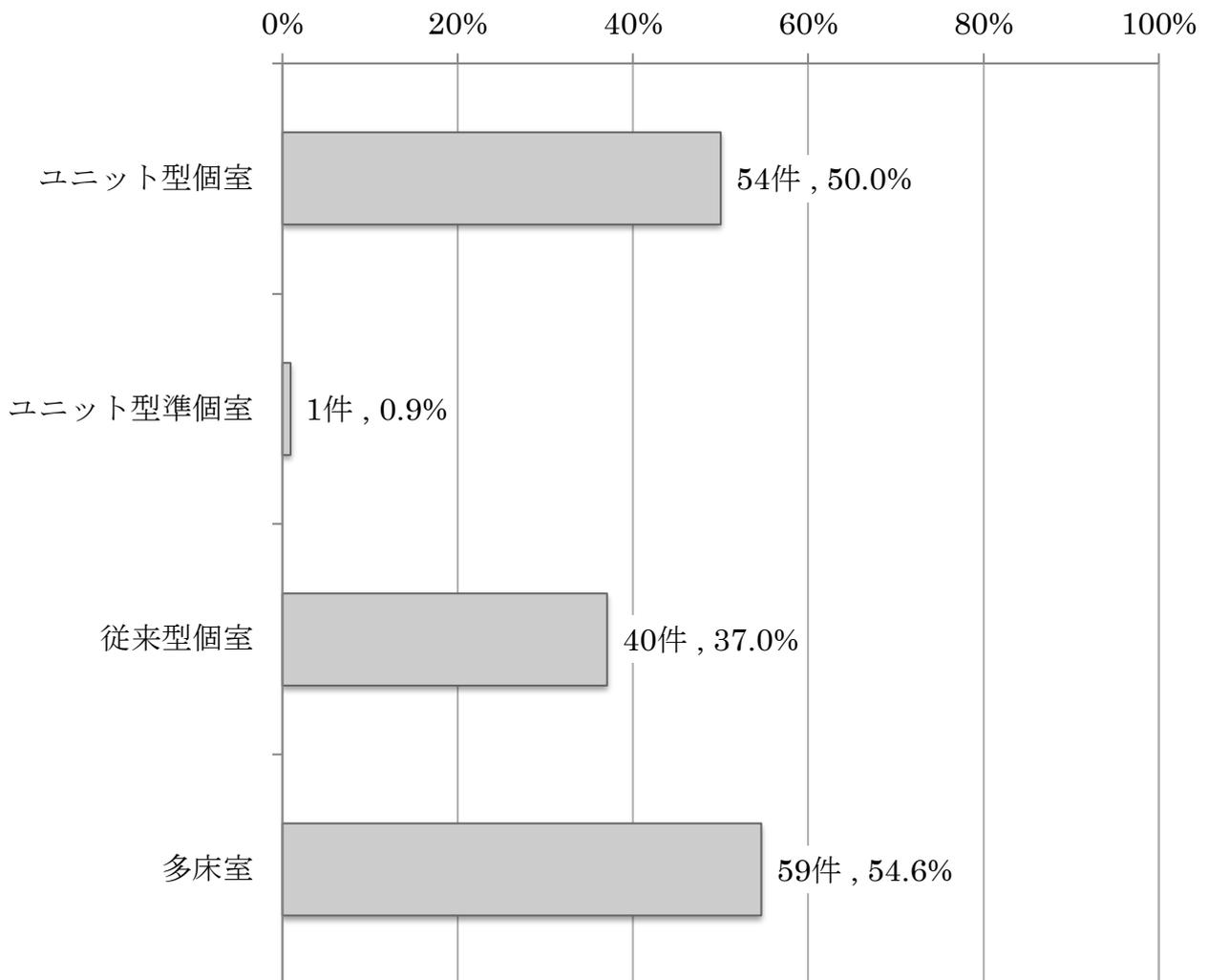


3-3. 居室タイプ

「居室タイプ」については、「多床室」が59件（54.6%）で最も回答が多く、続いて「ユニット型個室」が54件（50.0%）で多く、そして、「従来型個室」が40件（37.0%）であった。

表 5 居室タイプ [単位:件]

項目	件数	比率 (n = 108)
ユニット型個室	54	50.0%
ユニット型準個室	1	0.9%
従来型個室	40	37.0%
多床室	59	54.6%



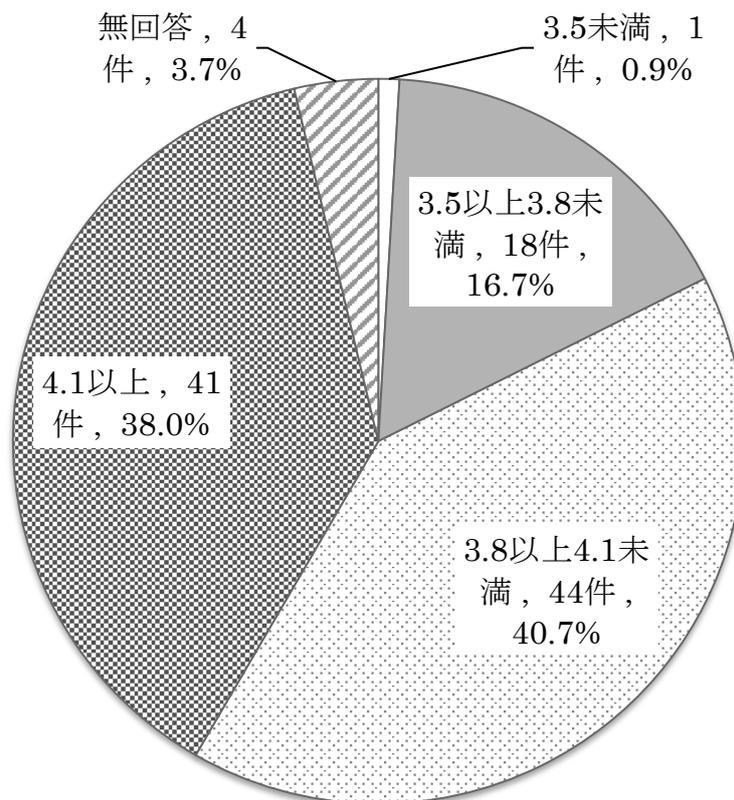
3-4. 入所者の平均要介護度（平成 30 年 11 月 1 日時点）

「入所者の平均要介護度（平成 30 年 11 月 1 日時点）」については、「3.8 以上、4.1 未満」が 44 件（40.7%）で最も回答が多く、続いて「4.1 以上」が 41 件（38.0%）で多く、そして、「3.5 以上、3.8 未満」が 18 件（16.7%）であった。

また、平均は 4.0、最大は 4.5、最小は 3.2 であった。

表 6 入所者の平均要介護度 [単位:件]

項目	件数	比率
3.5 未満	1	0.9%
3.5 以上、3.8 未満	18	16.7%
3.8 以上、4.1 未満	44	40.7%
4.1 以上	41	38.0%
無回答	4	3.7%
合計	108	100.0%

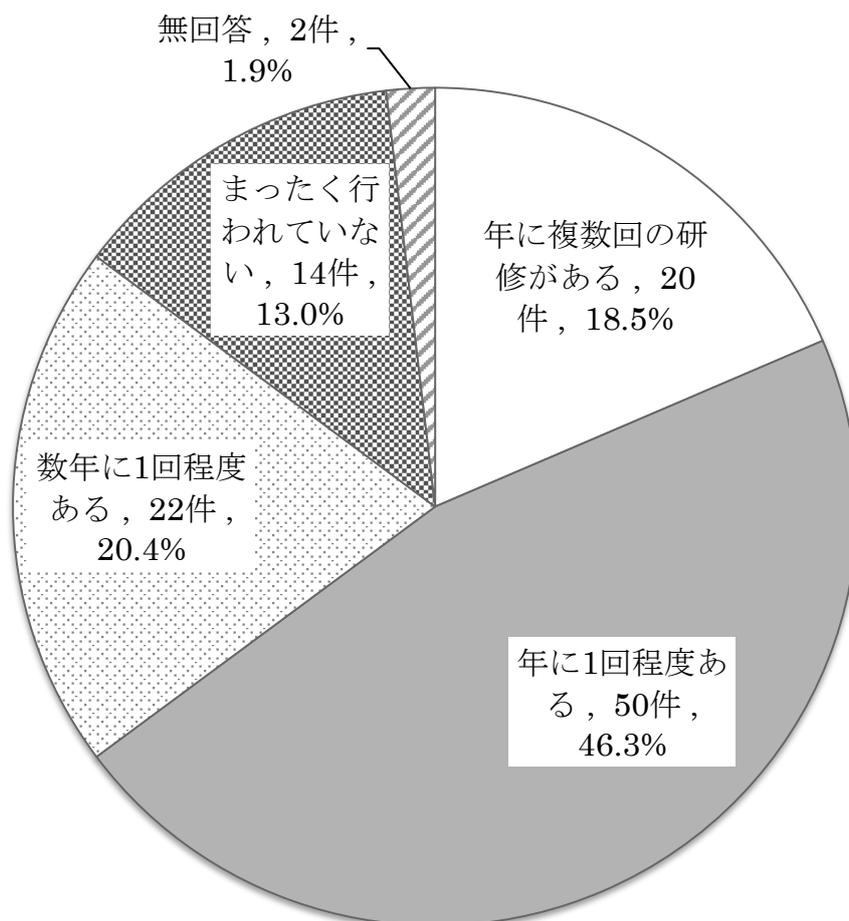


3-5. 施設内での食事に関する研修会の実施

「施設内での食事に関する研修会の実施」については、「年に1回程度ある」が50件（46.3%）で最も回答が多く、続いて「数年に1回程度ある」が22件（20.4%）で多く、そして、「年に複数回の研修がある」が20件（18.5%）であった。

表 7 施設内での食事に関する研修会の実施 [単位:件]

項目	件数	比率
年に複数回の研修がある	20	18.5%
年に1回程度ある	50	46.3%
数年に1回程度ある	22	20.4%
まったく行われていない	14	13.0%
無回答	2	1.9%
合計	108	100.0%

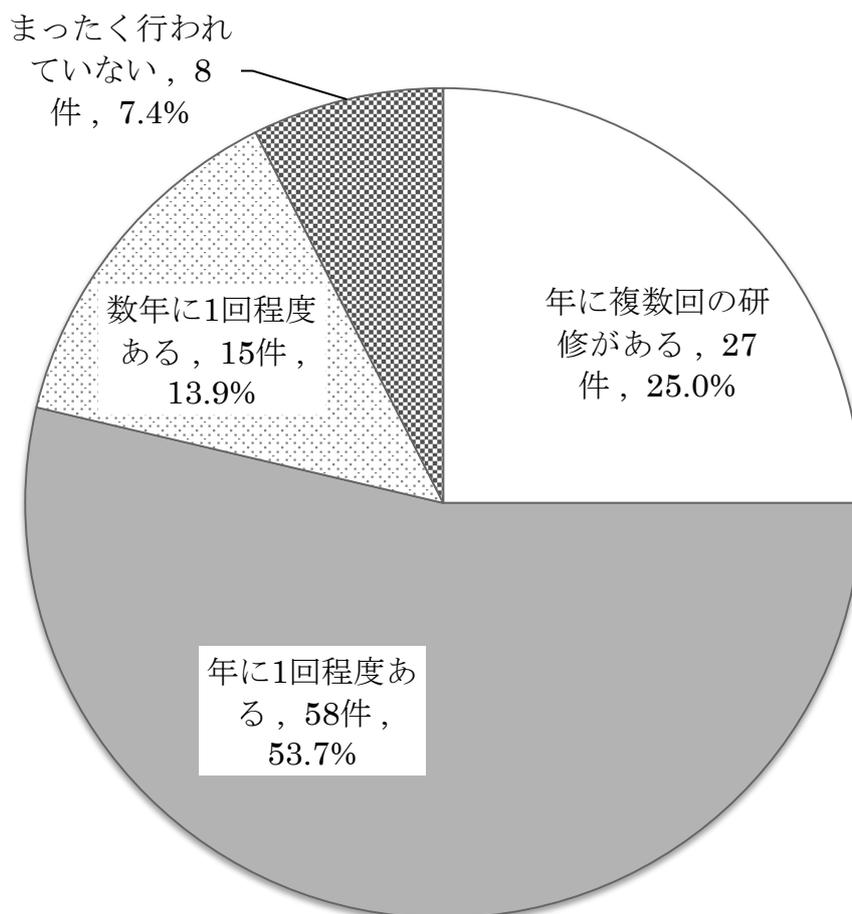


3-6. 施設内での口腔（口腔機能や口腔ケア）に関する研修会の実施

「施設内での口腔（口腔機能や口腔ケア）に関する研修会の実施」については、「年に1回程度ある」が58件（53.7%）で最も回答が多く、続いて「年に複数回の研修がある」が27件（25.0%）で多く、そして、「数年に1回程度ある」が15件（13.9%）であった。

表 8 施設内での口腔（口腔機能や口腔ケア）に関する研修会の実施 [単位:件]

項目	件数	比率
年に複数回の研修がある	27	25.0%
年に1回程度ある	58	53.7%
数年に1回程度ある	15	13.9%
まったく行われていない	8	7.4%
合計	108	100.0%

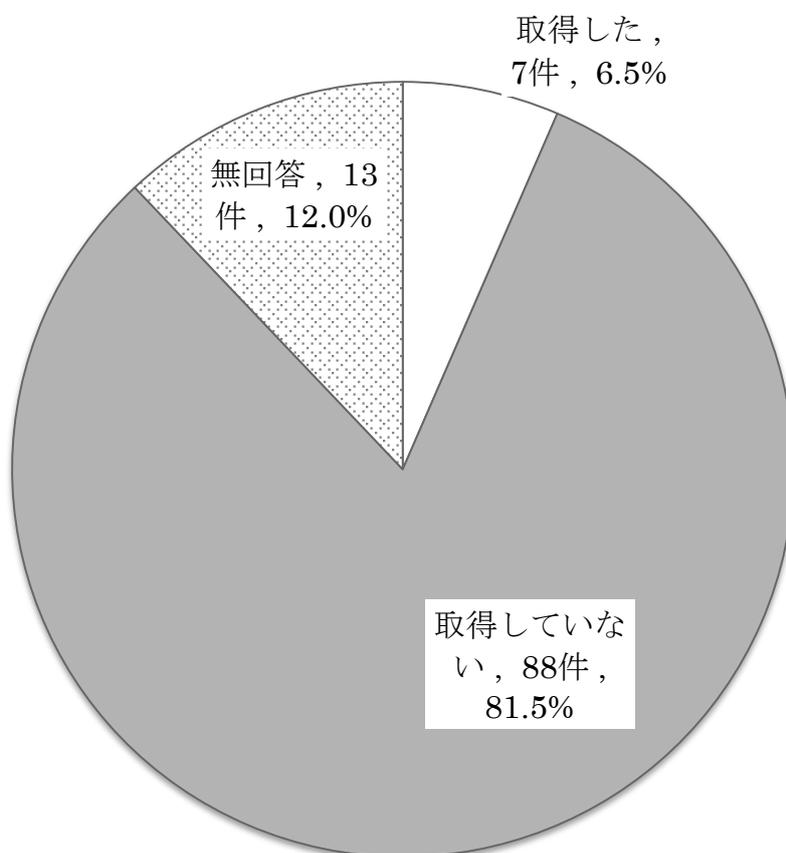


3-7. 経口移行加算の取得状況（有無）

平成30年4月～10月における「経口移行加算の取得状況（有無）」については、「取得していない」は88件（81.5%）、「取得した」は7件（6.5%）であった。

表 9 経口移行加算の取得状況（有無） [単位:件]

項目	件数	比率
取得した	7	6.5%
取得していない	88	81.5%
無回答	13	12.0%
合計	108	100.0%



【経口移行加算（28単位／1日）】

現に経管により食事を摂取している入所者ごとに経口移行計画を作成し、計画に従い、医師の指示を受けた管理栄養士又は栄養士が、経口による食事の摂取を進めるための栄養管理を行った場合、計画が作成された日から起算して180日以内に限り、1日につき28単位を加算。

（参考）経口移行加算の算定要件 社保審一介護給付費分科会 H26

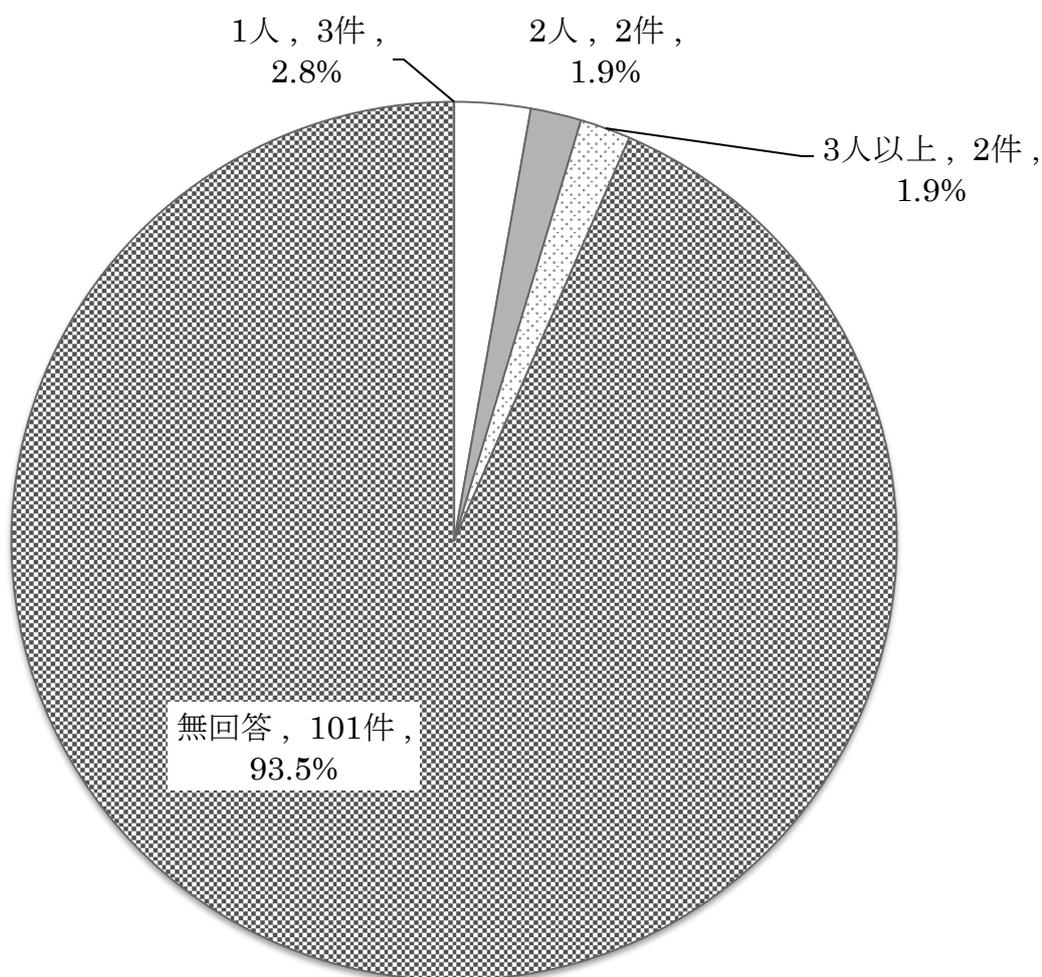
3-8. 経口移行加算の取得状況（人数）

平成30年4月～10月における「経口移行加算の取得状況（人数）」については、「1人」は3件（2.8%）、「2人」、「3人以上」は2件（1.9%）であった。

また、平均は4.9人、最大は24人、最小は1人であった。

表 10 経口移行加算の取得状況（人数） [単位:件]

項目	件数	比率
1人	3	2.8%
2人	2	1.9%
3人以上	2	1.9%
無回答	101	93.5%
合計	108	100.0%

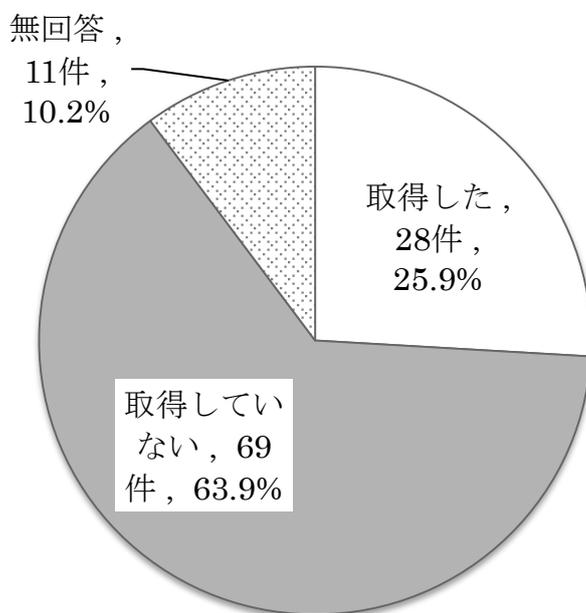


3-9. 経口維持加算（Ⅰ）の取得状況（有無）

平成30年4月～10月における「経口維持加算（Ⅰ）の取得状況（有無）」については、「取得していない」は69件（63.9%）、「取得した」は28件（25.9%）であった。

表 1 経口維持加算（Ⅰ）の取得状況（有無） [単位:件]

項目	件数	比率
取得した	28	25.9%
取得していない	69	63.9%
無回答	11	10.2%
合計	108	100.0%



【経口維持加算（経口維持加算（Ⅰ）：28単位／1日、経口維持加算（Ⅱ）：5単位／1日）】

摂食機能障害を有し、誤嚥が認められる入所者ごとに入所者の摂食・嚥下機能に配慮した経口維持計画を作成、計画に従い、医師又は歯科医師の指示を受けた管理栄養士又は栄養士が、継続して経口による食事の摂取を進めるための特別な栄養管理を行った場合には、区分に応じ、計画が作成された日から起算して180日以内の期間に限り、1日につきそれぞれ所定単位数を加算する。

イ 経口維持加算（Ⅰ）

経口により食事を摂取する者であって、著しい摂食機能障害を有し造影撮影又は内視鏡検査によ

り誤嚥が認められる者（参考）経口維持加算の算定要件 社保審一介護給付費分科会 第113回（H26.11.6）

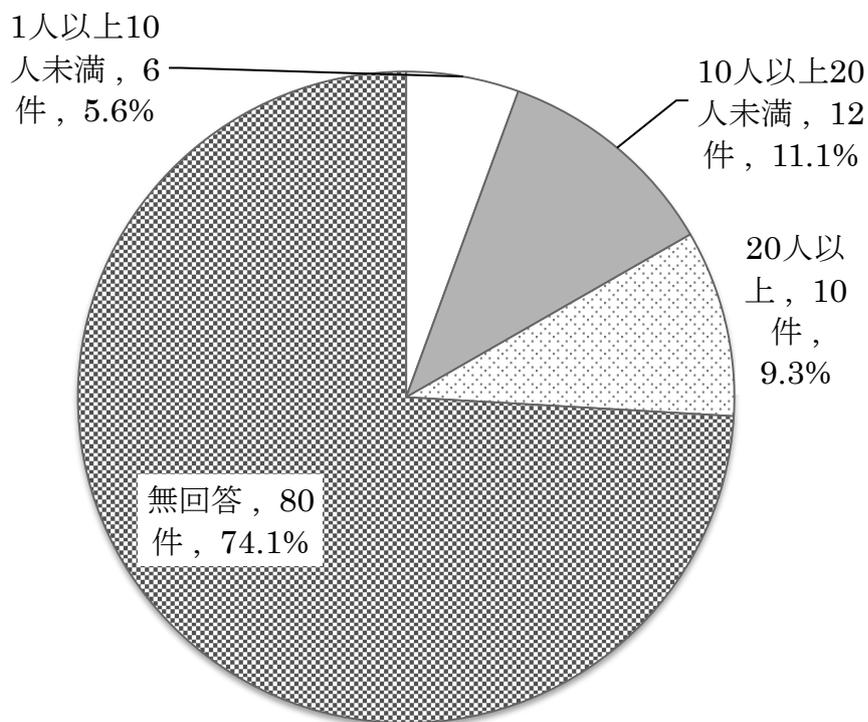
3-10. 経口維持加算（I）の取得状況（人数）

平成30年4月～10月における「経口維持加算（I）の取得状況（人数）」については、「10人以上、20人未満」が12件（11.1%）で最も回答が多く、続いて「20人以上」が10件（9.3%）で多く、そして、「1人以上、10人未満」が6件（5.6%）であった。

また、平均は32.2人、最大は250.0人、最小は1.0人であった。

表2 経口維持加算（I）の取得状況（人数） [単位:件]

項目	件数	比率
1人以上、10人未満	6	5.6%
10人以上、20人未満	12	11.1%
20人以上	10	9.3%
無回答	80	74.1%
合計	108	100.0%

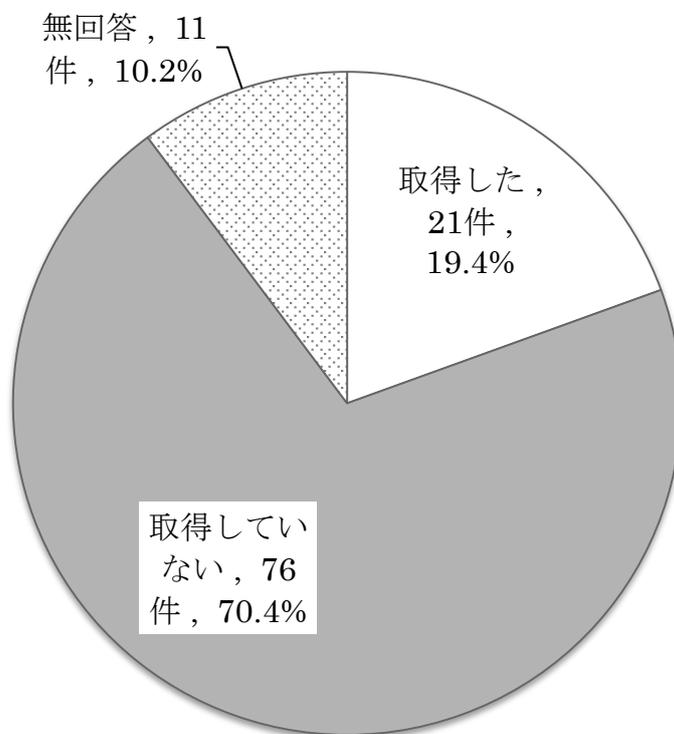


3-1 1. 経口維持加算（Ⅱ）の取得状況（有無）

平成30年4月～10月における「経口維持加算（Ⅱ）の取得状況（有無）」については、「取得していない」は76件（70.4%）、「取得した」は21件（19.4%）であった。

表 3 経口維持加算（Ⅱ）の取得状況（有無） [単位:件]

項目	件数	比率
取得した	21	19.4%
取得していない	76	70.4%
無回答	11	10.2%
合計	108	100.0%



【経口維持加算（経口維持加算（Ⅰ）：28単位／1日、経口維持加算（Ⅱ）：5単位／1日）】

経口維持加算（Ⅱ）

経口により食事を摂取する者であって、摂食機能障害を有し、水飲みテスト、頸部聴診法等により誤嚥が認められる者
 （参考）経口維持加算の算定要件 社保審一介護給付費分科会 第113回（H26.11.6）

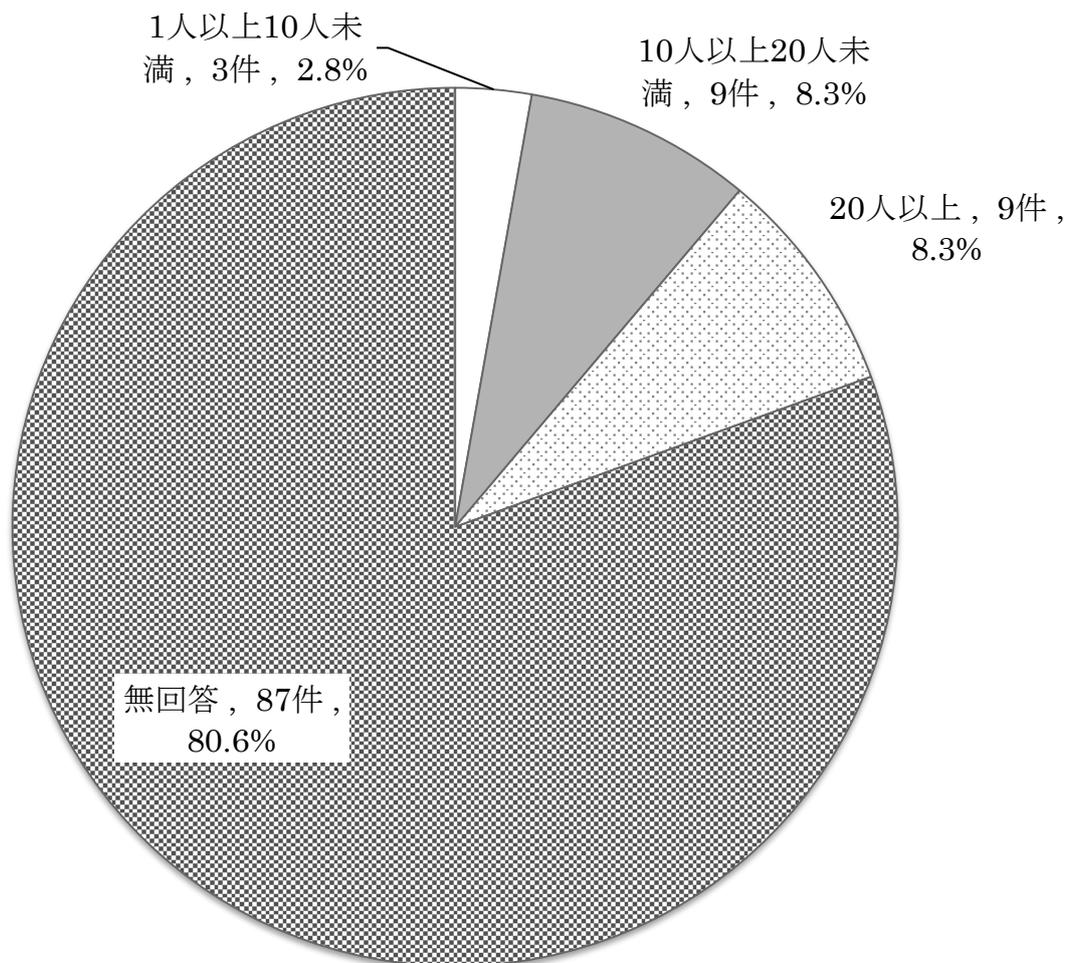
3-1 2. 経口維持加算（Ⅱ）の取得状況（人数）

平成30年4月～10月における「経口維持加算（Ⅱ）の取得状況（人数）」については、「20人以上」、「10人以上、20人未満」は9件（8.3%）、「1人以上、10人未満」は3件（2.8%）であった。

また、平均は33.0人、最大は198.0人、最小は6.0人であった。

表4 経口維持加算（Ⅱ）の取得状況（人数） [単位:件]

項目	件数	比率
1人以上、10人未満	3	2.8%
10人以上、20人未満	9	8.3%
20人以上	9	8.3%
無回答	87	80.6%
合計	108	100.0%

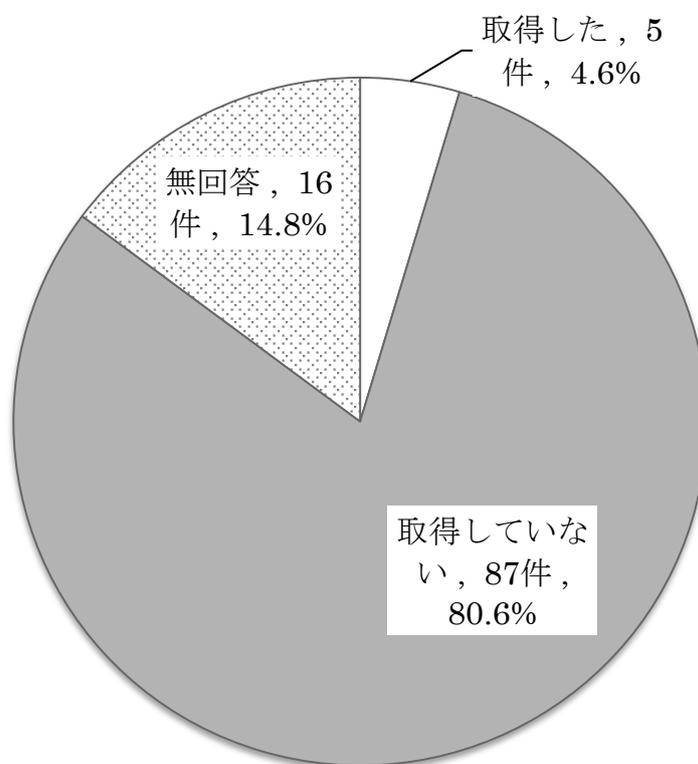


3-13. 口腔機能向上加算の取得状況（有無）

平成30年4月～10月における「口腔機能向上加算の取得状況（有無）」については、「取得していない」は87件（80.6%）、「取得した」は5件（4.6%）であった。

表5 口腔機能向上加算の取得状況（有無） [単位:件]

項目	件数	比率
取得した	5	4.6%
取得していない	87	80.6%
無回答	16	14.8%
合計	108	100.0%



【口腔機能維持管理加算：30単位/月】

介護老人保健施設等において、歯科医師又は歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、介護職員に対する口腔ケアに係る技術的助言及び指導等を月1回以上行っている場合であって、当該技術的助言及び指導に基づき、入所者の口腔ケア・マネジメントに係る計画が作成されている場合に算定。社保審一介護給付費分科会 第140回 (H29.6.7)

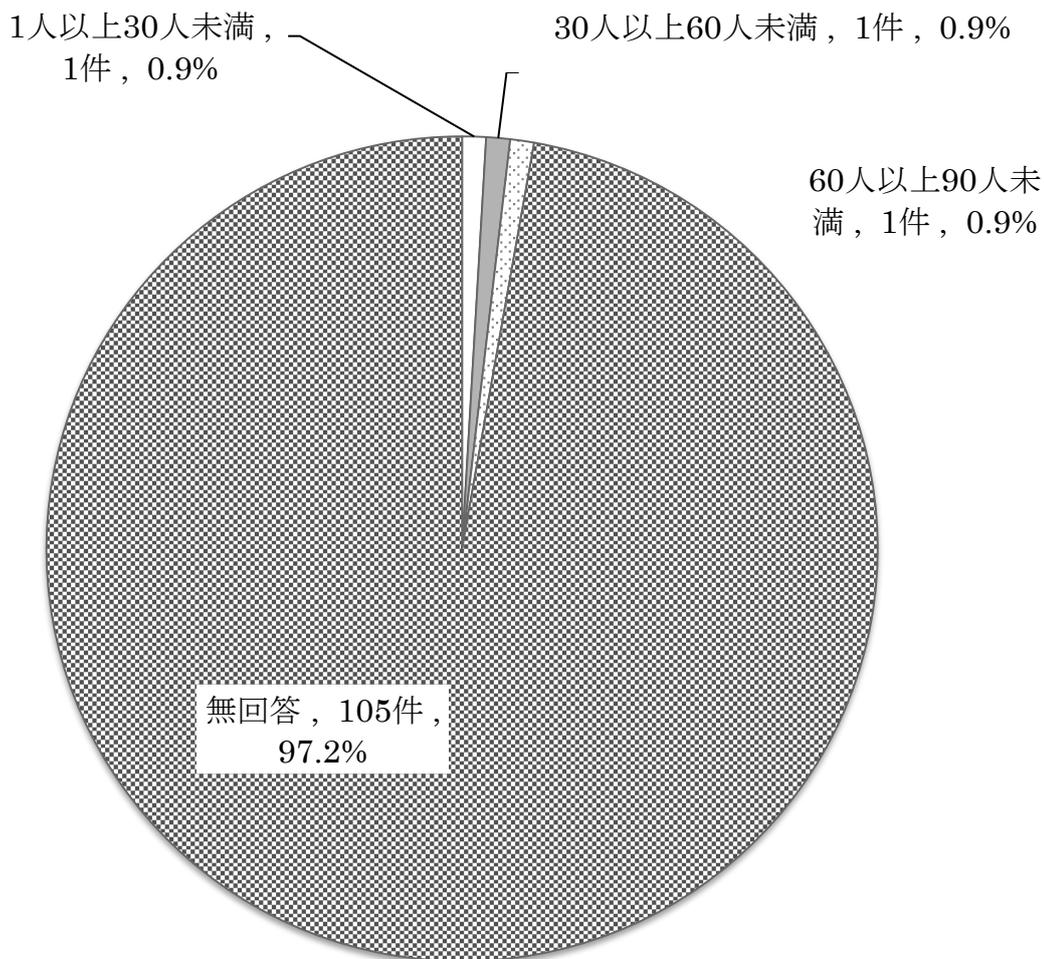
3-1 4. 口腔機能向上加算の取得状況（人数）

平成 30 年 4 月～10 月における「口腔機能向上加算の取得状況（人数）」については、「1 人以上、30 人未満」、「30 人以上、60 人未満」、「60 人以上、90 人未満」それぞれ 1 件（0.9%）であった。

また、平均は 51.7 人、最大は 83.0 人、最小は 18.0 人であった。

表 6 口腔機能向上加算の取得状況（人数） [単位:件]

項目	件数	比率
1人以上、30人未満	1	0.9%
30人以上、60人未満	1	0.9%
60人以上、90人未満	1	0.9%
無回答	105	97.2%
合計	108	100.0%

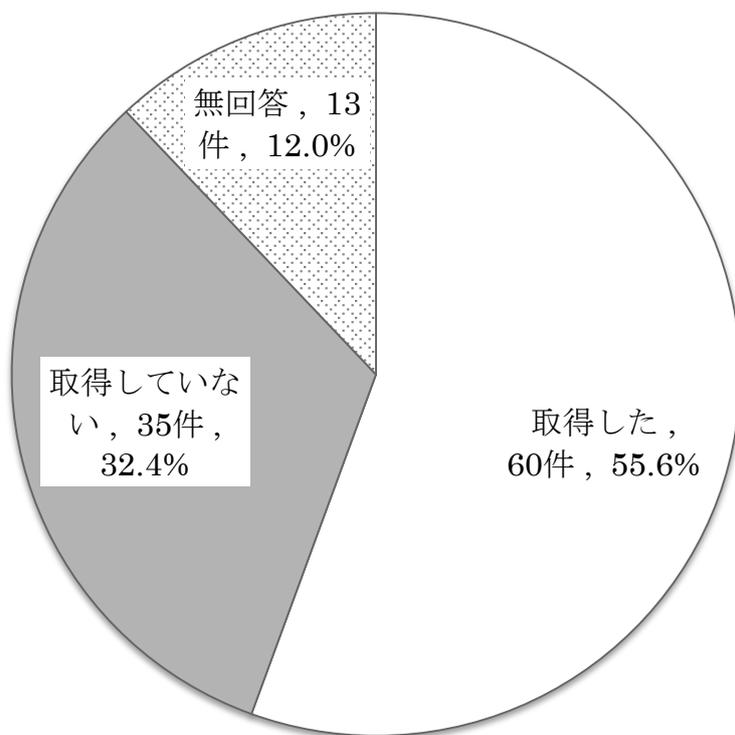


3-15. 口腔衛生管理体制加算の取得状況（有無）

平成30年4月～10月における「口腔衛生管理体制加算の取得状況（有無）」については、「取得した」は60人（55.6%）、「取得していない」は35人（32.4%）であった。

表7 口腔衛生管理体制加算の取得状況（有無） [単位:件]

項目	件数	比率
取得した	60	55.6%
取得していない	35	32.4%
無回答	13	12.0%
合計	108	100.0%



【口腔衛生管理加算】110 単位/月

口腔衛生管理体制加算を算定している介護保険施設において、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が入所者又は入院患者に対する口腔ケアを月4回以上行っていること。社保審—介護給付費分科会 第140回（H29.6.7）

4. 単純集計（職員調査票）

4-1. 利用者基本情報

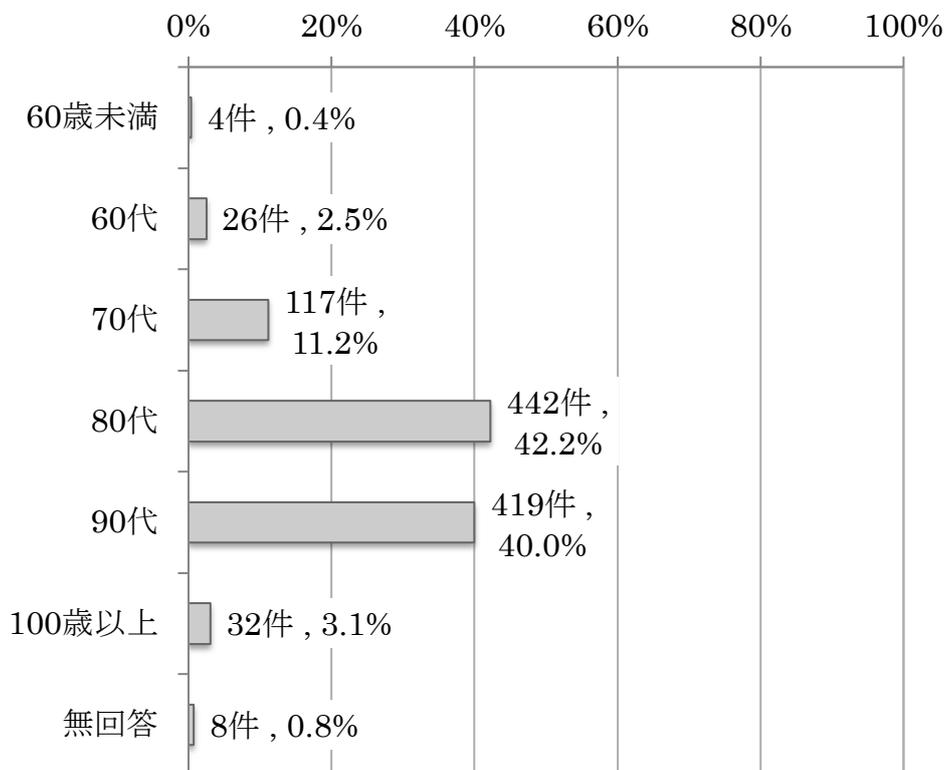
4-1-1. 年齢

「年齢」については、「80代」が442件（42.2%）で最も回答が多く、続いて「90代」が419件（40.0%）で多く、そして、「70代」が117件（11.2%）であった。

また、平均は87.4人、最大は109.0人、最小は50.0人であった。

表 8 年齢 [単位:件]

項目	件数	比率
60歳未満	4	0.4%
60代	26	2.5%
70代	117	11.2%
80代	442	42.2%
90代	419	40.0%
100歳以上	32	3.1%
無回答	8	0.8%
合計	1048	100.0%

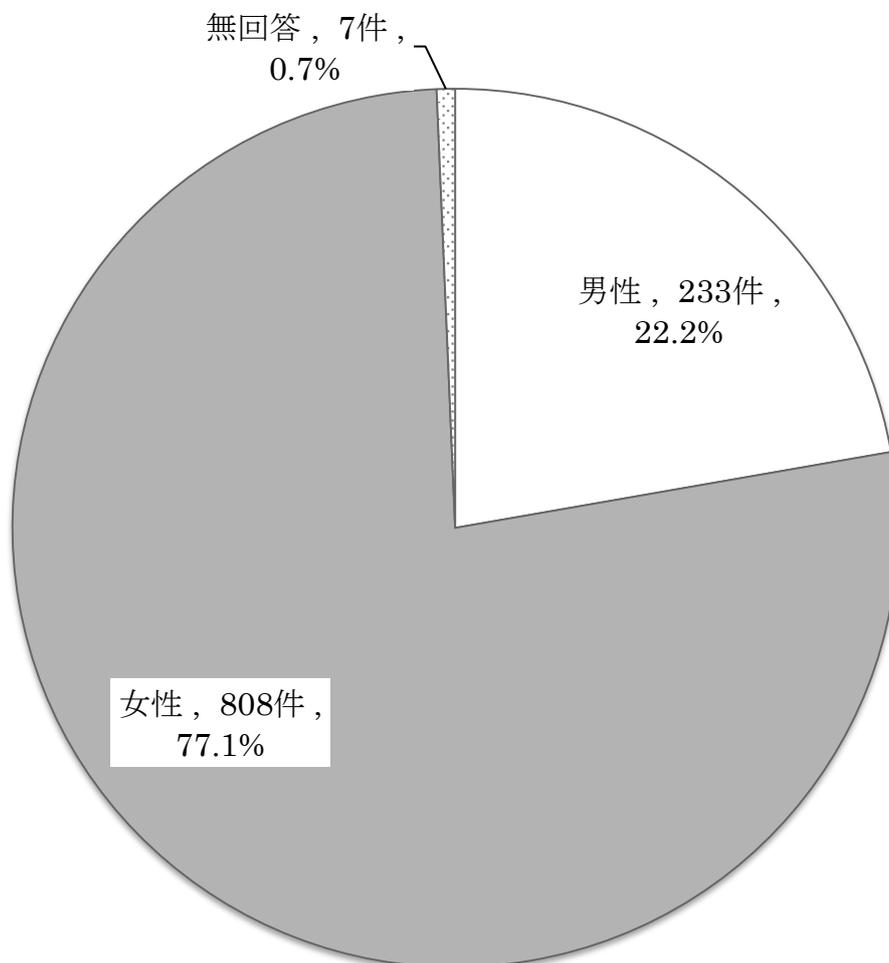


4-1-2. 性別

「性別」については、「女性」は808件（77.1%）、「男性」は233件（22.2%）であった。

表 9 性別 [単位:件]

項目	件数	比率
男性	233	22.2%
女性	808	77.1%
無回答	7	0.7%
合計	1048	100.0%

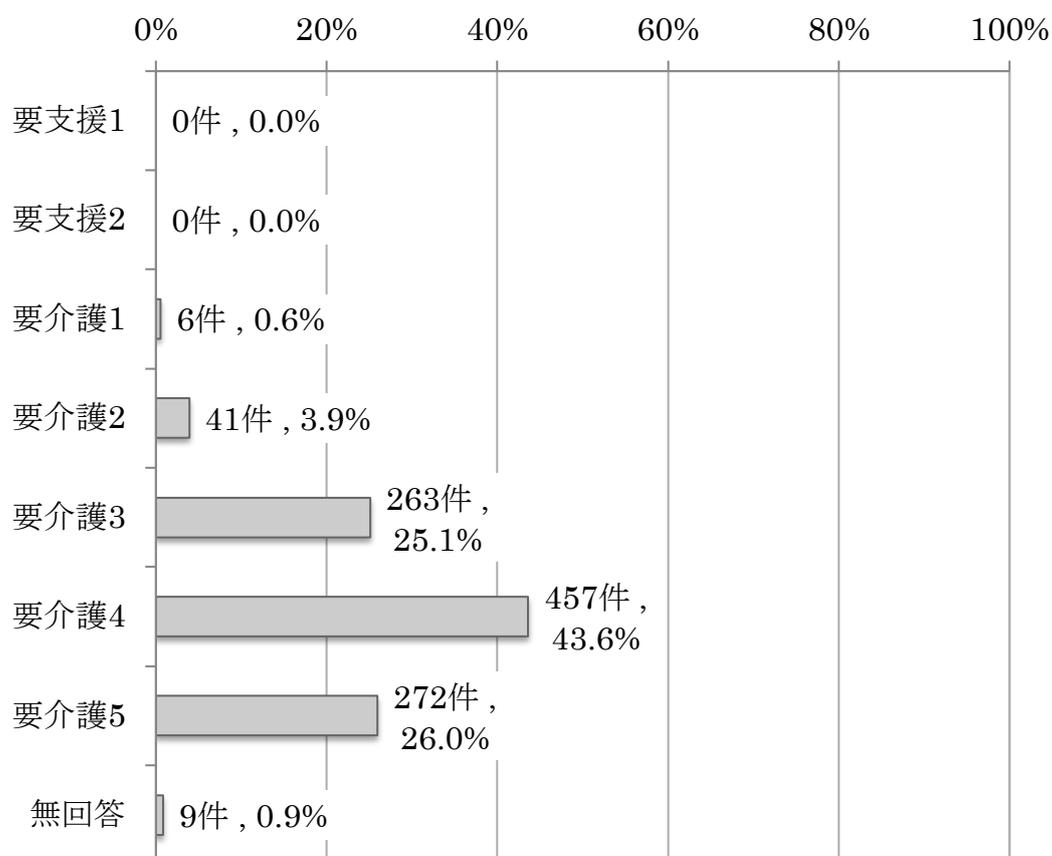


4-1-3. 要介護度

「要介護度」については、「要介護 4」が 457 件（43.6%）で最も回答が多く、続いて「要介護 5」が 272 件（26.0%）で多く、そして、「要介護 3」が 263 件（25.1%）であった。

表 20 要介護度 [単位:件]

項目	件数	比率
要支援 1	0	0.0%
要支援 2	0	0.0%
要介護 1	6	0.6%
要介護 2	41	3.9%
要介護 3	263	25.1%
要介護 4	457	43.6%
要介護 5	272	26.0%
無回答	9	0.9%
合計	1048	100.0%

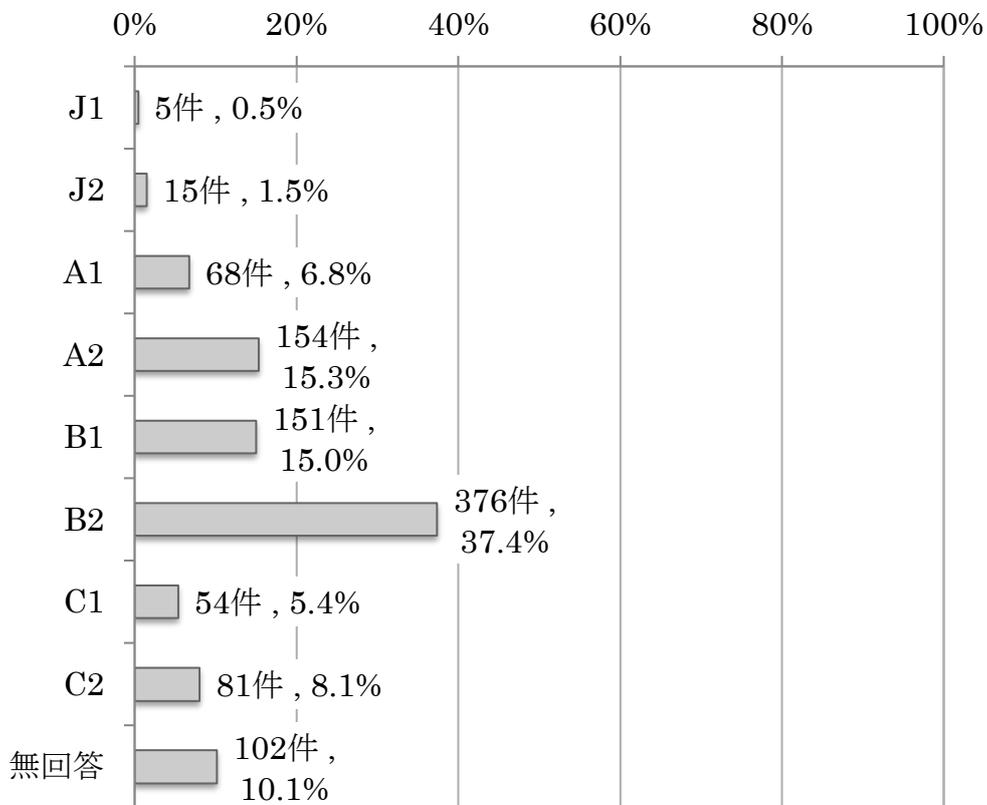


4-1-4. 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）

「障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）」については、「B2」が 376 件（37.4%）で最も回答が多く、続いて「A2」が 154 件（15.3%）で多く、そして、「B1」が 151 件（15.0%）であった。

表 10 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度） [単位:件]

項目	件数	比率
J1	5	0.5%
J2	15	1.5%
A1	68	6.8%
A2	154	15.3%
B1	151	15.0%
B2	376	37.4%
C1	54	5.4%
C2	81	8.1%
無回答	102	10.1%
合計	1006	100.0%

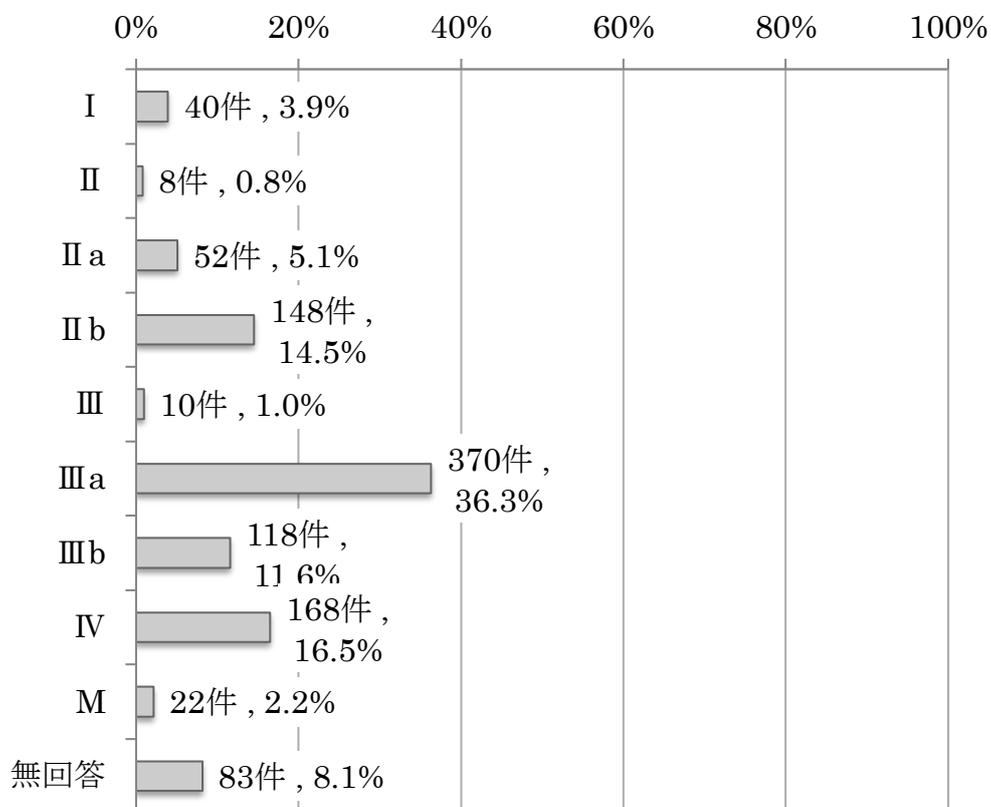


4-1-5. 認知症高齢者の日常生活自立度

「認知症高齢者の日常生活自立度」については、「Ⅲa」が370件（36.3%）で最も回答が多く、続いて「Ⅳ」が168件（16.5%）で多く、そして、「Ⅱb」が148件（14.5%）であった。

表 11 認知症高齢者の日常生活自立度 [単位:件]

項目	件数	比率
I	40	3.9%
II	8	0.8%
II a	52	5.1%
II b	148	14.5%
III	10	1.0%
III a	370	36.3%
III b	118	11.6%
IV	168	16.5%
M	22	2.2%
無回答	83	8.1%
合計	1019	100.0%



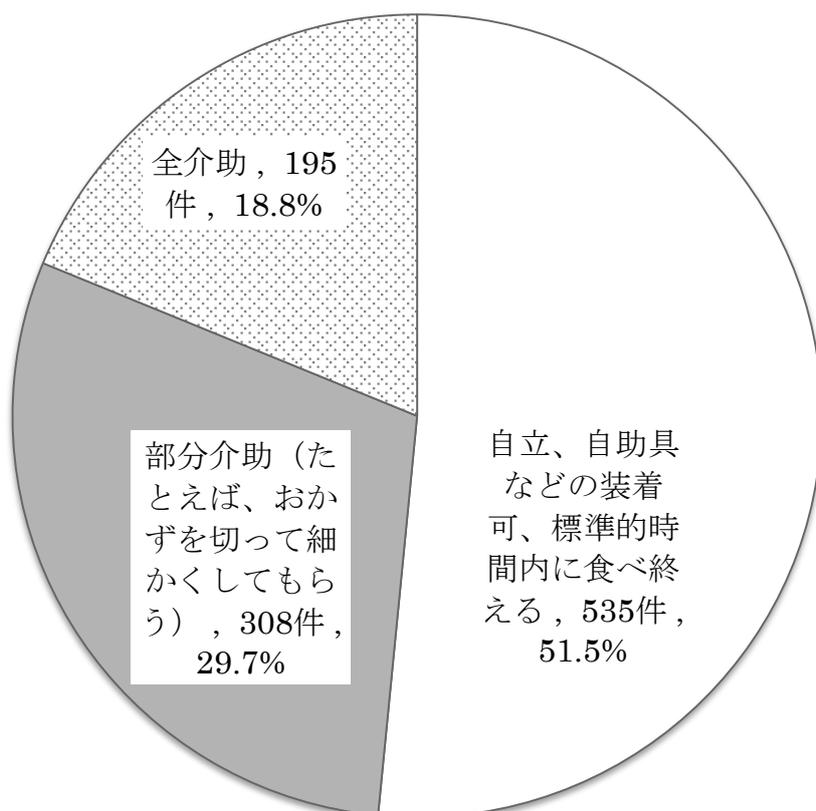
4-2. パーセルインデックス (機能的評価)

4-2-1. 食事

「食事」については、「自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える」が 535 件 (51.5%) で最も回答が多く、続いて「部分介助 (たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)」が 308 件 (29.7%) で多く、そして、「全介助」が 195 件 (18.8%) であった。

表 12 食事 [単位:件]

項目	件数	比率
自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	535	51.5%
部分介助 (たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	308	29.7%
全介助	195	18.8%
合計	1038	100.0%

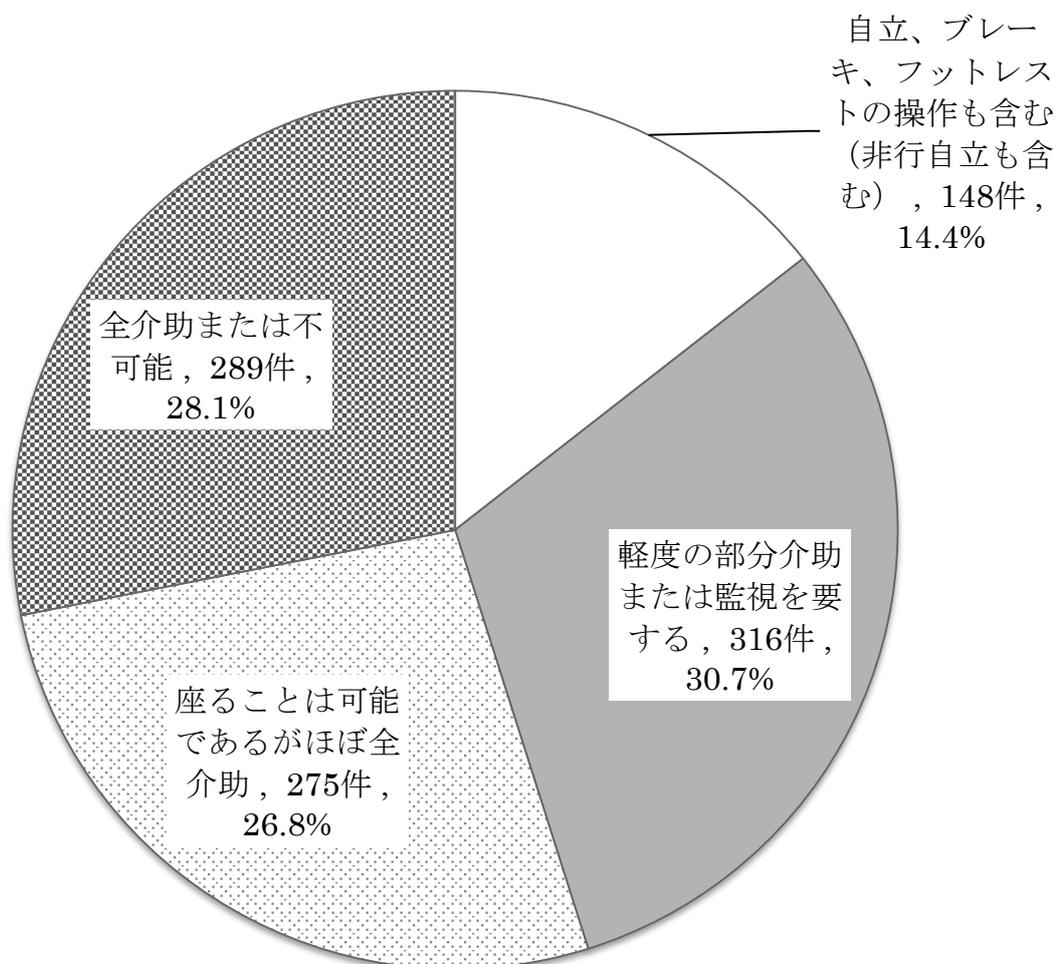


4-2-2. 車椅子からベッドへの移動

「車椅子からベッドへの移動」については、「軽度の部分介助または監視を要する」が 316 件 (30.7%) で最も回答が多く、続いて「全介助または不可能」が 289 件 (28.1%) で多く、そして、「座ることは可能であるがほぼ全介助」が 275 件 (26.8%) であった。

表 13 車椅子からベッドへの移動 [単位:件]

項目	件数	比率
自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む (非行自立も含む)	148	14.4%
軽度の部分介助または監視を要する	316	30.7%
座ることは可能であるがほぼ全介助	275	26.8%
全介助または不可能	289	28.1%
合計	1028	100.0%

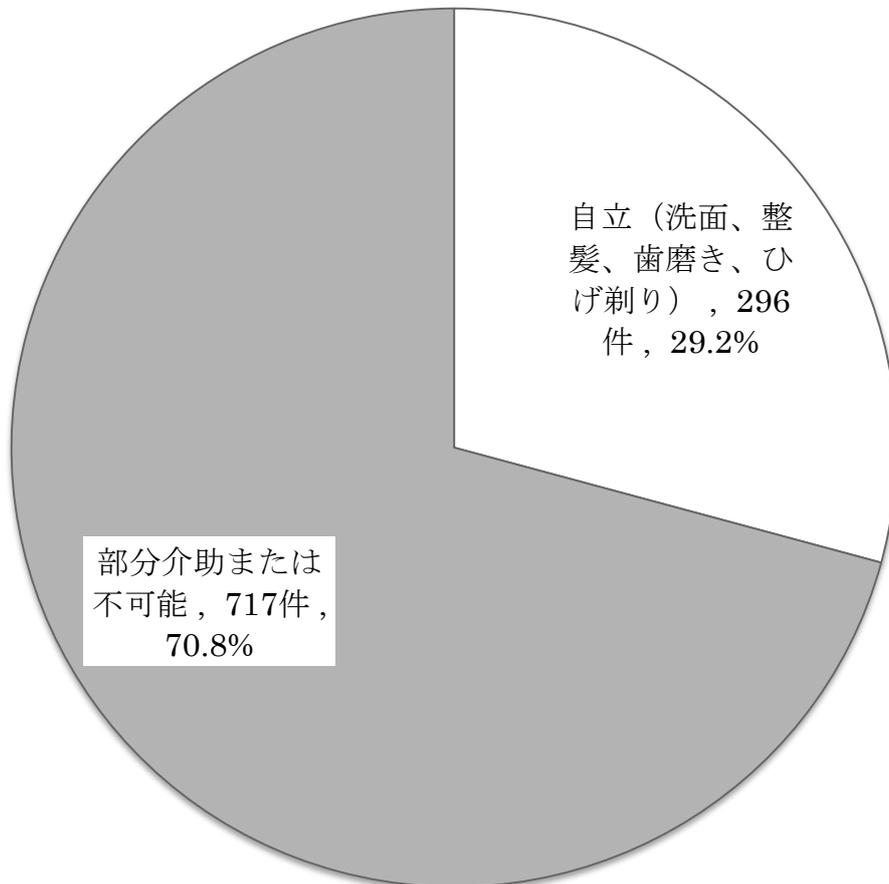


4-2-3. 整容

「整容」については、「部分介助または不可能」は 717 件（70.8%）、「自立（洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り）」は 296 件（29.2%）であった。

表 14 整容 [単位:件]

項目	件数	比率
自立（洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り）	296	29.2%
部分介助または不可能	717	70.8%
合計	1013	100.0%

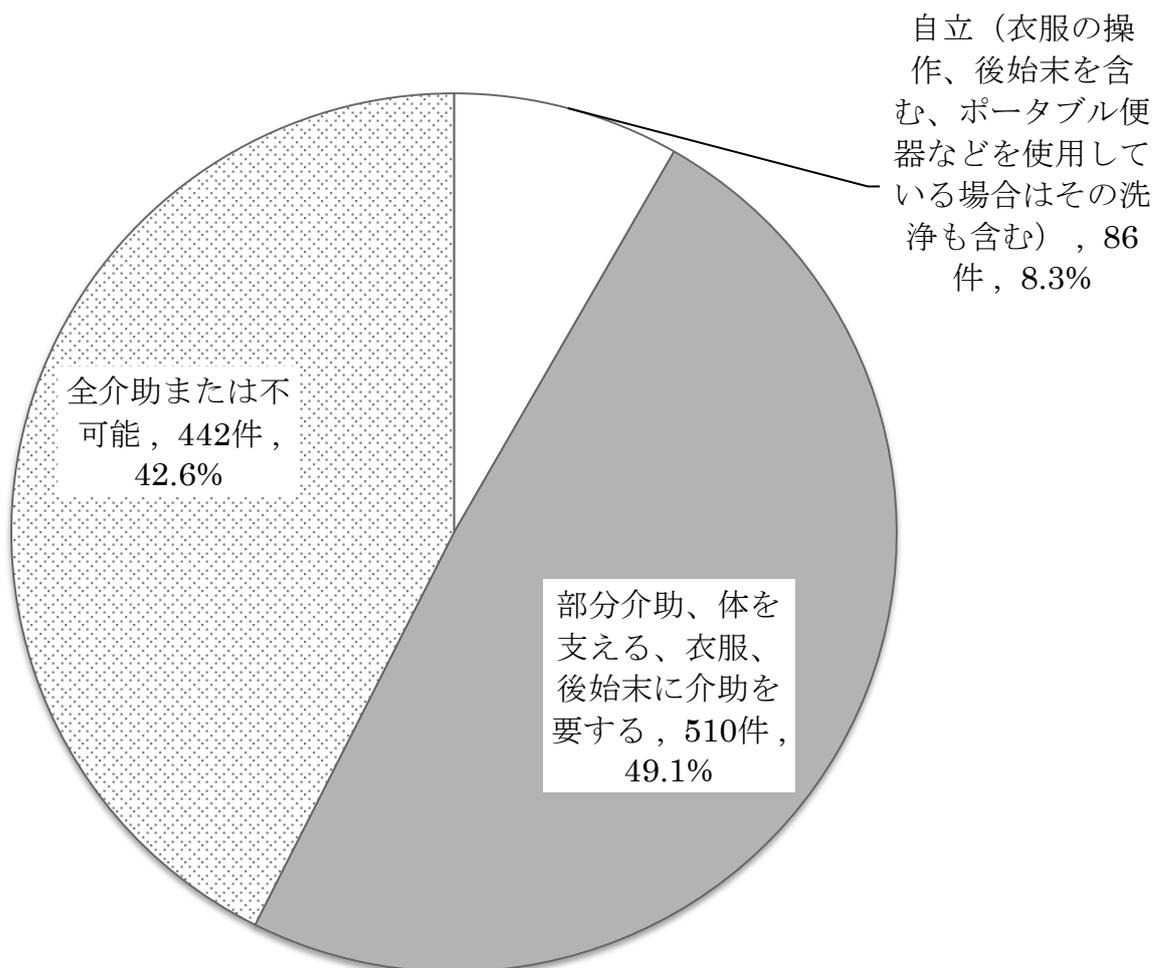


4-2-4. トイレ動作

「トイレ動作」については、「部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する」が 510 件（49.1%）で最も回答が多く、続いて「全介助または不可能」が 442 件（42.6%）で多く、そして、「自立（衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む）」が 86 件（8.3%）であった。

表 15 トイレ動作 [単位:件]

項目	件数	比率
自立（衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む）	86	8.3%
部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	510	49.1%
全介助または不可能	442	42.6%
合計	1038	100.0%

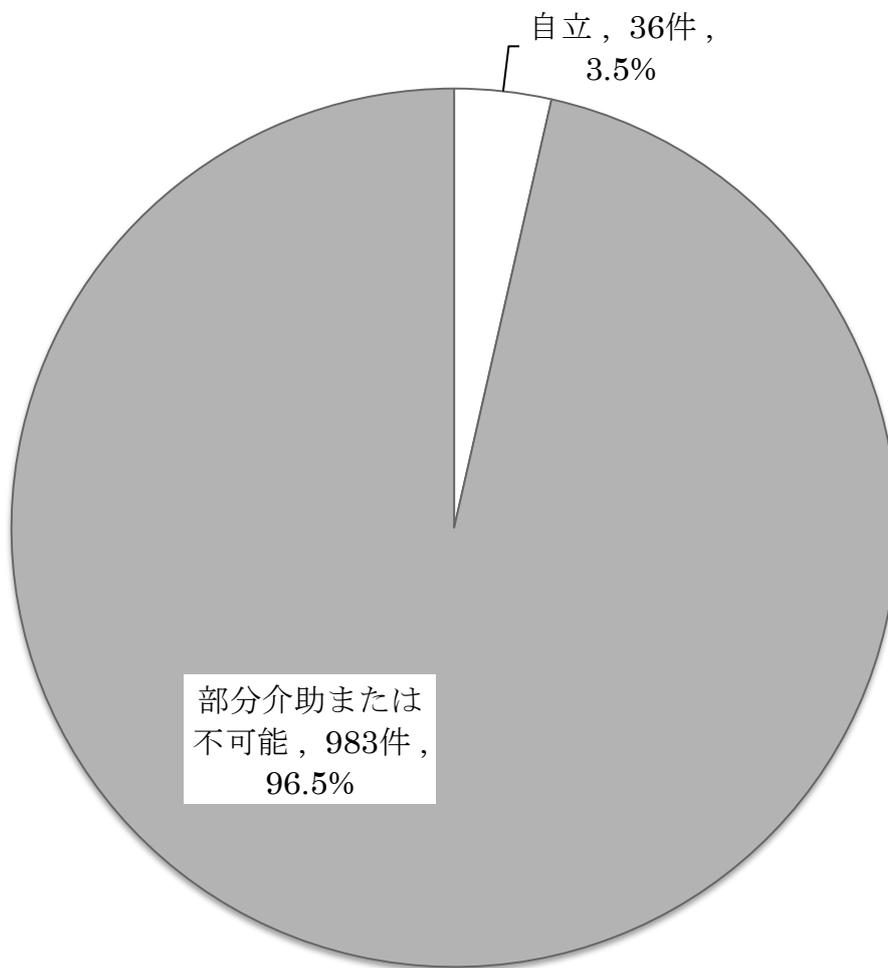


4-2-5. 入浴

「入浴」については、「部分介助または不可能」は983件（96.5%）、「自立」は36件（3.5%）であった。

表 16 入浴 [単位:件]

項目	件数	比率
自立	36	3.5%
部分介助または不可能	983	96.5%
合計	1019	100.0%

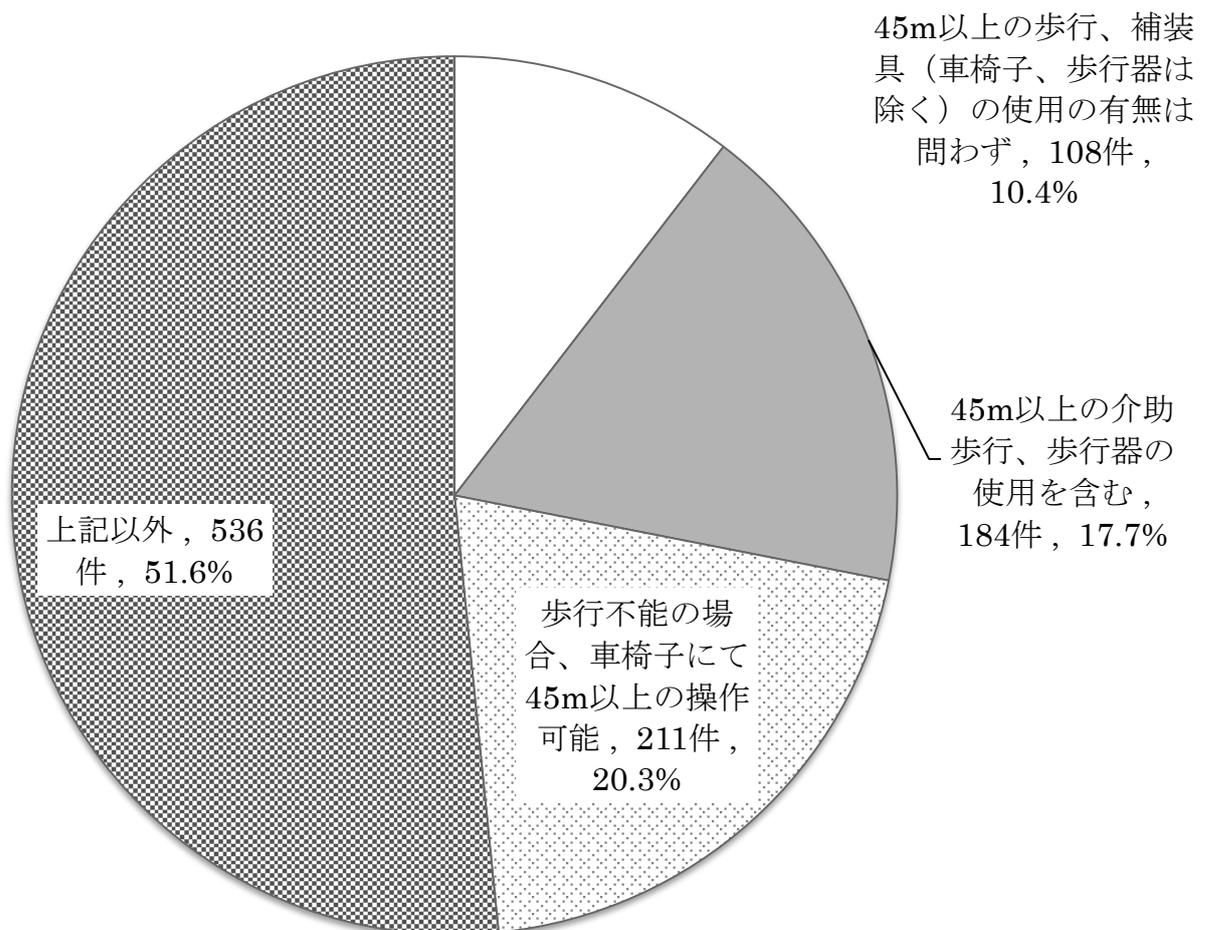


4-2-6. 歩行

「歩行」については、「上記以外」が 536 件（51.6%）で最も回答が多く、続いて「歩行不能の場合、車椅子にて 45m 以上の操作可能」が 211 件（20.3%）で多く、そして、「45m 以上の介助歩行、歩行器の使用を含む」が 184 件（17.7%）であった。上記以外は歩行不能で車椅子操作不能を示すとみてよい。

表 17 歩行 [単位:件]

項目	件数	比率
45m 以上の歩行、補装具（車椅子、歩行器は除く）の使用の有無は問わず	108	10.4%
45m 以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	184	17.7%
歩行不能の場合、車椅子にて 45m 以上の操作可能	211	20.3%
上記以外	536	51.6%
合計	1039	100.0%

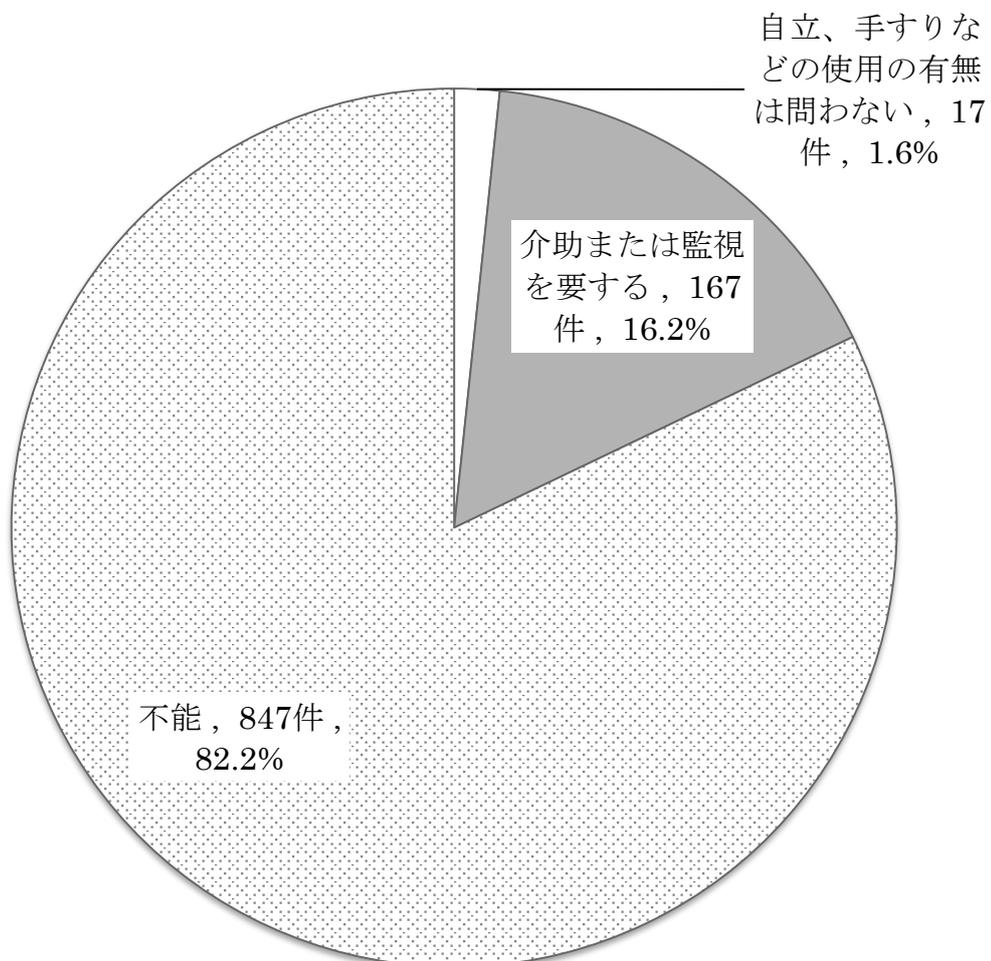


4-2-7. 階段昇降

「階段昇降」については、「不能」が 847 件（82.2%）で最も回答が多く、続いて「介助または監視を要する」が 167 件（16.2%）で多く、そして、「自立、手すりなどの使用の有無は問わない」が 17 件（1.6%）であった。

表 18 階段昇降 [単位:件]

項目	件数	比率
自立、手すりなどの使用の有無は問わない	17	1.6%
介助または監視を要する	167	16.2%
不能	847	82.2%
合計	1031	100.0%

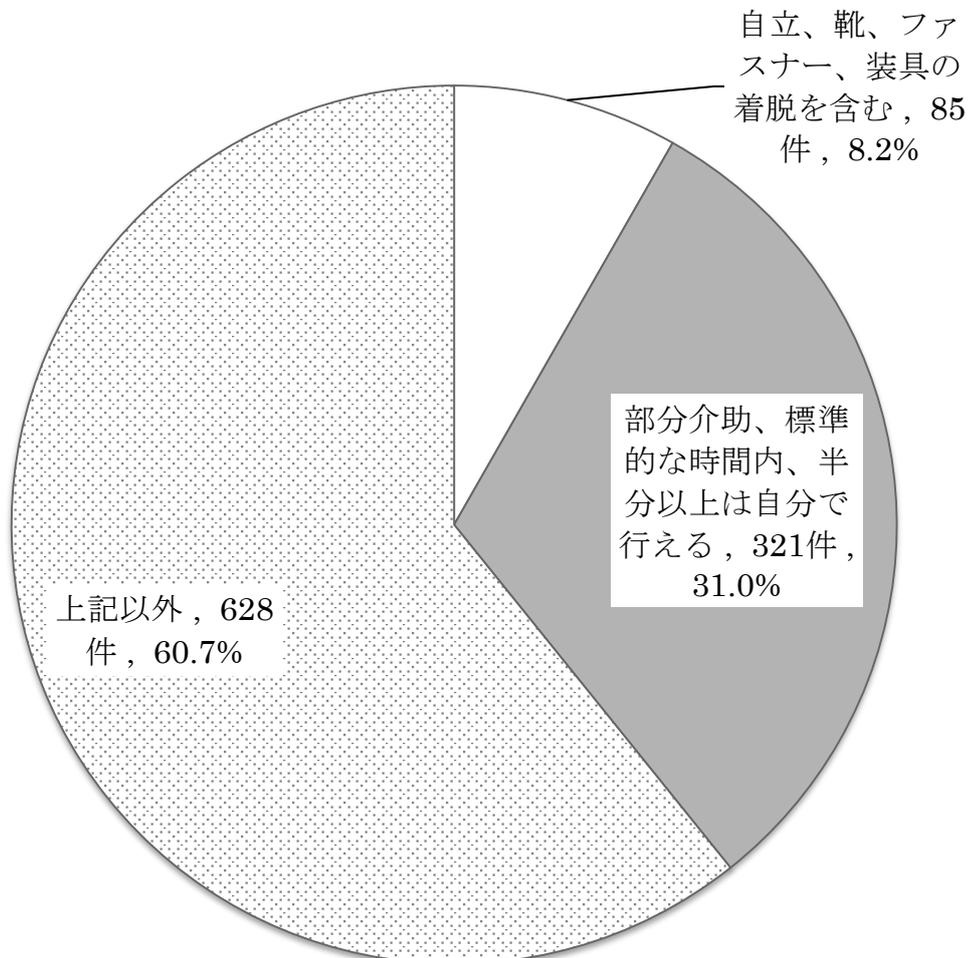


4-2-8. 着替え

「着替え」については、「上記以外」が 628 件（60.7%）で最も回答が多く、続いて「部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える」が 321 件（31.0%）で多く、そして、「自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む」が 85 件（8.2%）であった。上記以外は全介助であった。

表 30 着替え [単位:件]

項目	件数	比率
自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	85	8.2%
部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	321	31.0%
上記以外	628	60.7%
合計	1034	100.0%

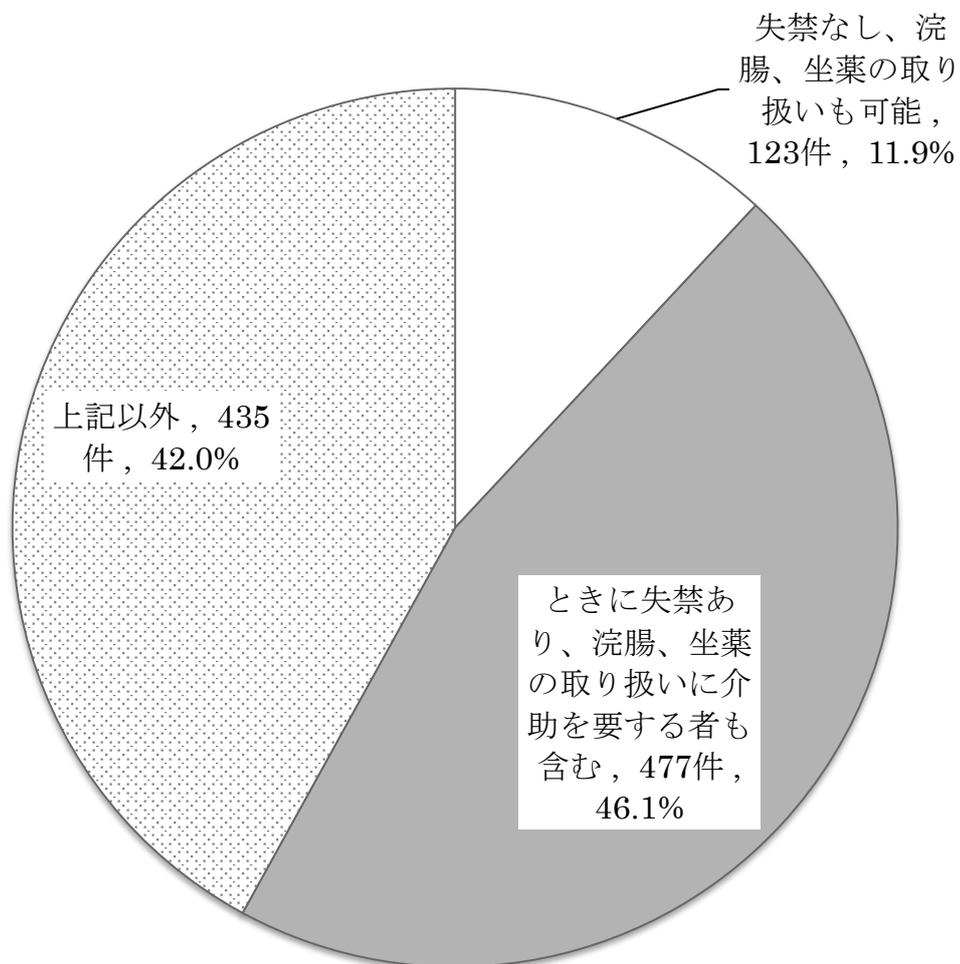


4-2-9. 排便コントロール

「排便コントロール」については、「ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む」が477件（46.1%）で最も回答が多く、続いて「上記以外」が435件（42.0%）で多く、そして、「失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能」が123件（11.9%）であった。上記以外はすべての排便が失禁であった。

表 19 排便コントロール [単位:件]

項目	件数	比率
失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	123	11.9%
ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	477	46.1%
上記以外	435	42.0%
合計	1035	100.0%

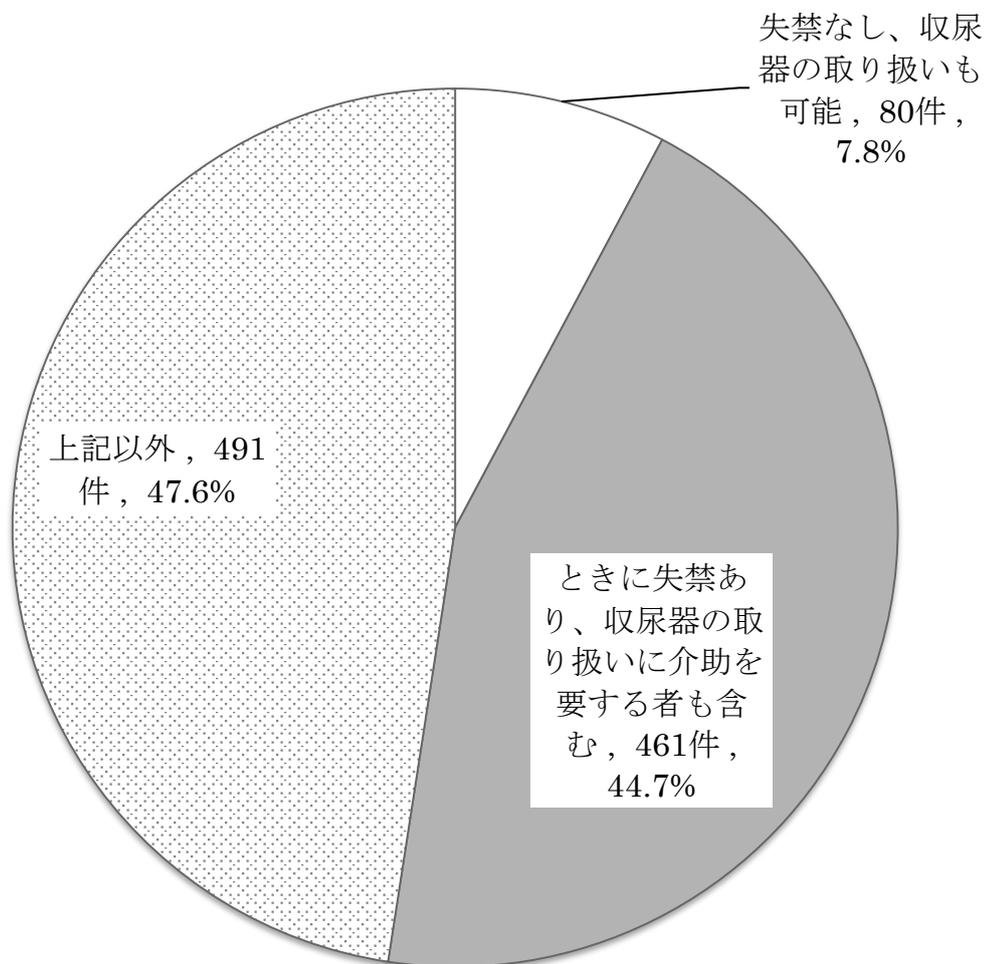


4-2-10. 排尿コントロール

「排尿コントロール」については、「上記以外」が 491 件（47.6%）で最も回答が多く、続いて「ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む」が 461 件（44.7%）で多く、そして、「失禁なし、収尿器の取り扱いも可能」が 80 件（7.8%）であった。上記以外はすべての排尿が失禁であった。

表 20 排尿コントロール [単位:件]

項目	件数	比率
失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	80	7.8%
ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	461	44.7%
上記以外	491	47.6%
合計	1032	100.0%



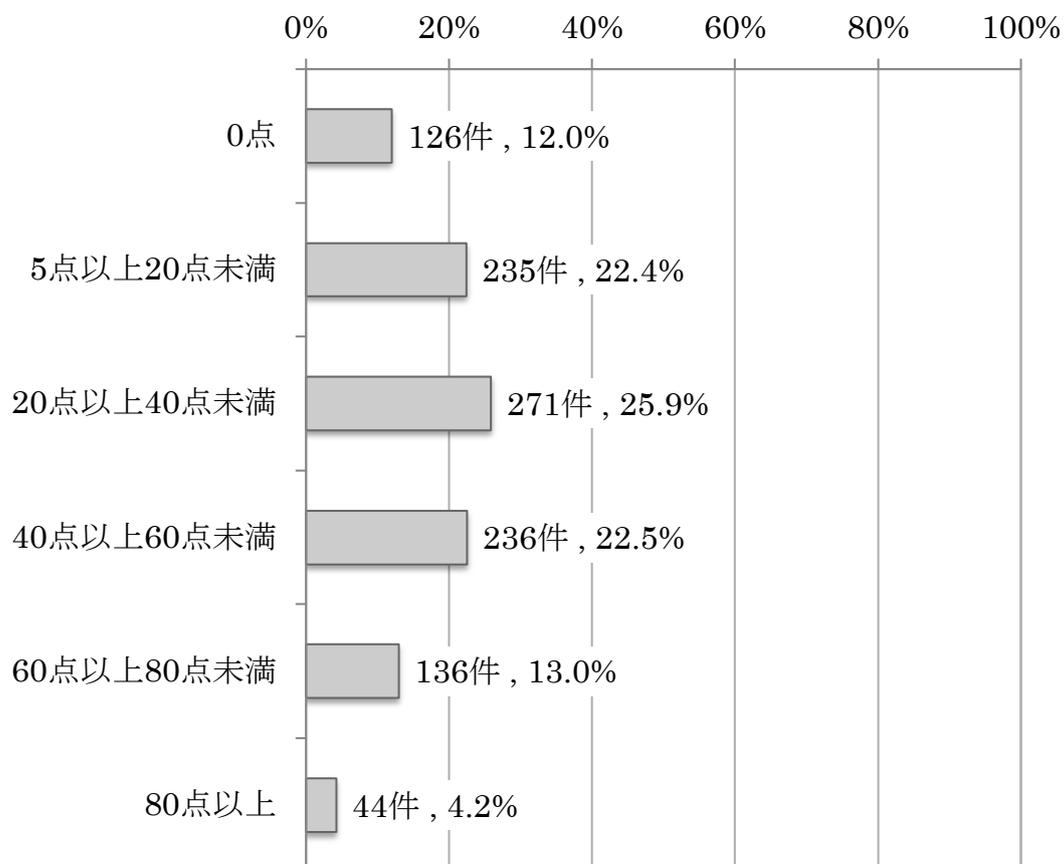
4-2-1 1. バーセルインデックス（機能的評価）合計

「バーセルインデックス（機能的評価）合計」については、「20点以上、40点未満」が271件（25.9%）で最も回答が多く、続いて「40点以上、60点未満」が236件（22.5%）で多く、そして、「5点以上、20点未満」が235件（22.4%）であった。

また、平均は32.0人、最大は100.0人、最小は0.0人であった。

表 21 バーセルインデックス（機能的評価）合計 [単位:件]

項目	件数	比率
0点	126	12.0%
5点以上、20点未満	235	22.4%
20点以上、40点未満	271	25.9%
40点以上、60点未満	236	22.5%
60点以上、80点未満	136	13.0%
80点以上	44	4.2%
合計	1048	100.0%



4-3. 基本ケア

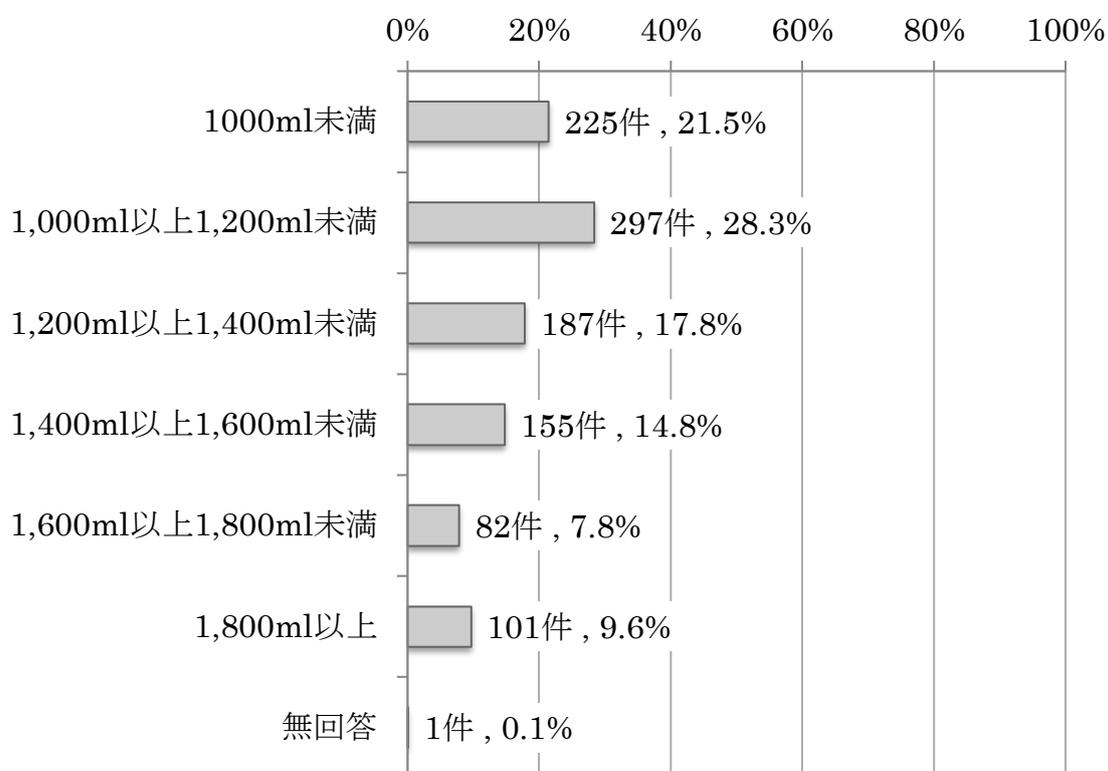
4-3-1. 平均的な1日の水分摂取量

「平均的な1日の水分摂取量」については、「1,000ml以上、1,200ml未満」が297件(28.3%)で最も回答が多く、続いて「1000ml未満」が225件(21.5%)で多く、そして、「1,200ml以上、1,400ml未満」が187件(17.8%)であった。

また、平均は1220.0ml、最大は3440.0ml、最小は100.0mlであった。

表 22 平均的な1日の水分摂取量 [単位:件]

項目	件数	比率
1000ml未満	225	21.5%
1,000ml以上、1,200ml未満	297	28.3%
1,200ml以上、1,400ml未満	187	17.8%
1,400ml以上、1,600ml未満	155	14.8%
1,600ml以上、1,800ml未満	82	7.8%
1,800ml以上	101	9.6%
無回答	1	0.1%
合計	1048	100.0%

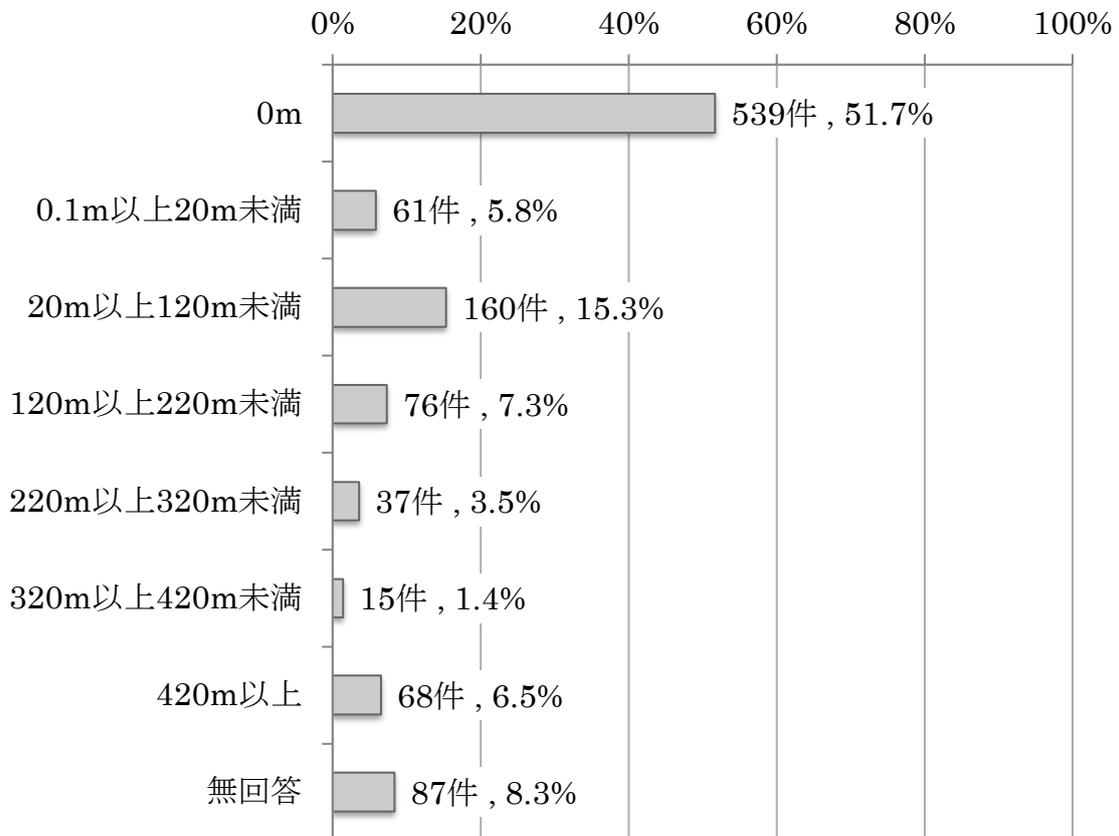


4-3-2. 平均的な1日の歩行量

「平均的な1日の歩行量」については、「0m」が539件（51.7%）で最も回答が多く、続いて「20m以上、120m未満」が160件（15.3%）で多く、そして、「120m以上、220m未満」が76件（7.3%）であった。また、平均は97.7m、最大は2000.0m、最小は0.0mであった。

表 23 平均的な1日の歩行量 [単位:件]

項目	件数	比率
0m	539	51.7%
0.1m以上、20m未満	61	5.8%
20m以上、120m未満	160	15.3%
120m以上、220m未満	76	7.3%
220m以上、320m未満	37	3.5%
320m以上、420m未満	15	1.4%
420m以上	68	6.5%
無回答	87	8.3%
合計	1043	100.0%



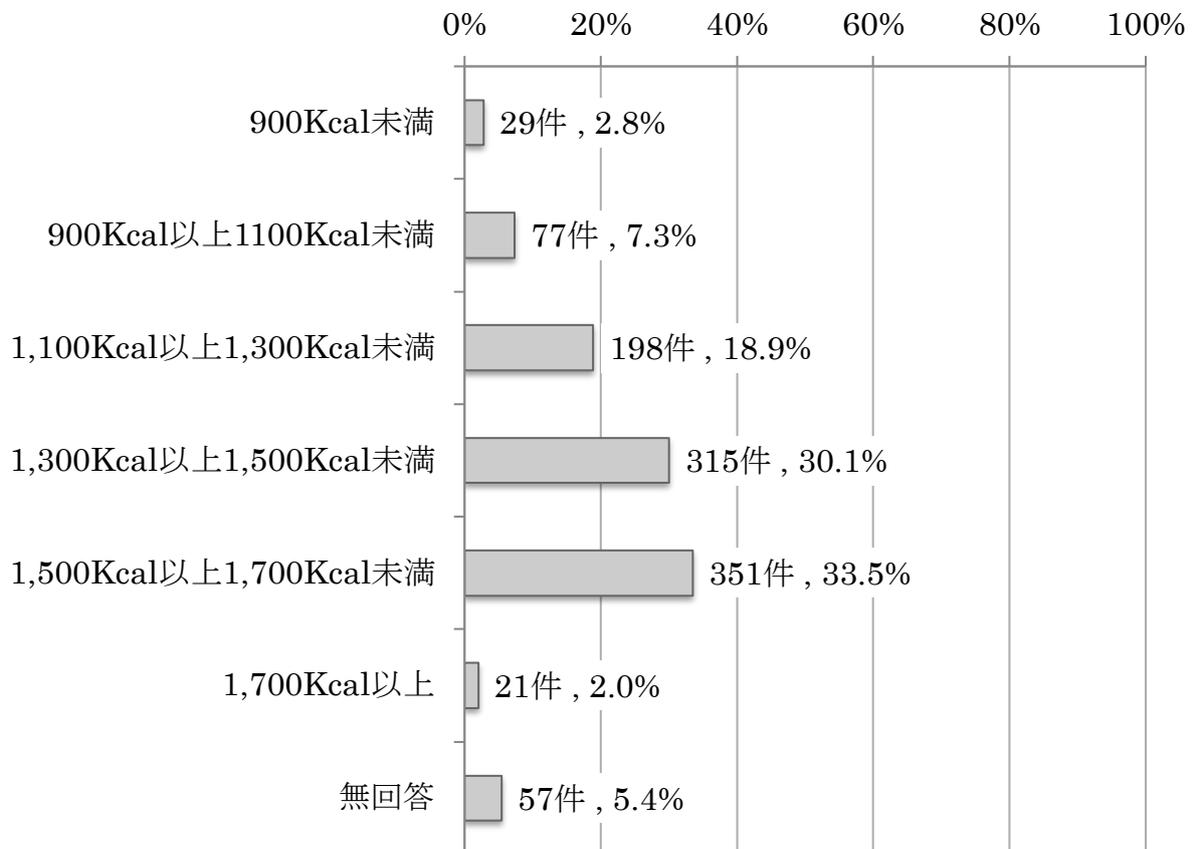
4-3-3. 平均的な1日の食事摂取カロリー

「平均的な1日の食事摂取カロリー」については、「1,500Kcal以上、1,700Kcal未満」が351件(33.5%)で最も回答が多く、続いて「1,300Kcal以上、1,500Kcal未満」が315件(30.1%)で多く、そして、「1,100Kcal以上、1,300Kcal未満」が198件(18.9%)であった。

また、平均は1364.0人、最大は2312.0人、最小は500.0人であった。

表 24 平均的な1日の食事摂取カロリー [単位:件]

項目	件数	比率
900Kcal未満	29	2.8%
900Kcal以上、1100Kcal未満	77	7.3%
1,100Kcal以上、1,300Kcal未満	198	18.9%
1,300Kcal以上、1,500Kcal未満	315	30.1%
1,500Kcal以上、1,700Kcal未満	351	33.5%
1,700Kcal以上	21	2.0%
無回答	57	5.4%
合計	1048	100.0%

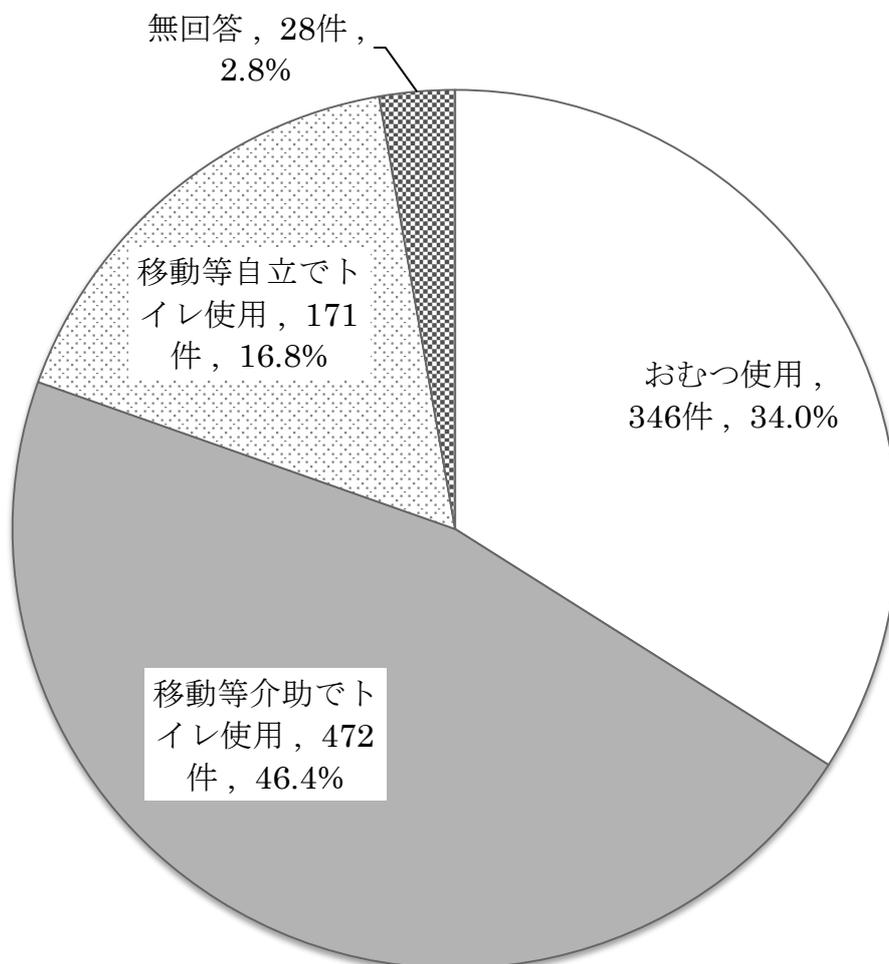


4-3-4. 排泄様式

「排泄様式」については、「移動等介助でトイレ使用」が 472 件（46.4%）で最も回答が多く、続いて「おむつ使用」が 346 件（34.0%）で多く、そして、「移動等自立でトイレ使用」が 171 件（16.8%）であった。

表 25 排泄様式 [単位:件]

項目	件数	比率
おむつ使用	346	34.0%
移動等介助でトイレ使用	472	46.4%
移動等自立でトイレ使用	171	16.8%
無回答	28	2.8%
合計	1017	100.0%



4-4. 食事の状況

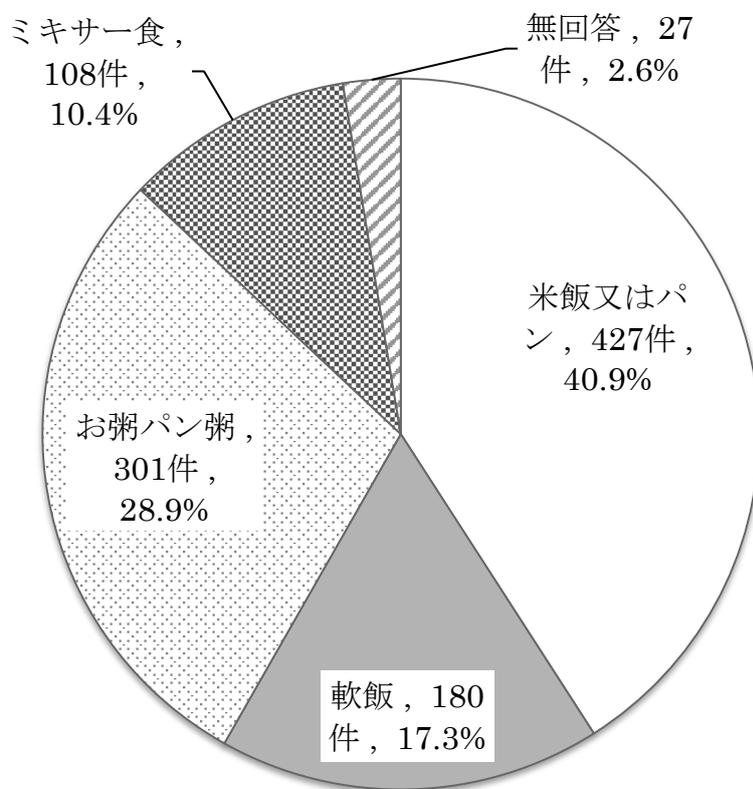
4-4-1. 食形態

主食

「主食」については、「米飯又はパン」が427件（40.9%）で最も回答が多く、続いて「お粥パン粥」が301件（28.9%）で多く、そして、「軟飯」が180件（17.3%）であった。

表 26 主食 [単位:件]

項目	件数	比率
米飯又はパン	427	40.9%
軟飯	180	17.3%
お粥パン粥	301	28.9%
ミキサー食	108	10.4%
無回答	27	2.6%
合計	1043	100.0%

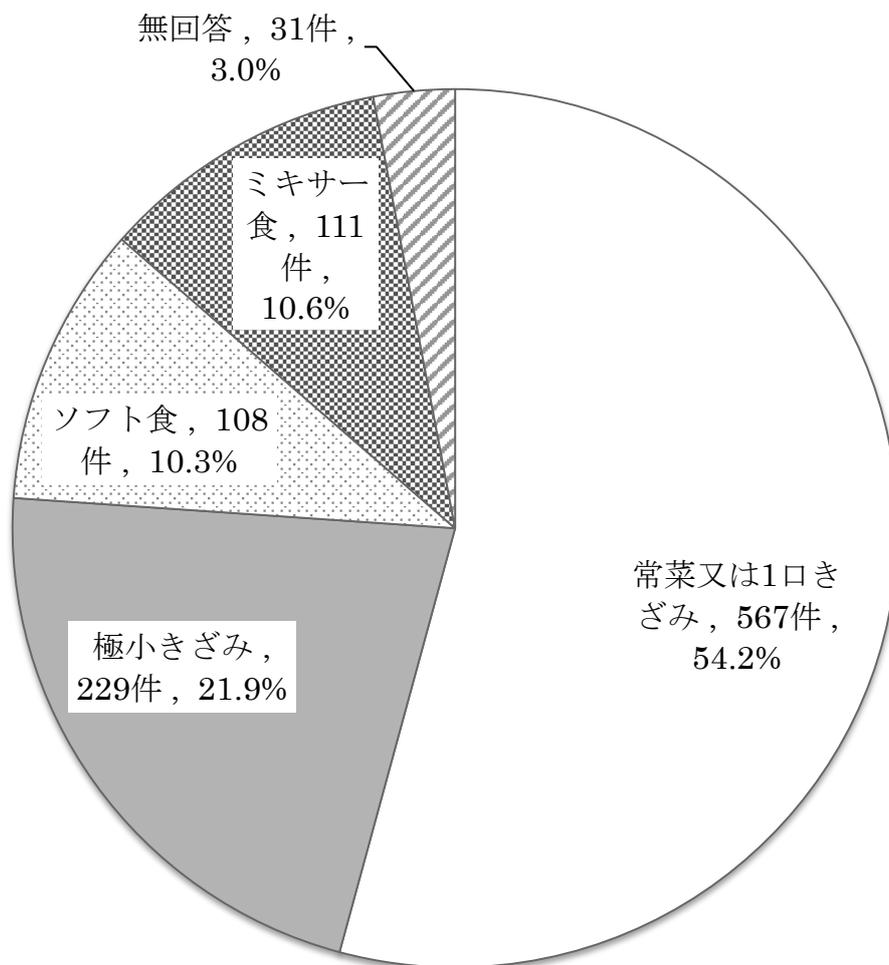


副食

「副食」については、「常菜又は1口きざみ」が567件（54.2%）で最も回答が多く、続いて「極小きざみ」が229件（21.9%）で多く、そして、「ミキサー食」が111件（10.6%）であった。

表 27 副食 [単位:件]

項目	件数	比率
常菜又は1口きざみ	567	54.2%
極小きざみ	229	21.9%
ソフト食	108	10.3%
ミキサー食	111	10.6%
無回答	31	3.0%
合計	1046	100.0%

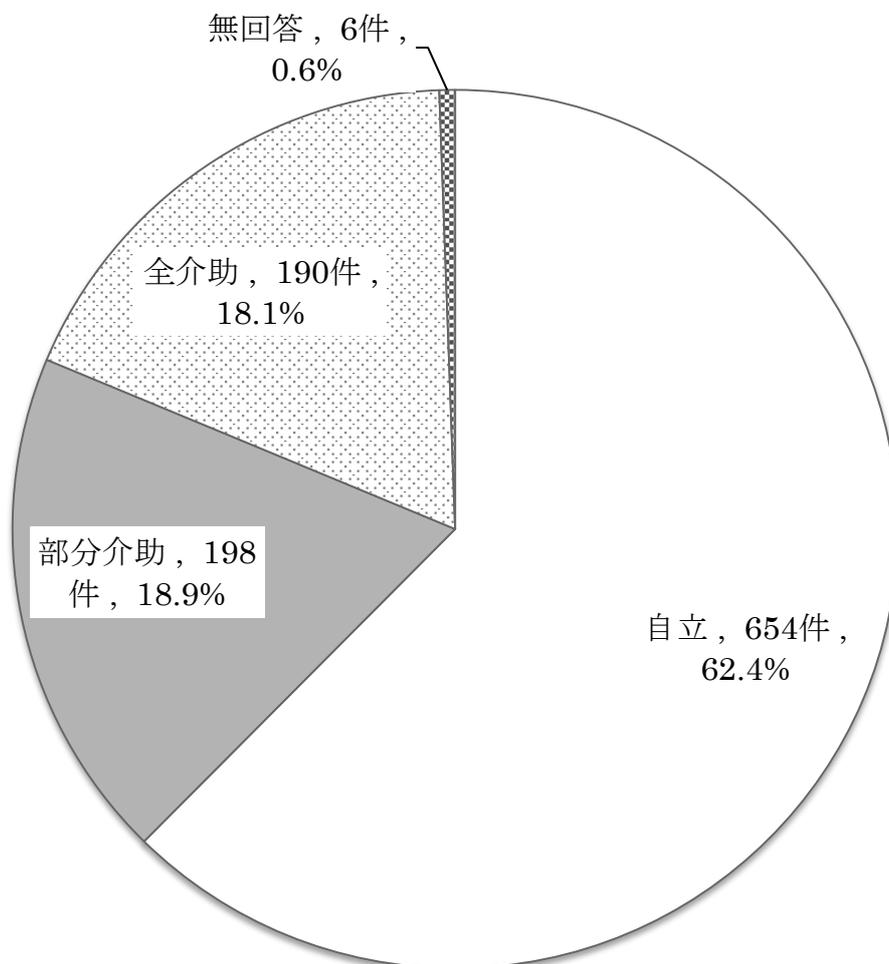


4-4-2. 食事動作

「食事動作」については、「自立」が654件(62.4%)で最も回答が多く、続いて「部分介助」が198件(18.9%)で多く、そして、「全介助」が190件(18.1%)であった。

表 40 食事動作 [単位:件]

項目	件数	比率
自立	654	62.4%
部分介助	198	18.9%
全介助	190	18.1%
無回答	6	0.6%
合計	1048	100.0%



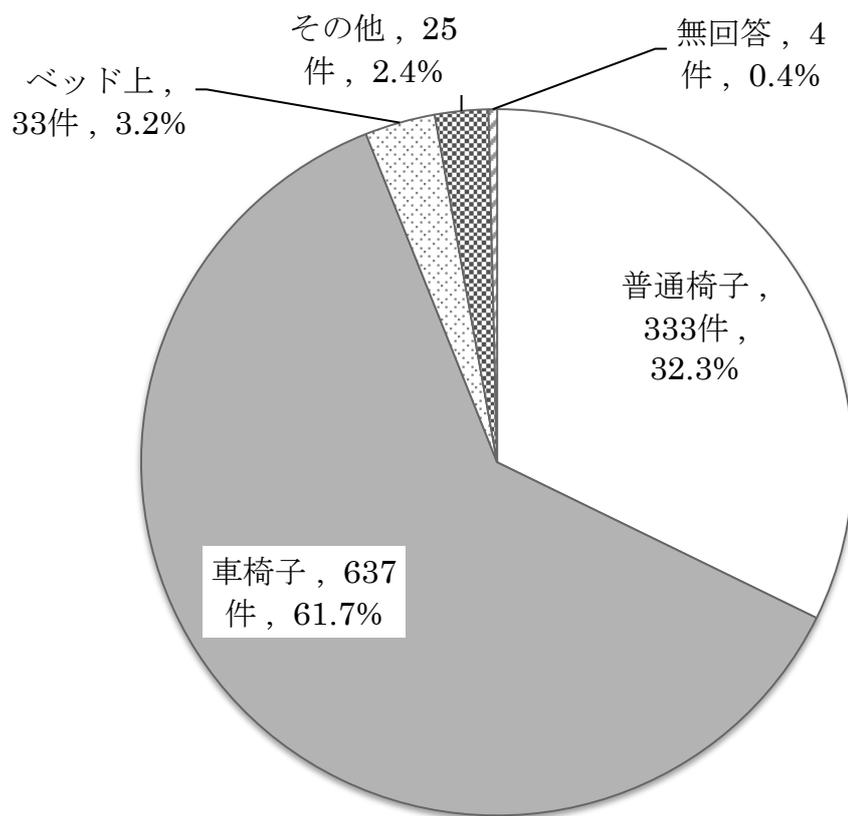
4-4-3. 姿勢

「姿勢」については、「車椅子」が 637 件 (61.7%) で最も回答が多く、続いて「普通椅子」が 333 件 (32.3%) で多く、そして、「ベッド上」が 33 件 (3.2%) であった。

「姿勢 (その他の内容)」としては、次の回答があった。「スウィング式車イス」、「ティルトリクライニング車イス」、「リクライニング型車イス」、「椅子」、「ソファー」であった。

表 28 姿勢 [単位:件]

項目	件数	比率
普通椅子	333	32.3%
車椅子	637	61.7%
ベッド上	33	3.2%
その他	25	2.4%
無回答	4	0.4%
合計	1032	100.0%

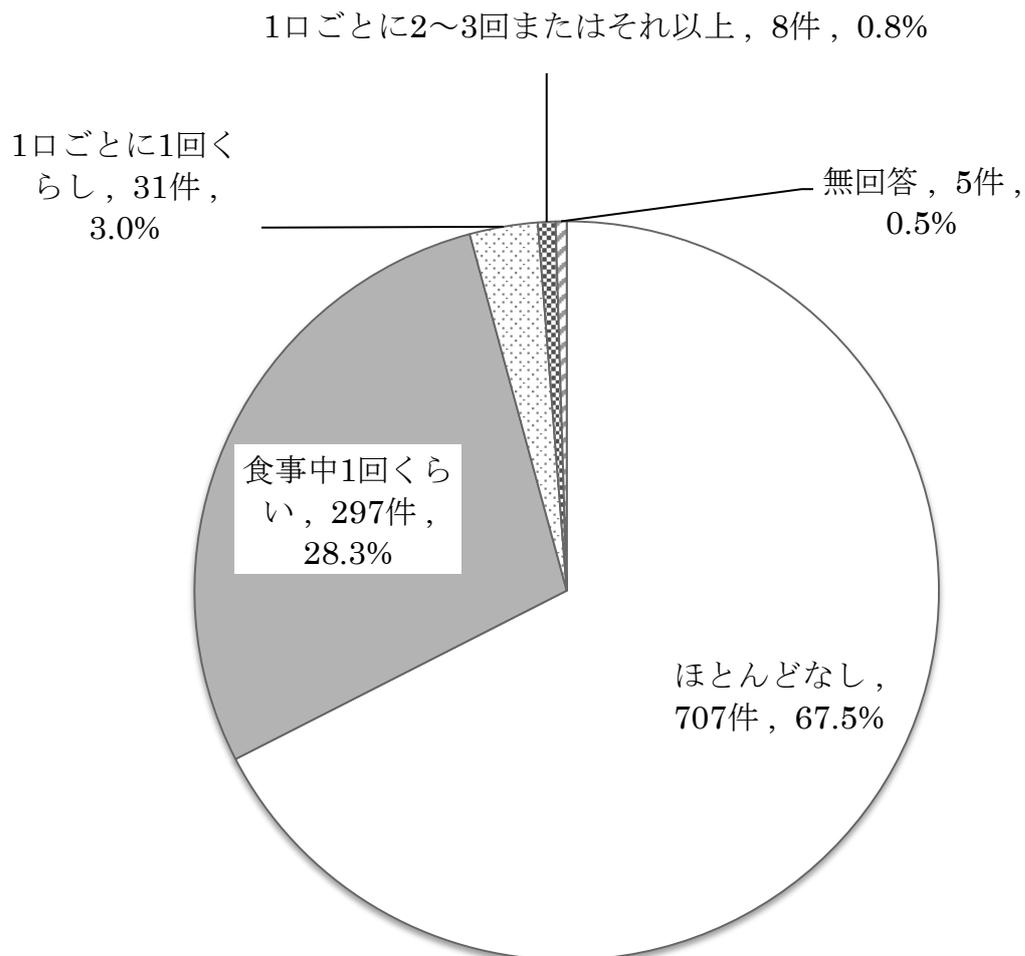


4-4-4. むせの有無

「むせの有無」については、「ほとんどなし」が707件（67.5%）で最も回答が多く、続いて「食事中1回くらい」が297件（28.3%）で多く、そして、「1口ごとに1回くらい」が31件（3.0%）であった。

表 29 むせの有無 [単位:件]

項目	件数	比率
ほとんどなし	707	67.5%
食事中1回くらい	297	28.3%
1口ごとに1回くらい	31	3.0%
1口ごとに2～3回またはそれ以上	8	0.8%
無回答	5	0.5%
合計	1048	100.0%



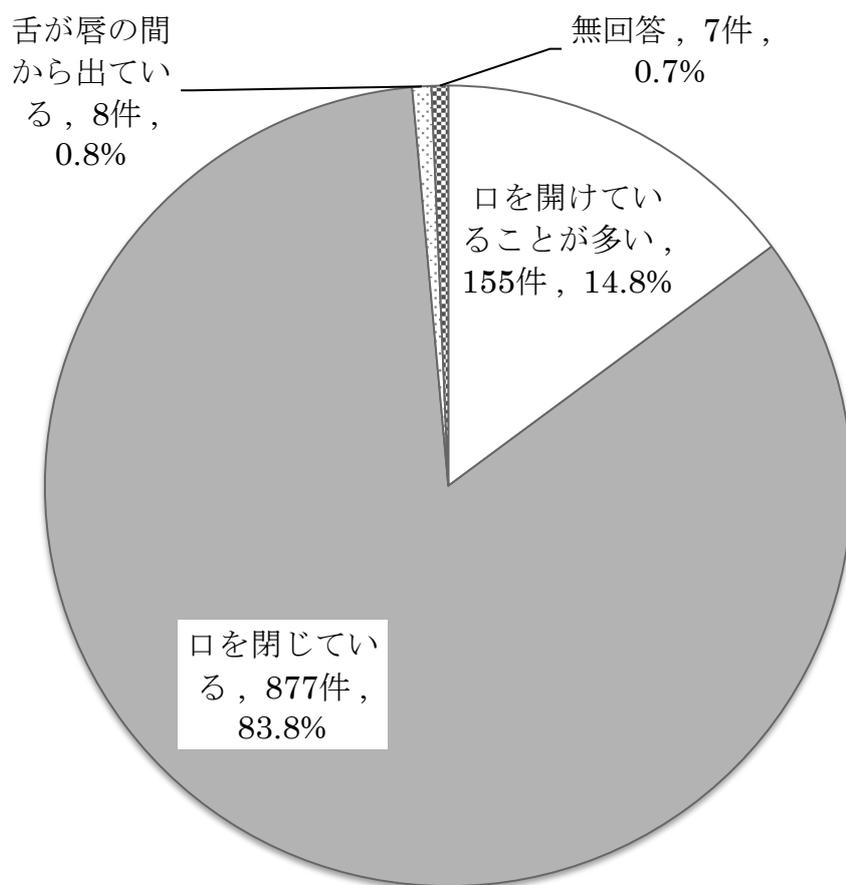
4-5. 口の状況

4-5-1. ふだん（日常）の状態

「ふだん（日常）の状態」については、「口を閉じている」が 877 件（83.8%）で最も回答が多く、続いて「口を開けていることが多い」が 155 件（14.8%）で多く、そして、「舌が唇の間から出ている」が 8 件（0.8%）であった。

表 30 ふだんの状態 [単位:件]

項目	件数	比率
口を開けていることが多い	155	14.8%
口を閉じている	877	83.8%
舌が唇の間から出ている	8	0.8%
無回答	7	0.7%
合計	1047	100.0%



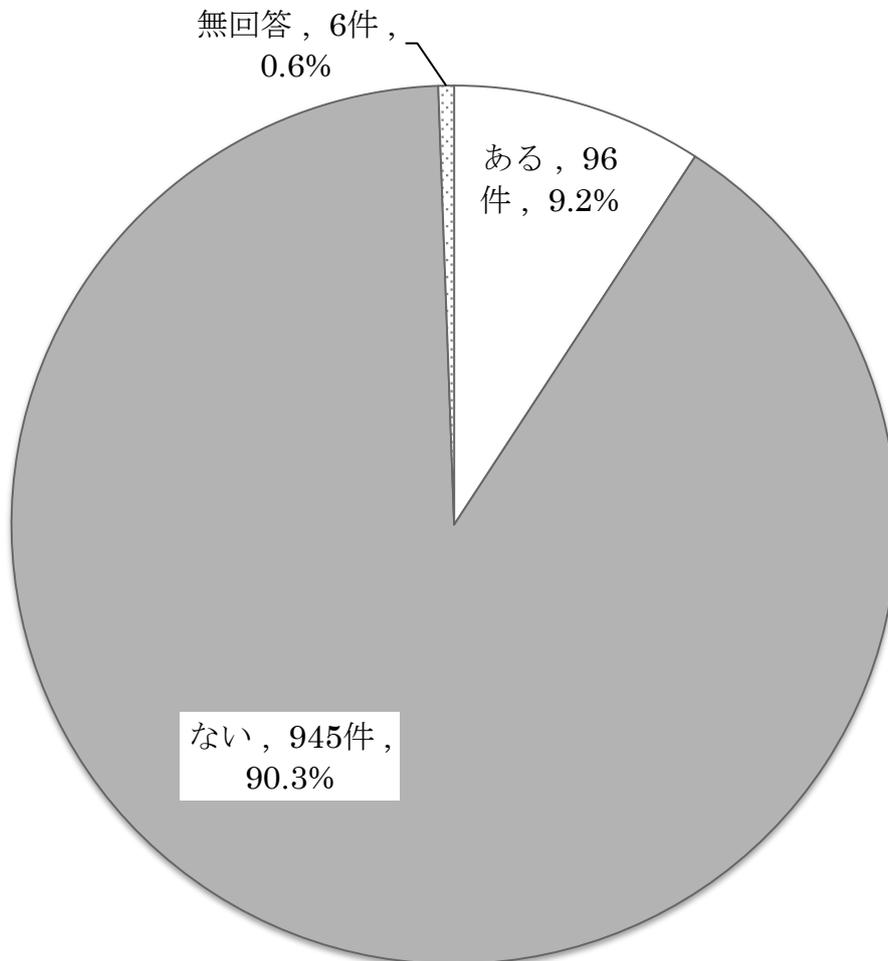
4-5-2. 歯肉（歯ぐき）などの状態

痛み、腫れ、出血など

「痛み、腫れ出血など」については、「ない」は945件（90.3%）、「ある」は96件（9.2%）であった。

表 31 痛み、腫れ出血など [単位:件]

項目	件数	比率
ある	96	9.2%
ない	945	90.3%
無回答	6	0.6%
合計	1047	100.0%

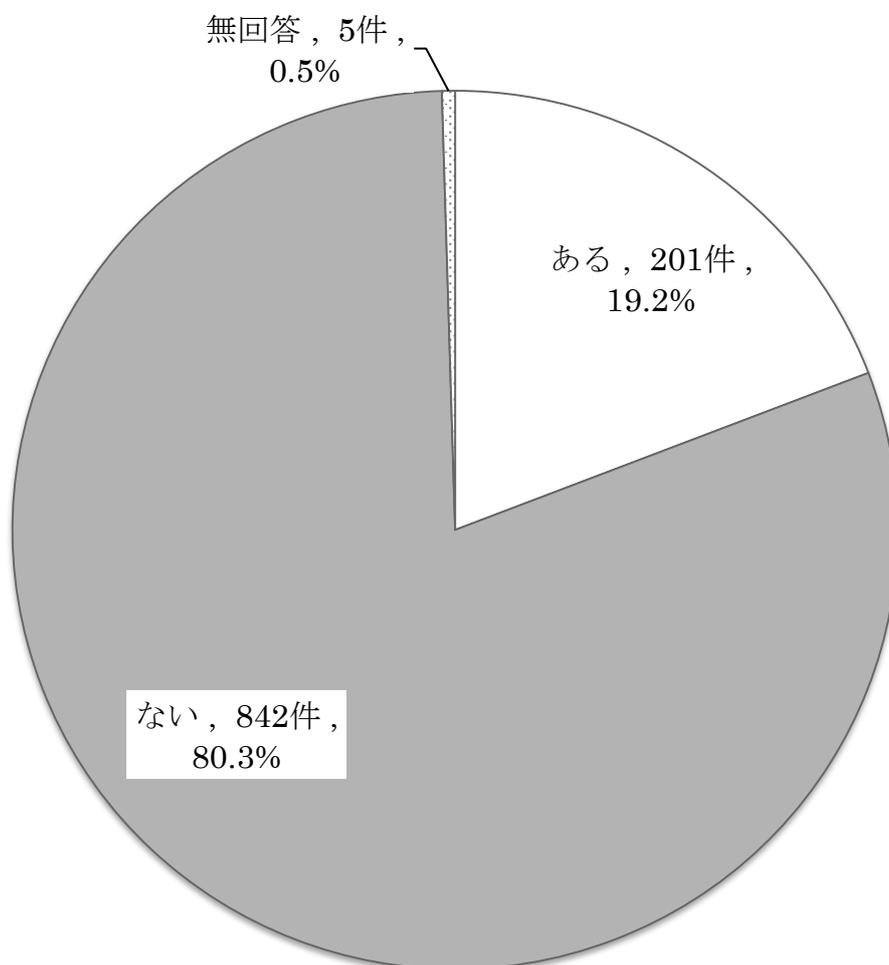


口臭

「口臭」については、「ない」は842件（80.3%）、「ある」は201件（19.2%）であった。

表 32 口臭 [単位:件]

項目	件数	比率
ある	201	19.2%
ない	842	80.3%
無回答	5	0.5%
合計	1048	100.0%

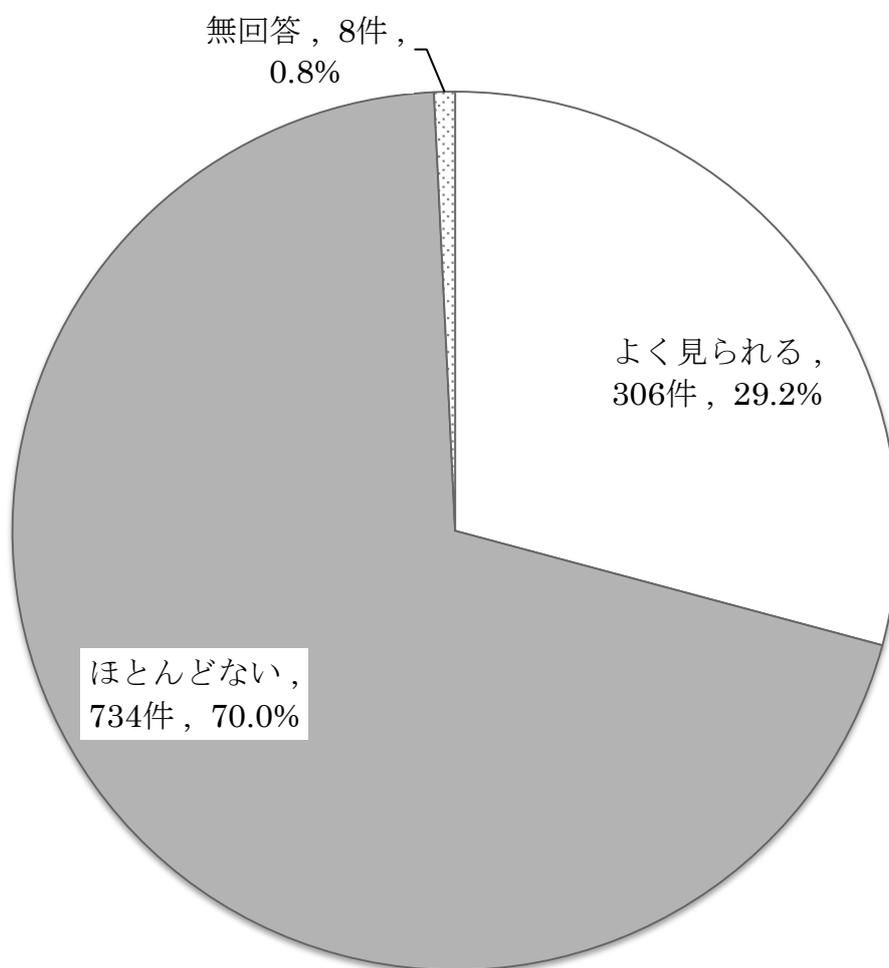


残渣（食べかす）

「残渣（食べかす）」については、「ほとんどない」は734件（70.0%）、「よく見られる」は306件（29.2%）であった。

表 33 残渣（食べかす） [単位:件]

項目	件数	比率
よく見られる	306	29.2%
ほとんどない	734	70.0%
無回答	8	0.8%
合計	1048	100.0%



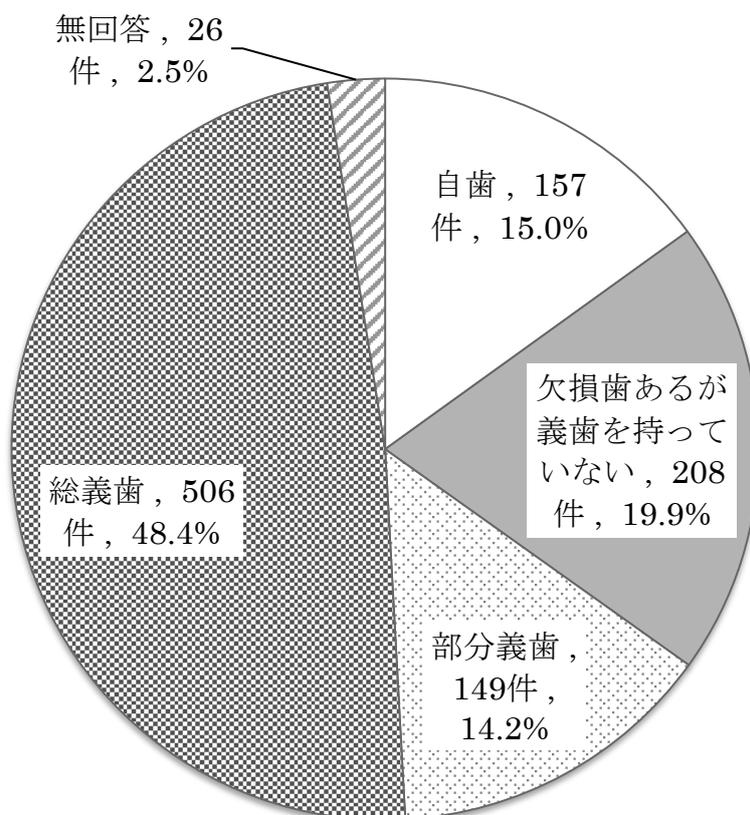
4-6. 歯と義歯

4-6-1. 上顎

「上顎」は、「総義歯」が506件(48.4%)で最も回答が多く、続いて「欠損歯あるが義歯を持っていない」が208件(19.9%)で多く、そして、「自歯」が157件(15.0%)であった。

表 34 上顎 [単位:件]

項目	件数	比率
自歯(欠損歯なし)	157	15.0%
欠損歯あるが義歯を持っていない	208	19.9%
部分義歯	149	14.2%
総義歯	506	48.4%
無回答	26	2.5%
合計	1046	100.0%

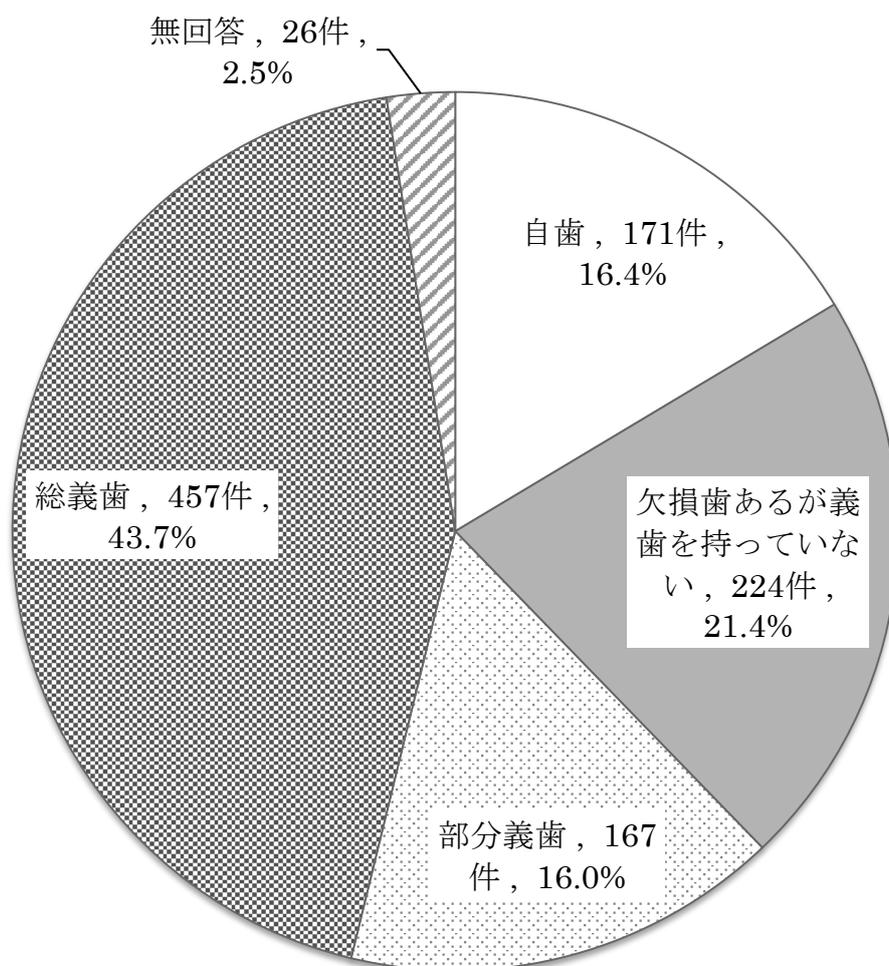


4-6-2. 下顎

「下顎」は、「総義歯」が 457 件 (43.7%) で最も回答が多く、続いて「欠損歯あるが義歯を持っていない」が 224 件 (21.4%) で多く、そして、「自歯」が 171 件 (16.4%) であった。

表 35 下顎 [単位:件]

項目	件数	比率
自歯 (欠損歯なし)	171	16.4%
欠損歯あるが義歯を持っていない	224	21.4%
部分義歯	167	16.0%
総義歯	457	43.7%
無回答	26	2.5%
合計	1045	100.0%



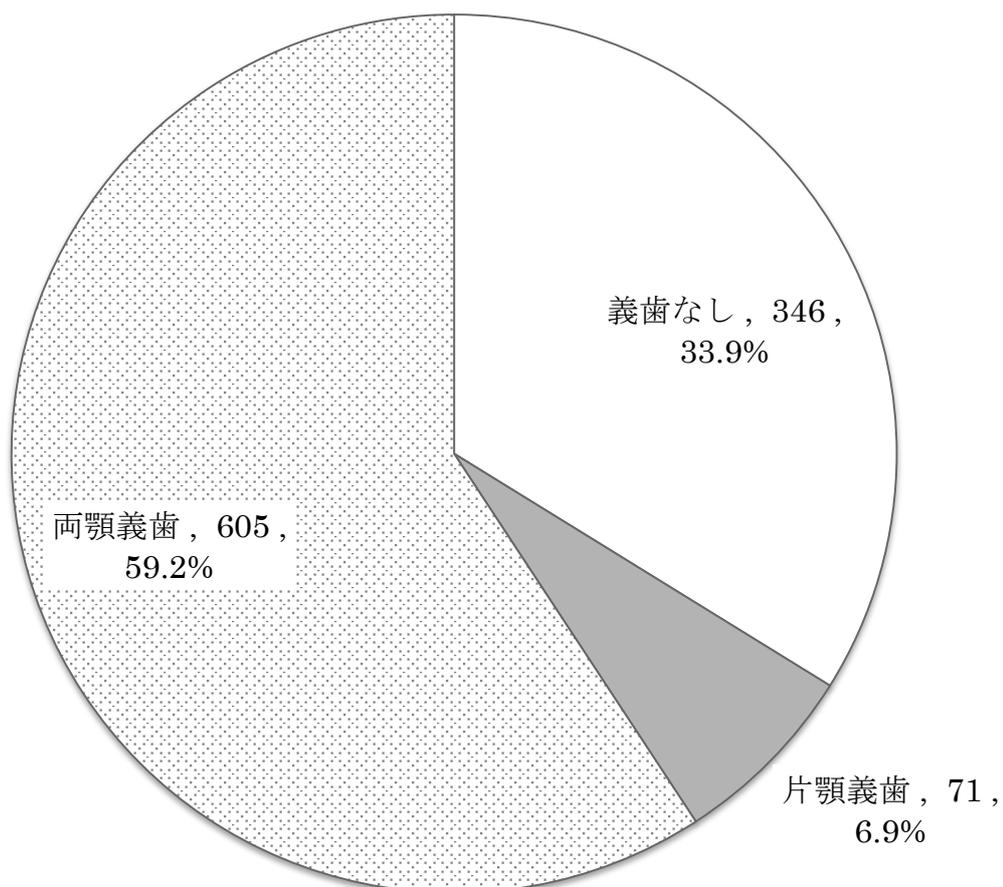
4-6-3. 義歯の有無

「義歯の有無」については、「両顎義歯」が 605 件 (59.2%) で最も回答が多く、続いて「義歯なし」が 346 件 (33.9%) で多く、そして、「片顎義歯」が 71 件 (6.9%) であった。

※ 「義歯の有無」の選択肢の定義については、「2. 集計結果の留意点」に記載。

表 49 義歯の有無 [単位:]

項目	件数	比率
義歯なし	346	33.9%
片顎義歯	71	6.9%
両顎義歯	605	59.2%
合計	1022	100.0%



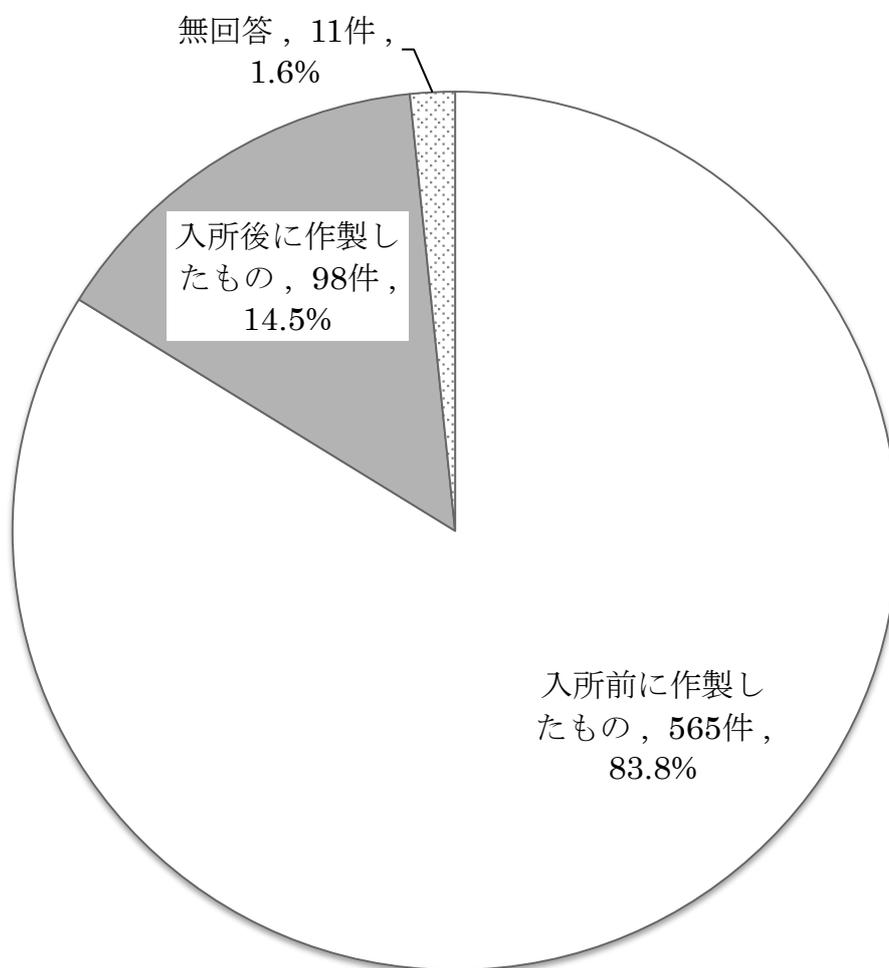
4-6-4. 義歯の作成時期

「義歯の作成時期」については、「入所前に作製したもの」は565件（83.8%）、「入所後に作製したもの」は98件（14.5%）であった。

※「片顎義歯」、「両顎義歯」のデータのみを集計対象とした。

表 50 義歯の作成時期 [単位:件]

項目	件数	比率
入所前に作製したもの	565	83.8%
入所後に作製したもの	98	14.5%
無回答	11	1.6%
合計	674	100.0%



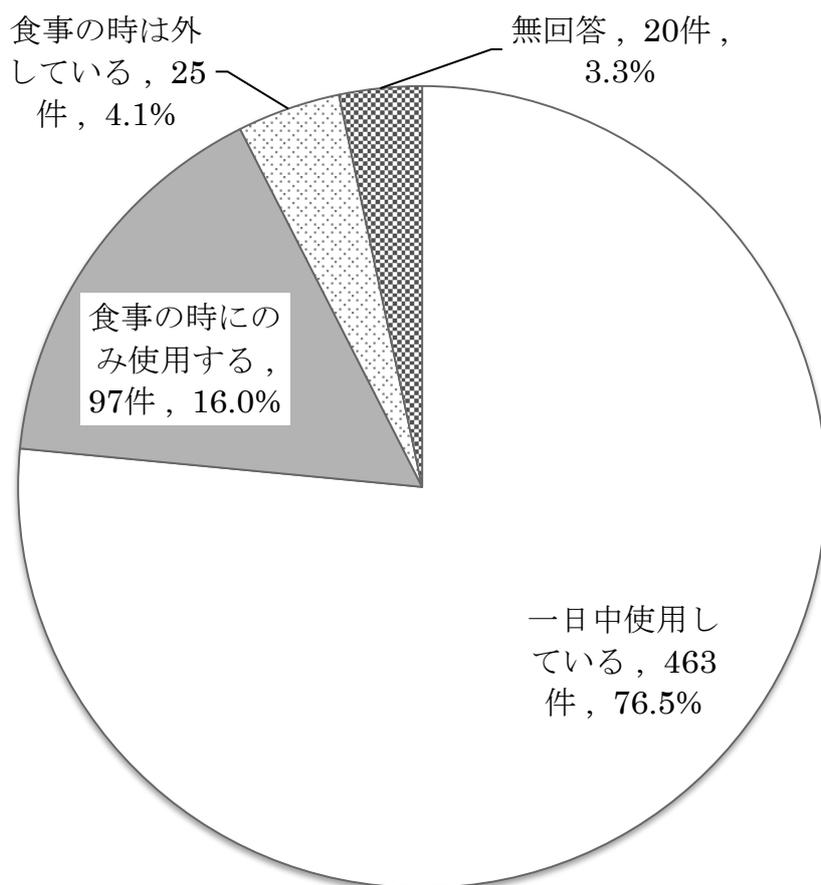
4-6-5. 義歯の使用状況

「義歯の使用状況」については、「一日中使用している」が463件（76.5%）で最も回答が多く、続いて「食事の時にのみ使用する」が97件（16.0%）で多く、そして、「食事の時は外している」が25件（4.1%）であった。

※「両顎義歯」のデータのみを集計対象とした。

表 51 義歯の使用状況 [単位:件]

項目	件数	比率
一日中使用している	463	76.5%
食事の時にのみ使用する	97	16.0%
食事の時は外している	25	4.1%
無回答	20	3.3%
合計	605	100.0%



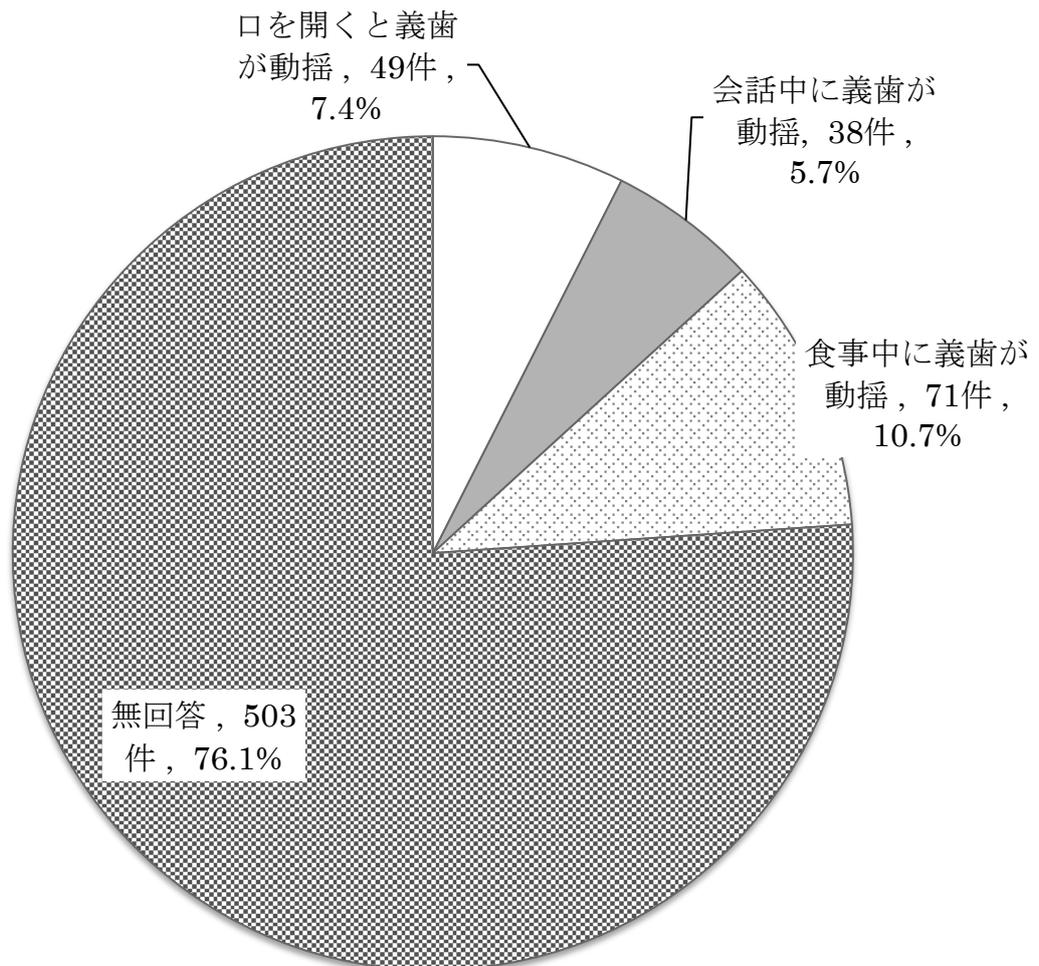
4-6-6. 義歯の適合性

「義歯の適合性」については、「食事中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する」が71件（10.7%）で最も回答が多く、続いて「口を開くと義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する」が49件（7.4%）で多く、そして、「会話中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する」が38件（5.7%）であった。

※「片顎義歯」、「両顎義歯」のデータのみを集計対象とした。

表 52 義歯の適合性 [単位:件]

項目	件数	比率
口を開くと義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する	49	7.4%
会話中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する	38	5.7%
食事中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する	71	10.7%
無回答	503	76.1%
合計	661	100.0%

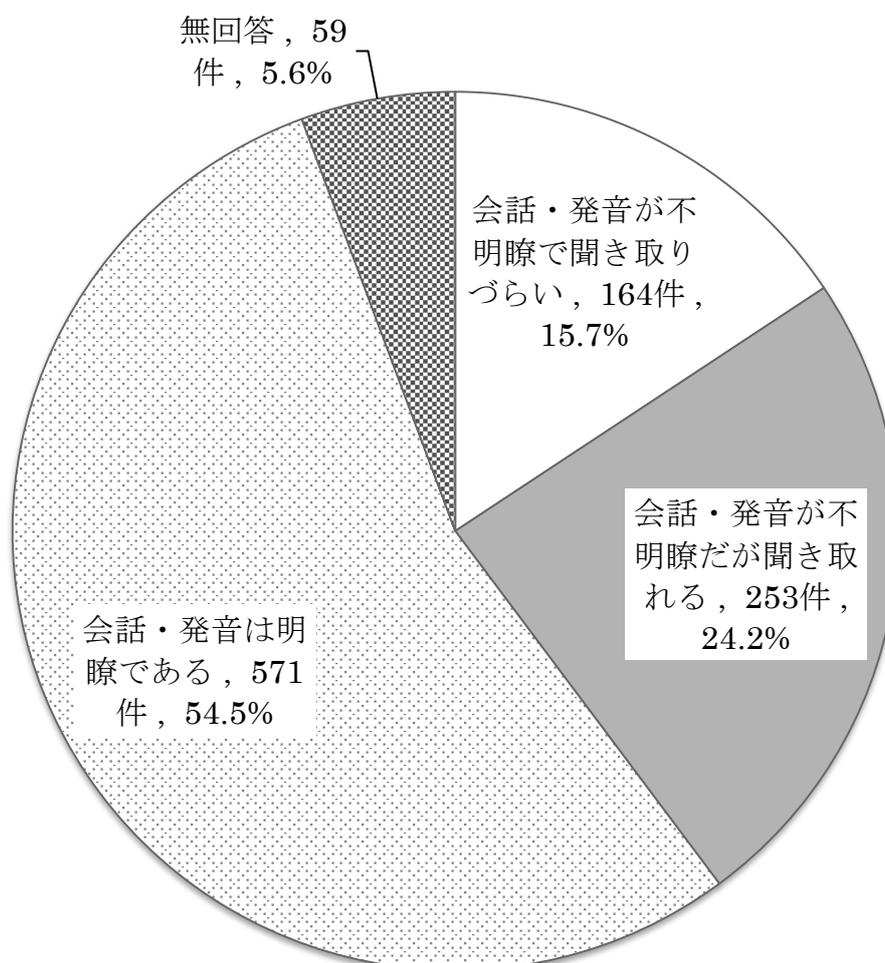


4-6-7. 会話の明瞭度

「会話の明瞭度」については、「会話・発音は明瞭である」が 571 件 (54.5%) で最も回答が多く、続いて「会話・発音が不明瞭だが聞き取れる」が 253 件 (24.2%) で多く、そして、「会話・発音が不明瞭で聞き取りづらい」が 164 件 (15.7%) であった。

表 36 会話の明瞭度 [単位:件]

項目	件数	比率
会話・発音が不明瞭で聞き取りづらい	164	15.7%
会話・発音が不明瞭だが聞き取れる	253	24.2%
会話・発音は明瞭である	571	54.5%
無回答	59	5.6%
合計	1047	100.0%



4-6-8. 入所後の義歯調整

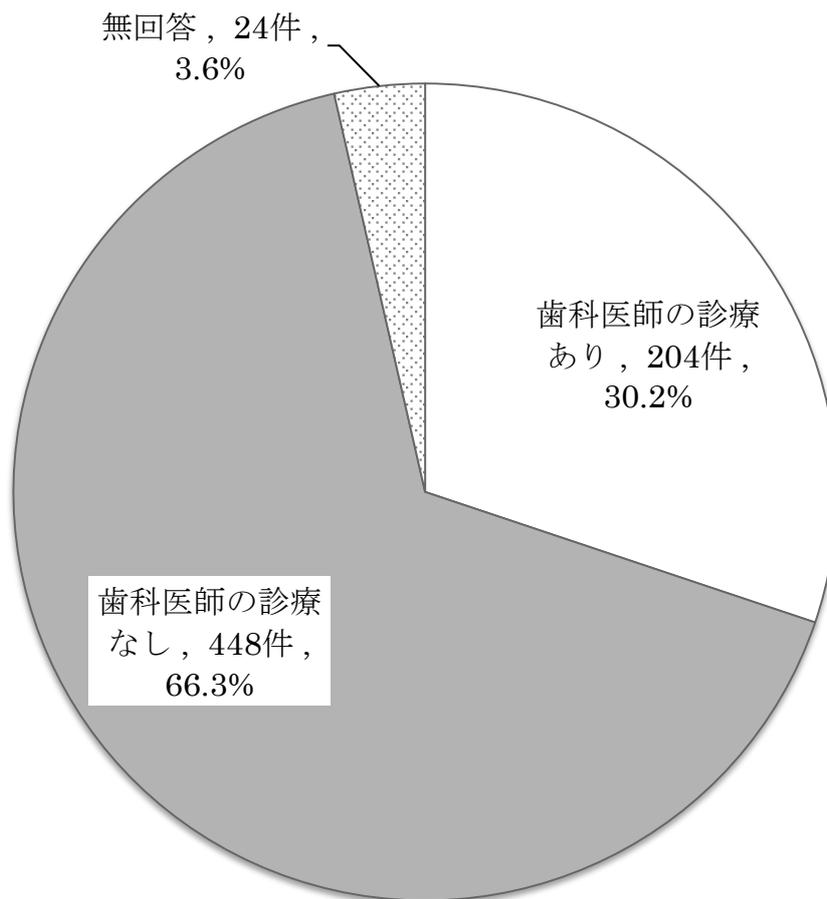
最近3か月の歯科医師の診療

「最近3か月の歯科医師の診療」については、「歯科医師の診療なし」は448件（66.3%）、「歯科医師の診療あり」は204件（30.2%）であった。

※「片顎義歯」、「両顎義歯」のデータのみを集計対象とした。

表 54 最近3か月の歯科医師の診療 [単位:件]

項目	件数	比率
歯科医師の診療あり	204	30.2%
歯科医師の診療なし	448	66.3%
無回答	24	3.6%
合計	676	100.0%



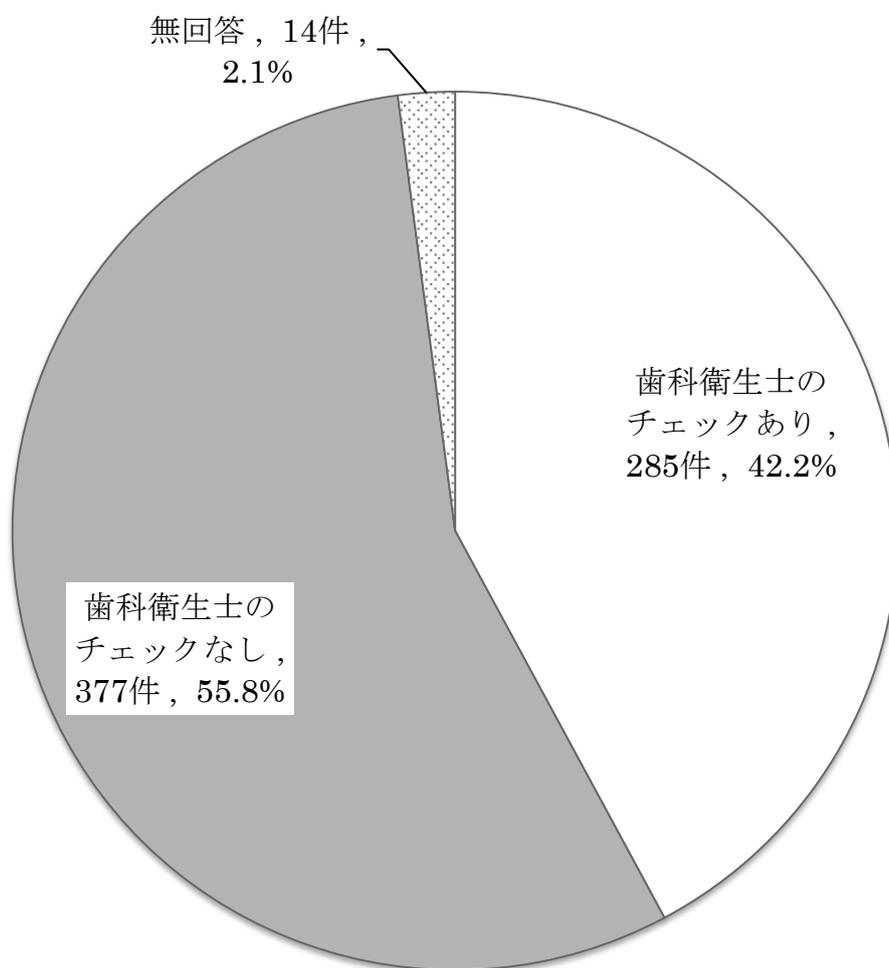
最近3か月の歯科衛生士のチェック

「最近3か月の歯科衛生士のチェック」については、「歯科衛生士のチェックなし」は377件（55.8%）、「歯科衛生士のチェックあり」は285件（42.2%）であった。

※「片顎義歯」、「両顎義歯」のデータのみを集計対象とした。

表 55 最近3か月の歯科衛生士のチェック [単位:件]

項目	件数	比率
歯科衛生士のチェックあり	285	42.2%
歯科衛生士のチェックなし	377	55.8%
無回答	14	2.1%
合計	676	100.0%



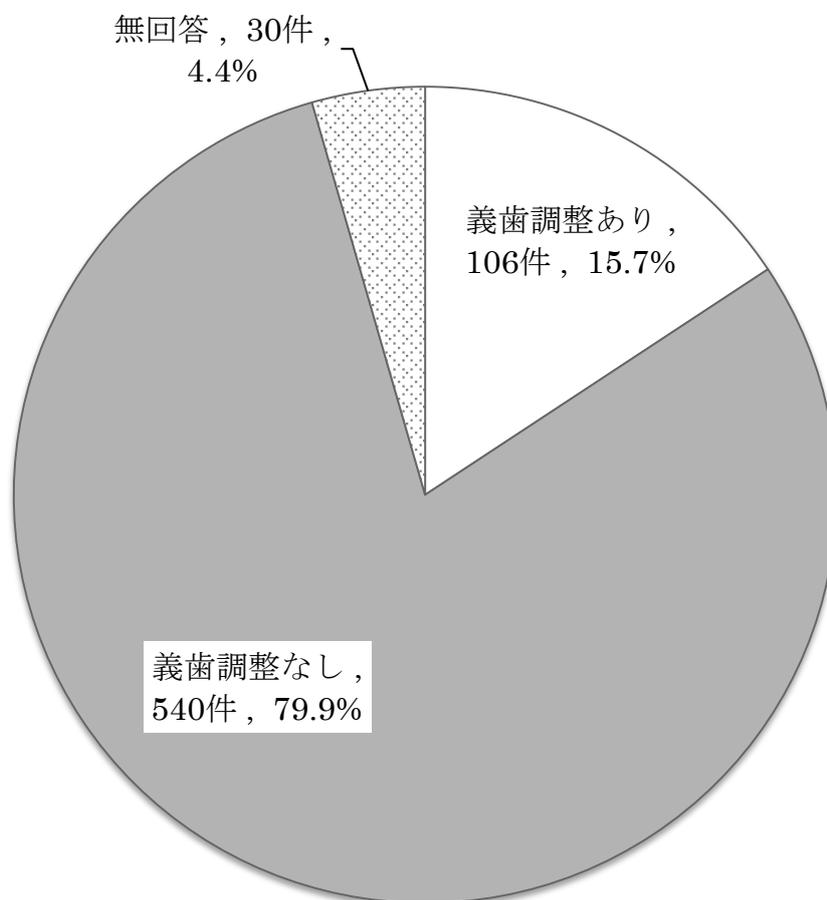
最近3か月の義歯調整

「最近3か月の義歯調整」については、「義歯調整なし」は540件（79.9%）、「義歯調整あり」は106件（15.7%）であった。

※「片顎義歯」、「両顎義歯」のデータのみを集計対象とした。

表 56 最近3か月の義歯調整 [単位:件]

項目	件数	比率
義歯調整あり	106	15.7%
義歯調整なし	540	79.9%
無回答	30	4.4%
合計	676	100.0%



5. クロス集計（最近3か月の歯科医師の診療の有無）

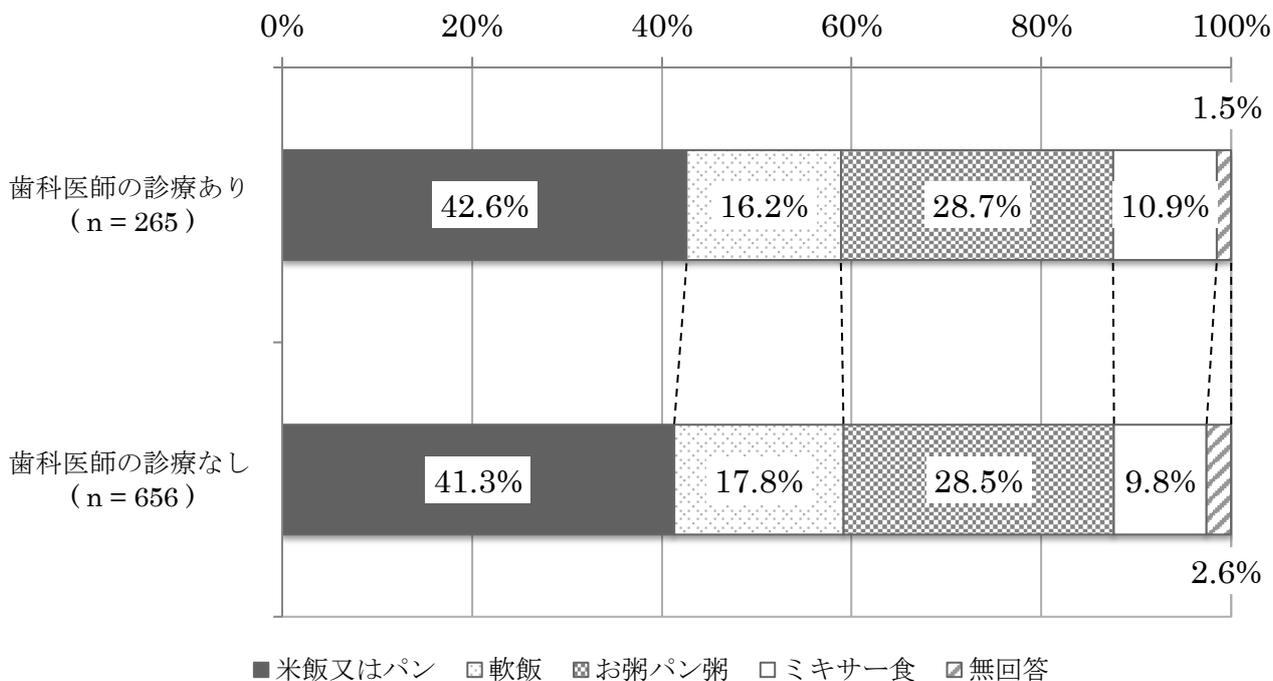
「食事の状況」、「口の状況」、「歯と義歯」に関する項目について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」別にクロス集計を行った。その結果は次のとおりとなった。

5-1. 主食

「主食」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「米飯又はパン」で113件（42.6%）、「歯科医師の診療なし」の場合、「米飯又はパン」で271件（41.3%）であった。

表 57 主食 [単位:件]

主食	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
米飯又はパン	113	42.6%	271	41.3%	384	41.7%
軟飯	43	16.2%	117	17.8%	160	17.4%
お粥パン粥	76	28.7%	187	28.5%	263	28.6%
ミキサー食	29	10.9%	64	9.8%	93	10.1%
無回答	4	1.5%	17	2.6%	21	2.3%
合計	265	100.0%	656	100.0%	921	100.0%

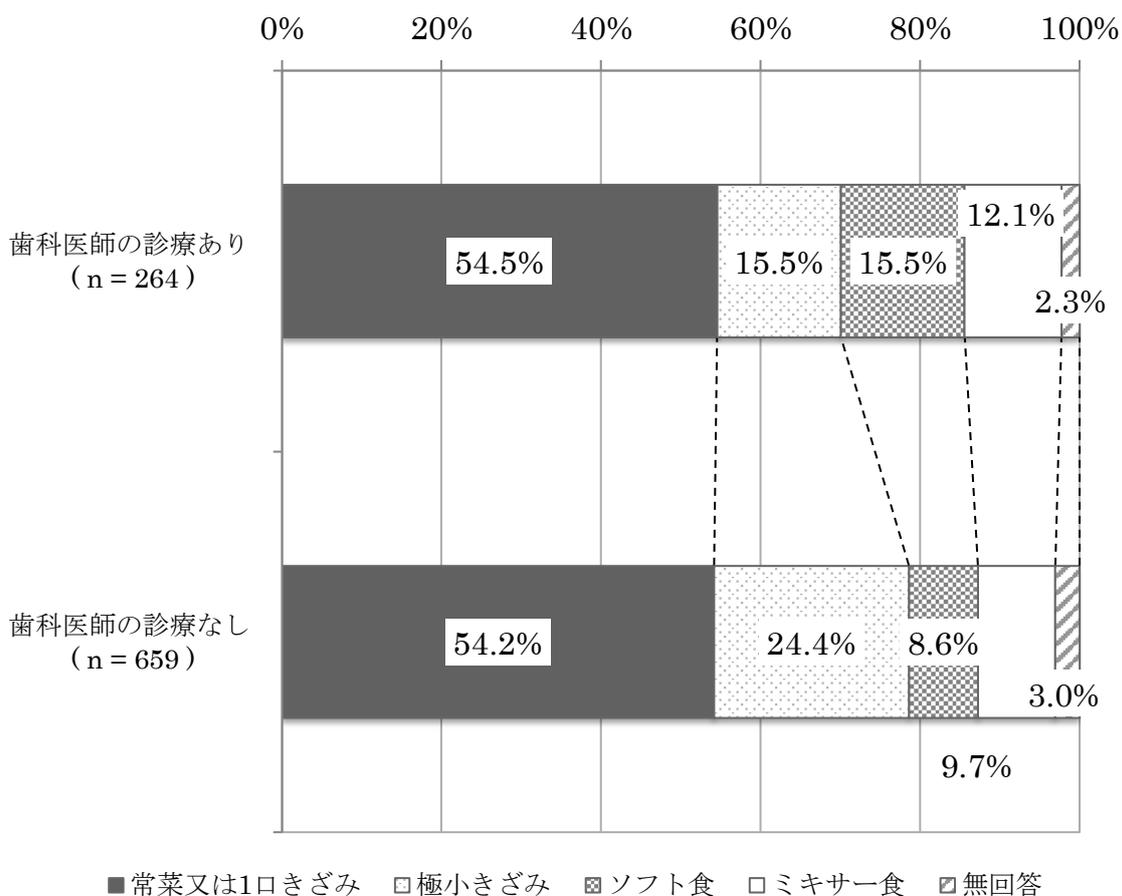


5-2. 副食

「副食」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「常菜又は1口きざみ」で144件（54.5%）、「歯科医師の診療なし」の場合、「常菜又は1口きざみ」で357件（54.2%）であった。

表 58 副食 [単位:件]

副食	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
常菜又は1口きざみ	144	54.5%	357	54.2%	501	54.3%
極小きざみ	41	15.5%	161	24.4%	202	21.9%
ソフト食	41	15.5%	57	8.6%	98	10.6%
ミキサー食	32	12.1%	64	9.7%	96	10.4%
無回答	6	2.3%	20	3.0%	26	2.8%
合計	264	100.0%	659	100.0%	923	100.0%



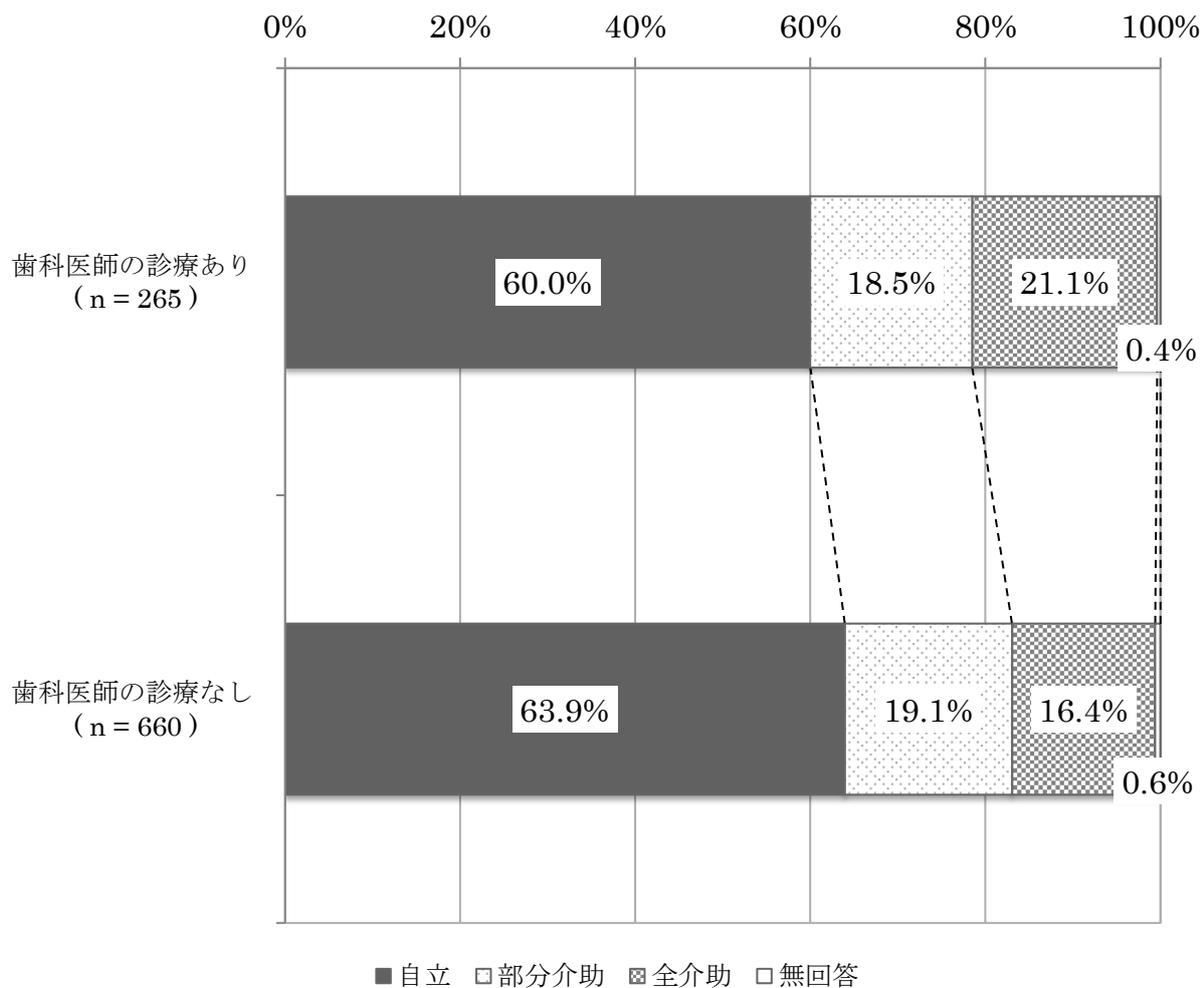
ソフト食とは、歯ぐきや舌でつぶれるくらいに、やわらかくした介護食のことを示す。

5-3. 食事動作

「食事動作」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「自立」で159件(60.0%)、「歯科医師の診療なし」の場合、「自立」で422件(63.9%)であった。

表 59 食事動作 [単位:件]

食事動作	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自立	159	60.0%	422	63.9%	581	62.8%
部分介助	49	18.5%	126	19.1%	175	18.9%
全介助	56	21.1%	108	16.4%	164	17.7%
無回答	1	0.4%	4	0.6%	5	0.5%
合計	265	100.0%	660	100.0%	925	100.0%

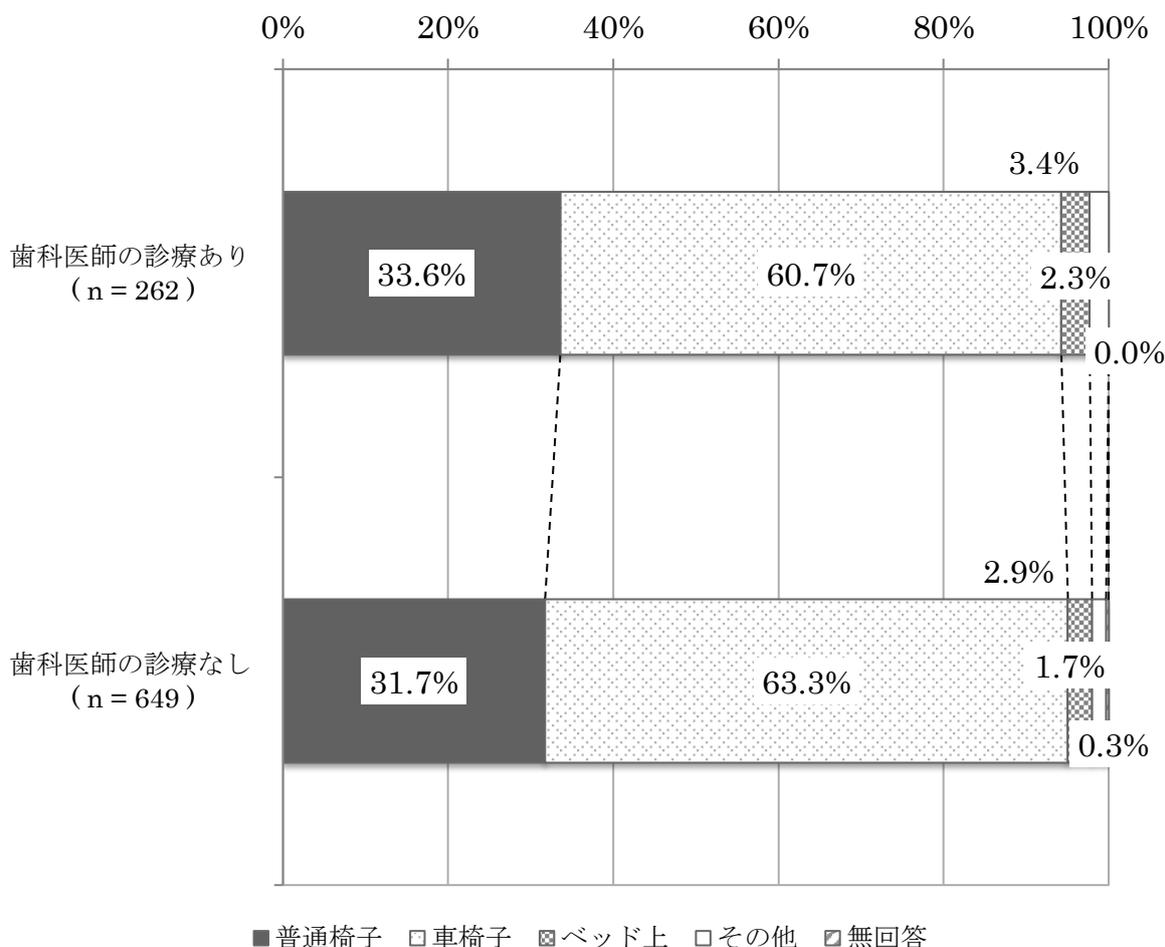


5-4. 食事時の姿勢

「食事時の姿勢」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「車椅子」で159件（60.7%）、「歯科医師の診療なし」の場合、「車椅子」で411件（63.3%）であった。

表 60 姿勢 [単位:件]

姿勢	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
普通椅子	88	33.6%	206	31.7%	294	32.3%
車椅子	159	60.7%	411	63.3%	570	62.6%
ベッド上	9	3.4%	19	2.9%	28	3.1%
その他	6	2.3%	11	1.7%	17	1.9%
無回答	0	0.0%	2	0.3%	2	0.2%
合計	262	100.0%	649	100.0%	911	100.0%

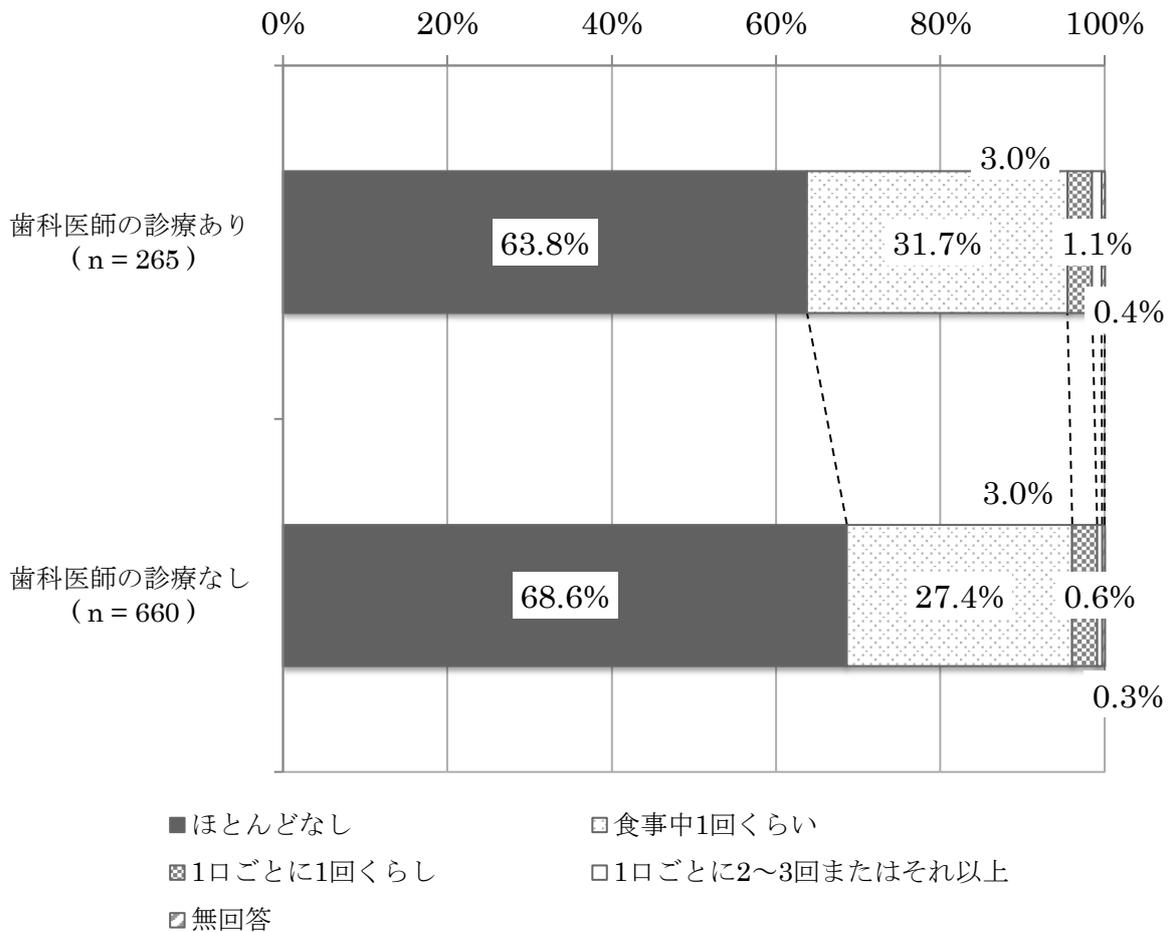


5-5. むせの有無

「むせの有無」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみてみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「ほとんどなし」で169件(63.8%)、「歯科医師の診療なし」の場合、「ほとんどなし」で453件(68.6%)であった。

表 61 むせの有無 [単位:件]

むせの有無	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
ほとんどなし	169	63.8%	453	68.6%	622	67.2%
食事中1回くらい	84	31.7%	181	27.4%	265	28.6%
1口ごとに1回くらい	8	3.0%	20	3.0%	28	3.0%
1口ごとに2~3回またはそれ以上	3	1.1%	4	0.6%	7	0.8%
無回答	1	0.4%	2	0.3%	3	0.3%
合計	265	100.0%	660	100.0%	925	100.0%

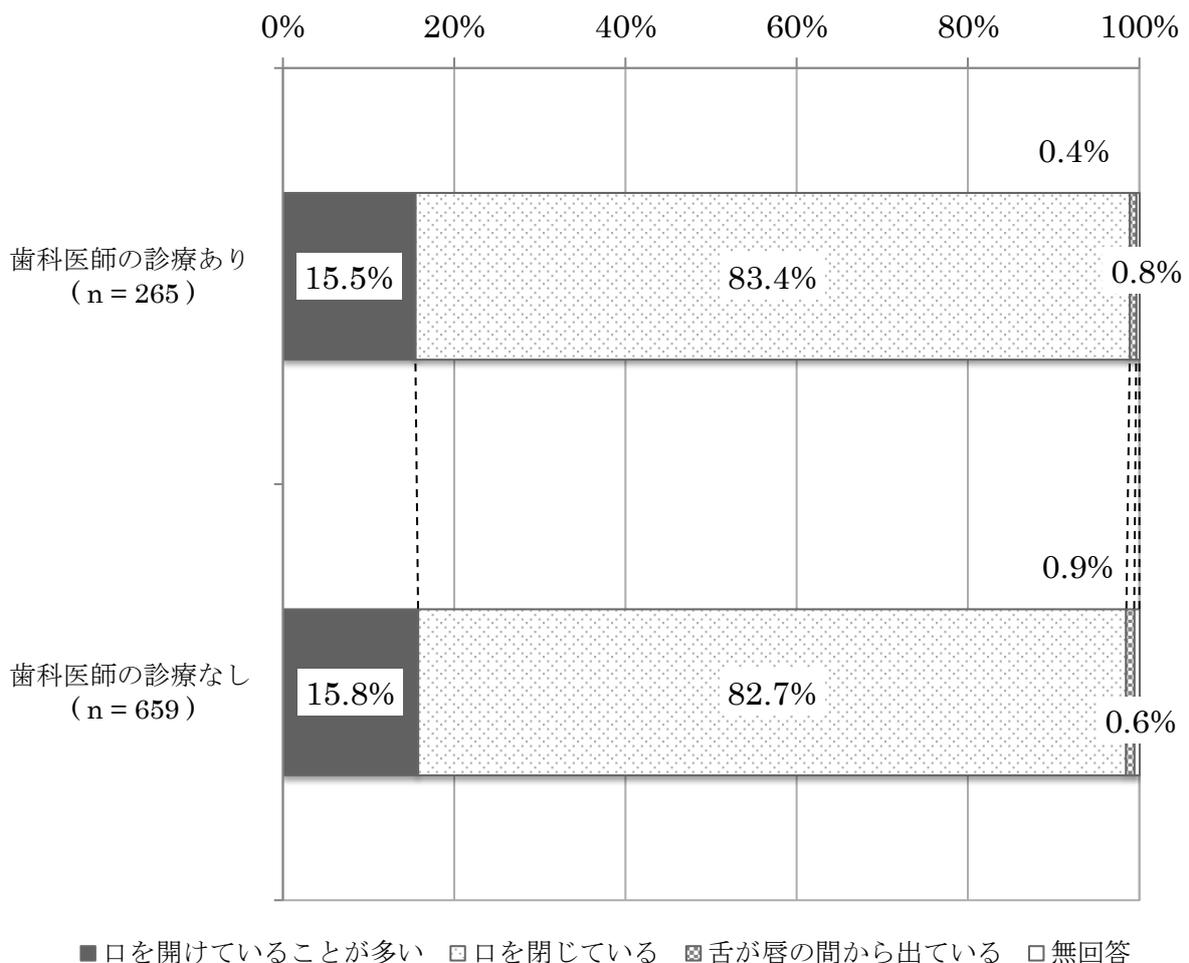


5-6. ふだん（日常）の状態

「ふだんの状態」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「口を閉じている」で221件（83.4%）、「歯科医師の診療なし」の場合、「口を閉じている」で545件（82.7%）であった。

表 62 ふだん（日常）の状態 [単位:件]

ふだんの状態	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
口を開けていることが多い	41	15.5%	104	15.8%	145	15.7%
口を閉じている	221	83.4%	545	82.7%	766	82.9%
舌が唇の間から出ている	2	0.8%	6	0.9%	8	0.9%
無回答	1	0.4%	4	0.6%	5	0.5%
合計	265	100.0%	659	100.0%	924	100.0%



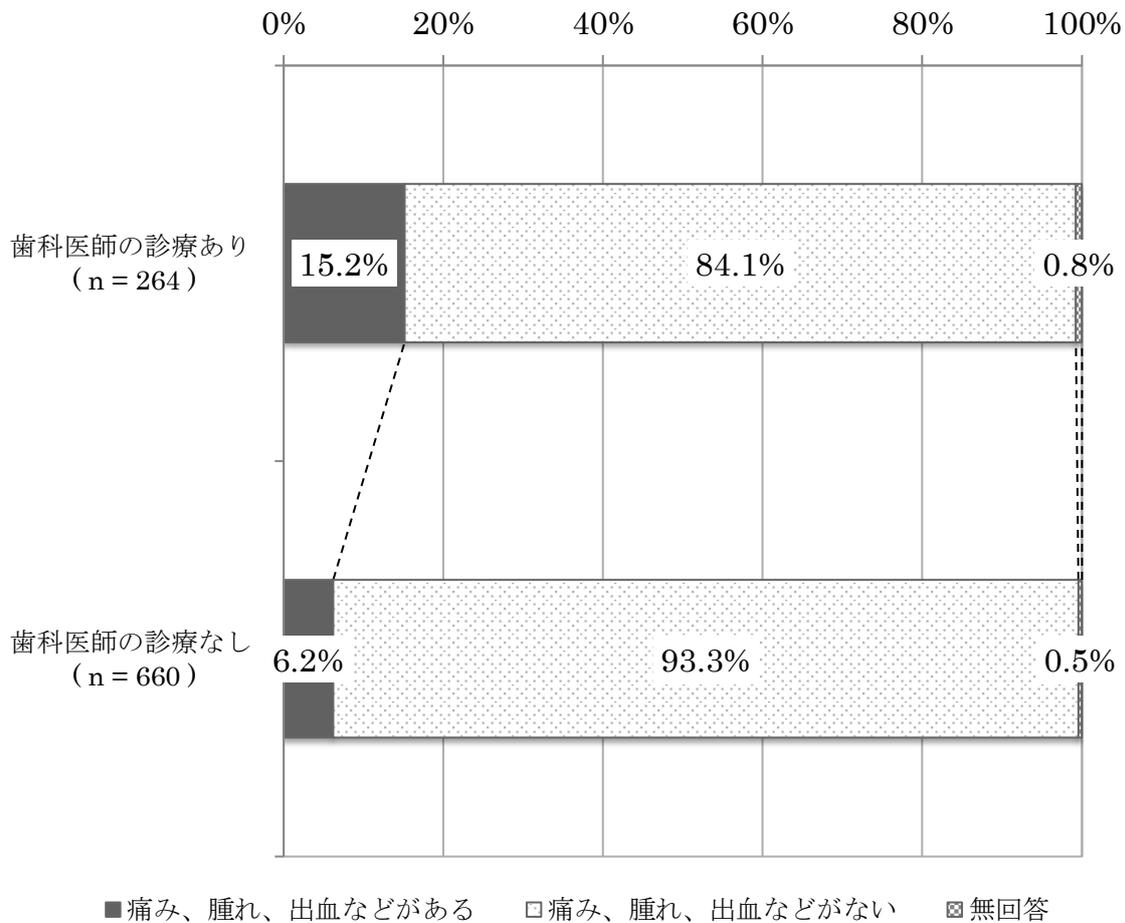
5-7. 歯肉（歯ぐき）などの状態

5-7-1. 痛み、腫れ出血など

「痛み、腫れ出血など」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「痛み、腫れ、出血などがない」で222件（84.1%）、「歯科医師の診療なし」の場合、「痛み、腫れ、出血などがない」で616件（93.3%）であった。

表 63 痛み、腫れ出血など [単位:件]

痛み、腫れ出血など	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
痛み、腫れ、出血などがある	40	15.2%	41	6.2%	81	8.8%
痛み、腫れ、出血などがない	222	84.1%	616	93.3%	838	90.7%
無回答	2	0.8%	3	0.5%	5	0.5%
合計	264	100.0%	660	100.0%	924	100.0%

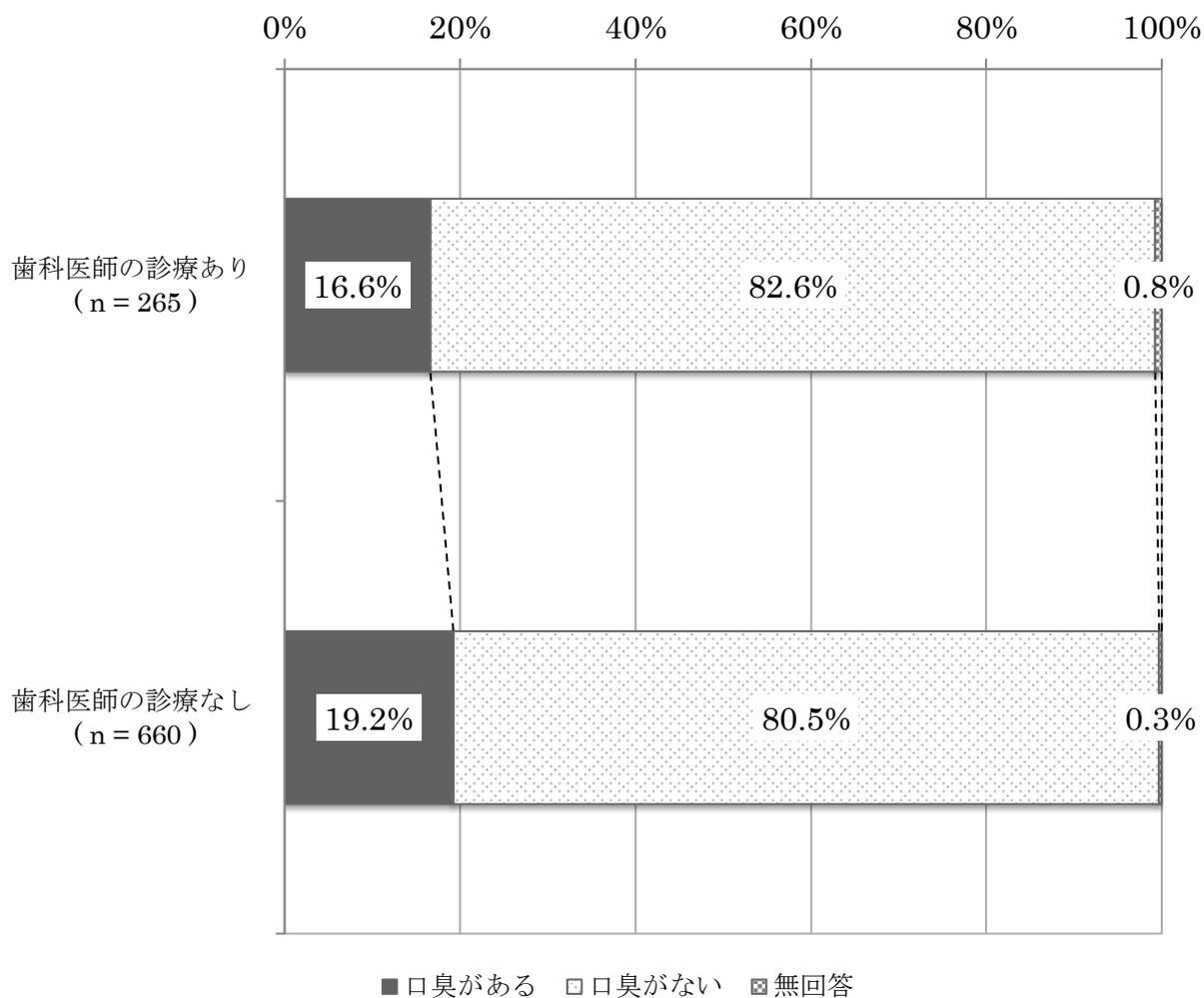


5-7-2. 口臭

「口臭」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「口臭がない」で219件(82.6%)、「歯科医師の診療なし」の場合、「口臭がない」で531件(80.5%)であった。

表 374 口臭 [単位:件]

口臭	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
口臭がある	44	16.6%	127	19.2%	171	18.5%
口臭がない	219	82.6%	531	80.5%	750	81.1%
無回答	2	0.8%	2	0.3%	4	0.4%
合計	265	100.0%	660	100.0%	925	100.0%

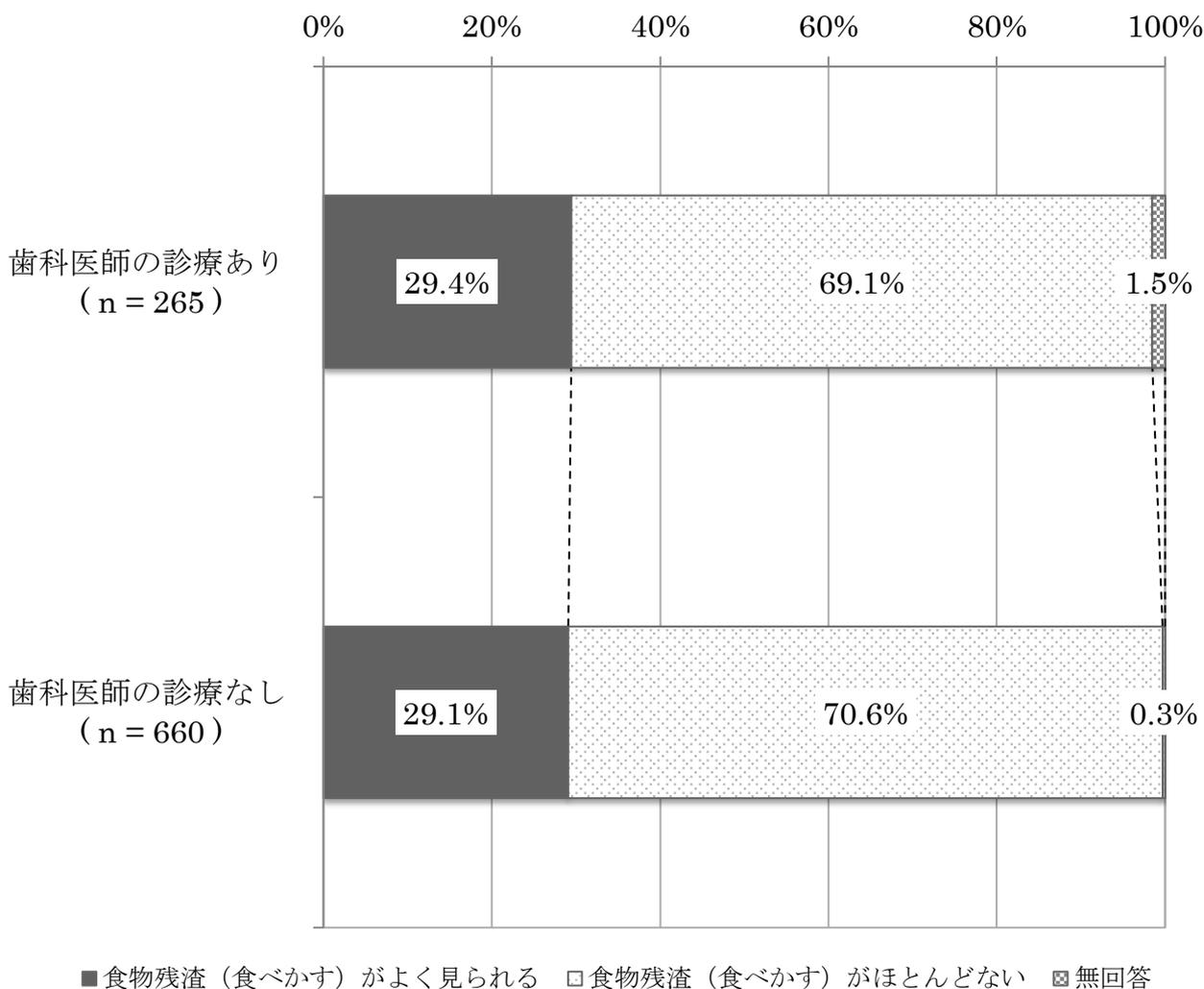


5-7-3. 食物残渣（食べかす）

「食物残渣（食べかす）」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「食べかすがほとんどない」で183件(69.1%)、「歯科医師の診療なし」の場合、「食べかすがほとんどない」で466件(70.6%)であった。

表 65 食物残渣（食べかす） [単位:件]

歯ぐきなどの状態：食物残渣（食べかす）	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
食物残渣（食べかす）がよく見られる	78	29.4%	192	29.1%	270	29.2%
食物残渣（食べかす）がほとんどない	183	69.1%	466	70.6%	649	70.2%
無回答	4	1.5%	2	0.3%	6	0.6%
合計	265	100.0%	660	100.0%	925	100.0%

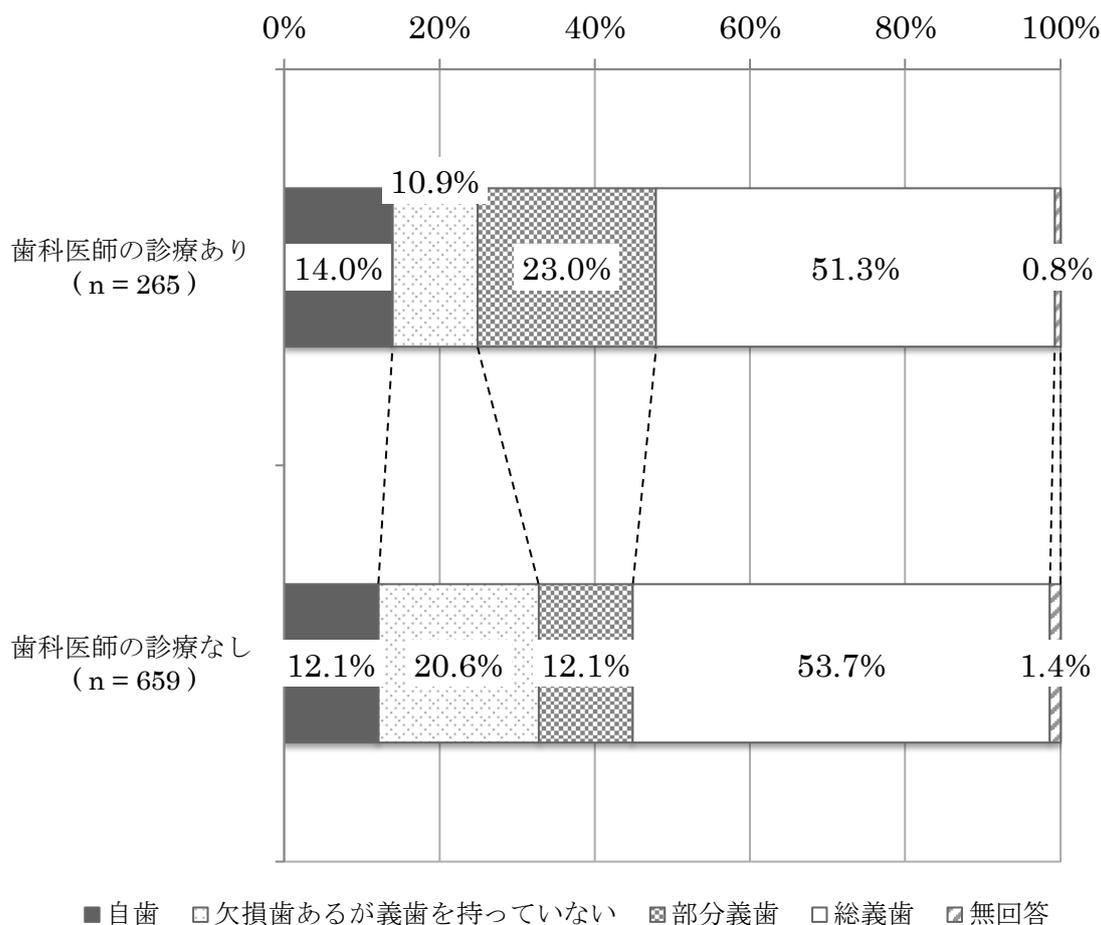


5-8. 上顎

「上顎」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみてみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「総義歯」で136件(51.3%)、「歯科医師の診療なし」の場合、「総義歯」で354件(53.7%)であった。

表 66 上顎 [単位:件]

上顎	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自歯	37	14.0%	80	12.1%	117	12.7%
欠損歯あるが義歯を持っていない	29	10.9%	136	20.6%	165	17.9%
部分義歯	61	23.0%	80	12.1%	141	15.3%
総義歯	136	51.3%	354	53.7%	490	53.0%
無回答	2	0.8%	9	1.4%	11	1.2%
合計	265	100.0%	659	100.0%	924	100.0%

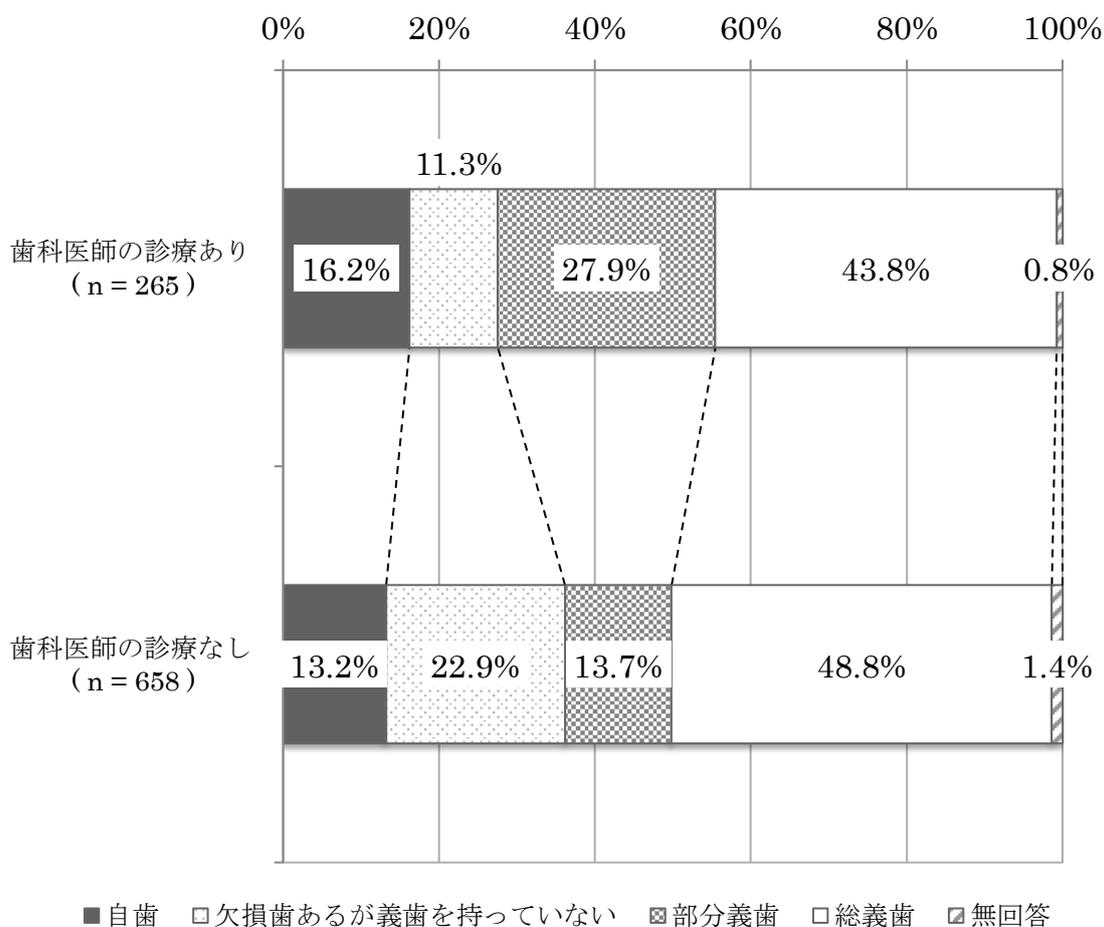


5-9. 下顎

「下顎」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「総義歯」で116件(43.8%)、「歯科医師の診療なし」の場合、「総義歯」で321件(48.8%)であった。

表 67 下顎 [単位:件]

下顎	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自歯	43	16.2%	87	13.2%	130	14.1%
欠損歯あるが義歯を持っていない	30	11.3%	151	22.9%	181	19.6%
部分義歯	74	27.9%	90	13.7%	164	17.8%
総義歯	116	43.8%	321	48.8%	437	47.3%
無回答	2	0.8%	9	1.4%	11	1.2%
合計	265	100.0%	658	100.0%	923	100.0%

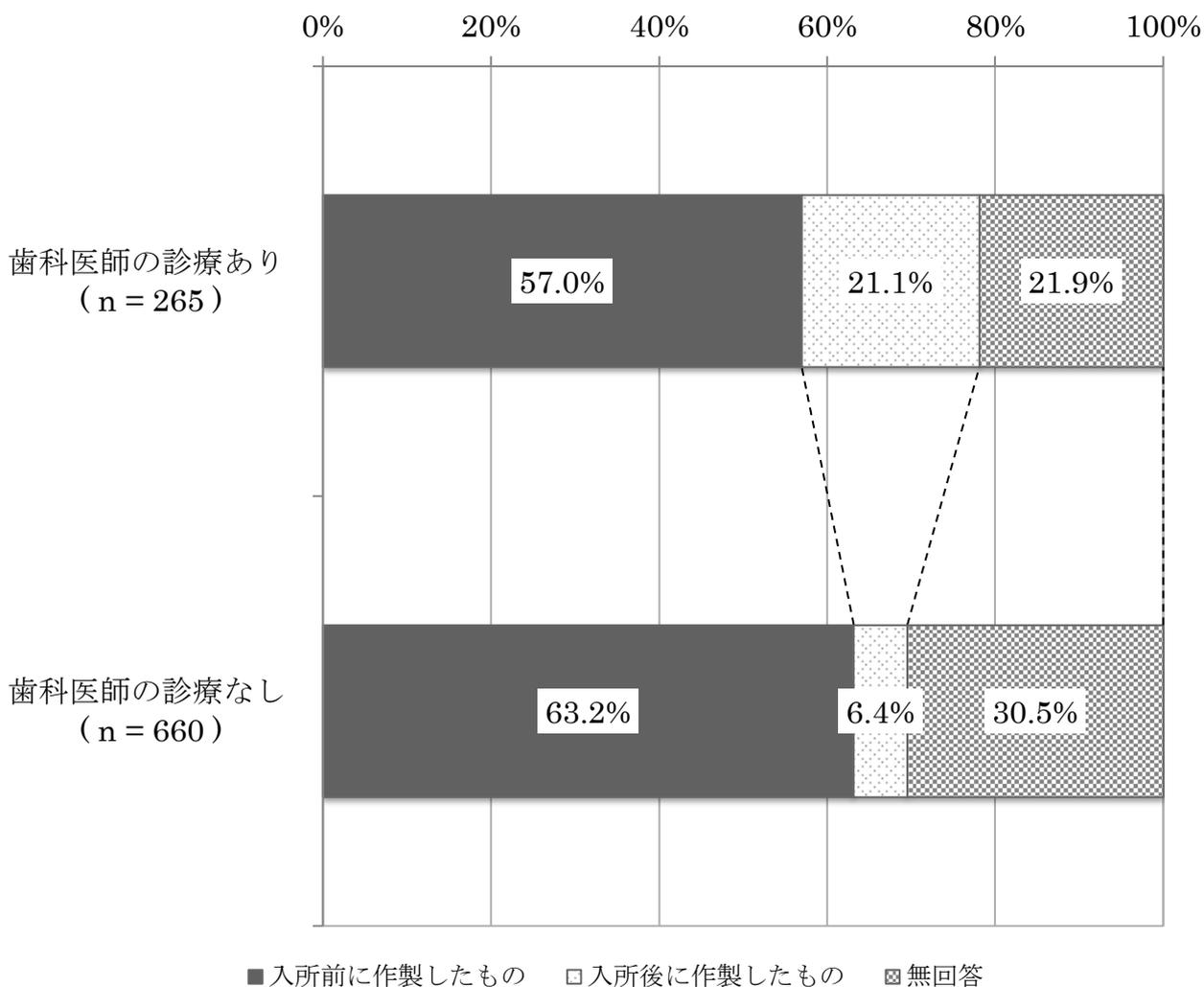


5-10. 義歯の作成時期

「義歯の作成時期」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみてみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「入所前に作製したもの」で151件（57.0%）、「歯科医師の診療なし」の場合、「入所前に作製したもの」で417件（63.2%）であった。

表 68 義歯の作成時期 [単位:件]

義歯の作成時期	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
入所前に作製したもの	151	57.0%	417	63.2%	568	61.4%
入所後に作製したもの	56	21.1%	42	6.4%	98	10.6%
無回答	58	21.9%	201	30.4%	259	28.0%
合計	265	100.0%	660	100.0%	925	100.0%

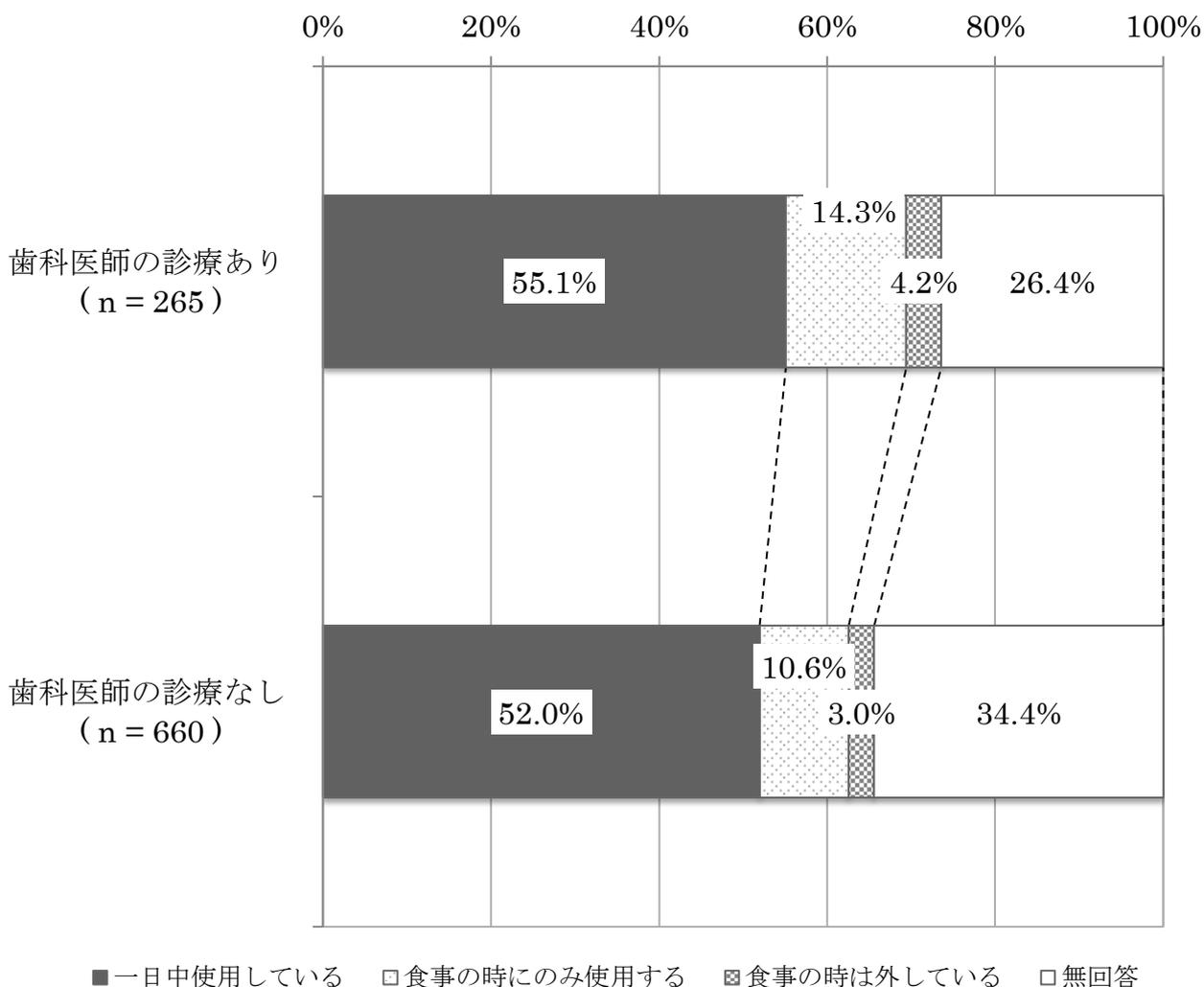


5-1 1. 義歯の使用状況

「義歯の使用状況」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「一日中使用している」で146件（55.1%）、「歯科医師の診療なし」の場合、「一日中使用している」で343件（52.0%）であった。

表 69 義歯の使用状況 [単位:件]

義歯の使用状況	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
一日中使用している	146	55.1%	343	52.0%	489	52.9%
食事の時にのみ使用する	38	14.3%	70	10.6%	108	11.7%
食事の時は外している	11	4.2%	20	3.0%	31	3.4%
無回答	70	26.4%	227	34.4%	297	32.1%
合計	265	100.0%	660	100.0%	925	100.0%

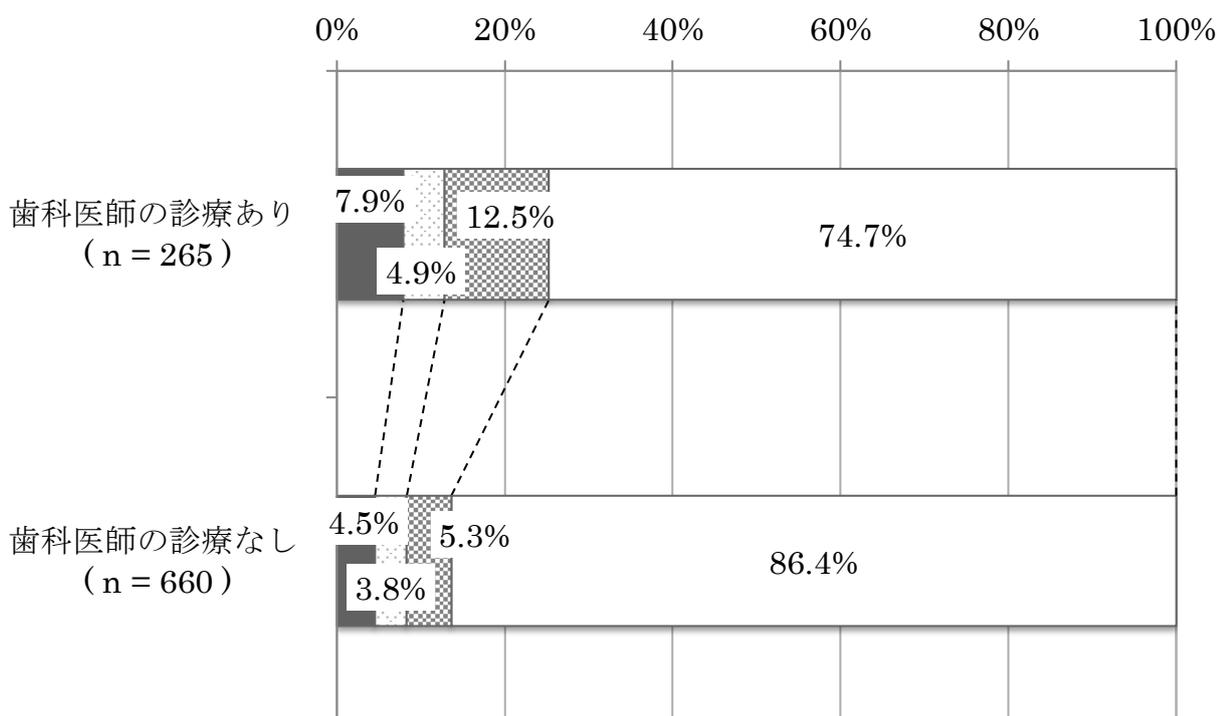


5-1 2. 義歯の適合性

「義歯の適合性」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「食事中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する」で21件（7.9%）、「歯科医師の診療なし」の場合、「食事中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する」で30件（4.5%）であった。

表 70 義歯の適合性 [単位:件]

義歯の適合性	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
口を開くと義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する	21	7.9%	30	4.5%	51	5.5%
会話中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する	13	4.9%	25	3.8%	38	4.1%
食事中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する	33	12.5%	35	5.3%	68	7.4%
無回答	198	74.7%	570	86.4%	768	83.0%
合計	265	100.0%	438	100.0%	925	100.0%



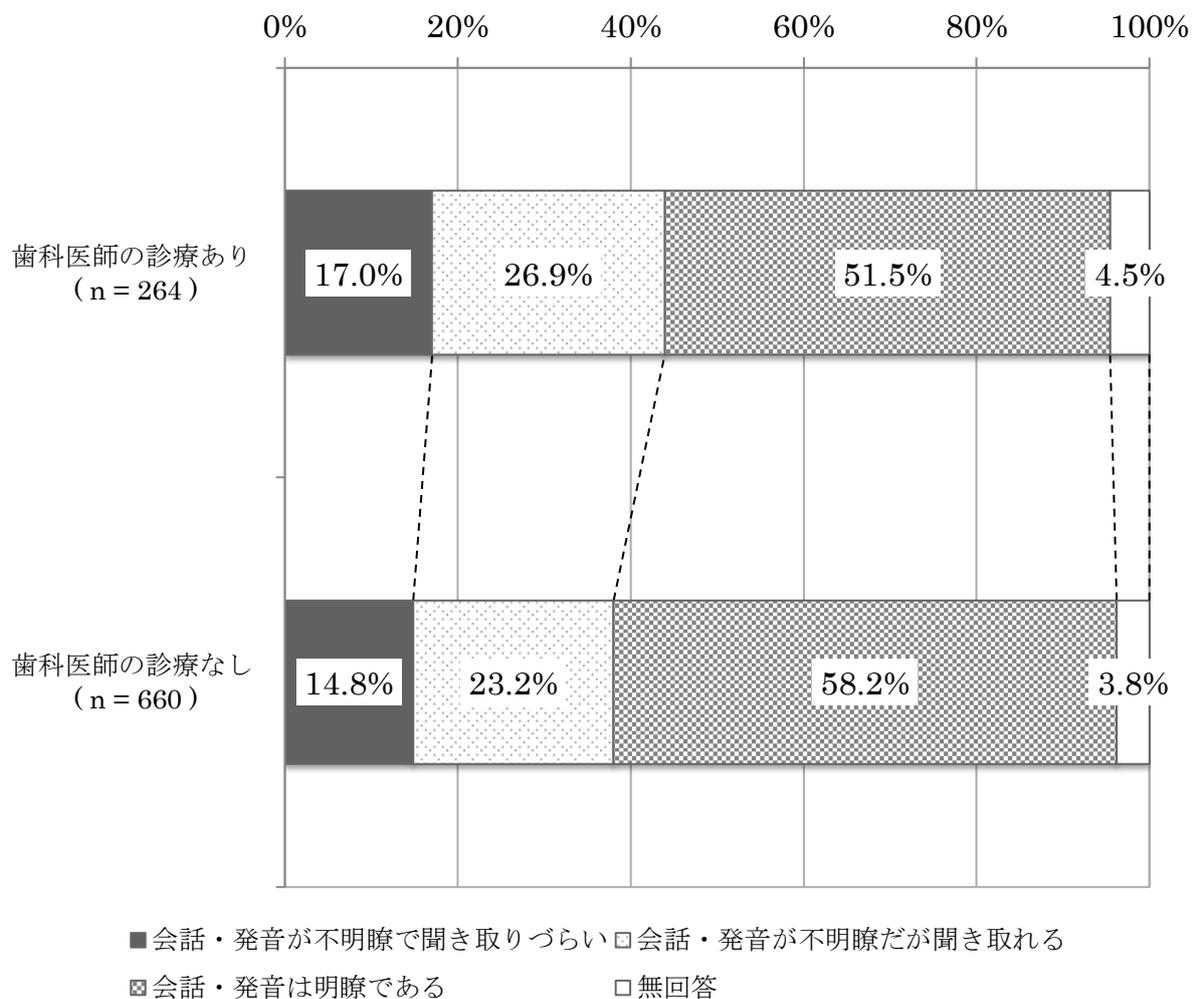
- 口を開くと義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する
- 会話中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する
- ▨ 食事中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する
- 無回答

5-13. 会話の明瞭度

「会話の明瞭度」について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科医師の診療あり」の場合、「会話・発音は明瞭である」で136件（51.5%）、「歯科医師の診療なし」の場合、「会話・発音は明瞭である」で384件（58.2%）であった。

表 71 会話の明瞭度 [単位:件]

会話の明瞭度	歯科医師の診療あり		歯科医師の診療なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
会話・発音が不明瞭で聞き取りづらい	45	17.0%	98	14.8%	143	15.5%
会話・発音が不明瞭だが聞き取れる	71	26.9%	153	23.2%	224	24.2%
会話・発音は明瞭である	136	51.5%	384	58.2%	520	56.3%
無回答	12	4.5%	25	3.8%	37	4.0%
合計	264	100.0%	660	100.0%	924	100.0%



6. クロス集計（最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無）

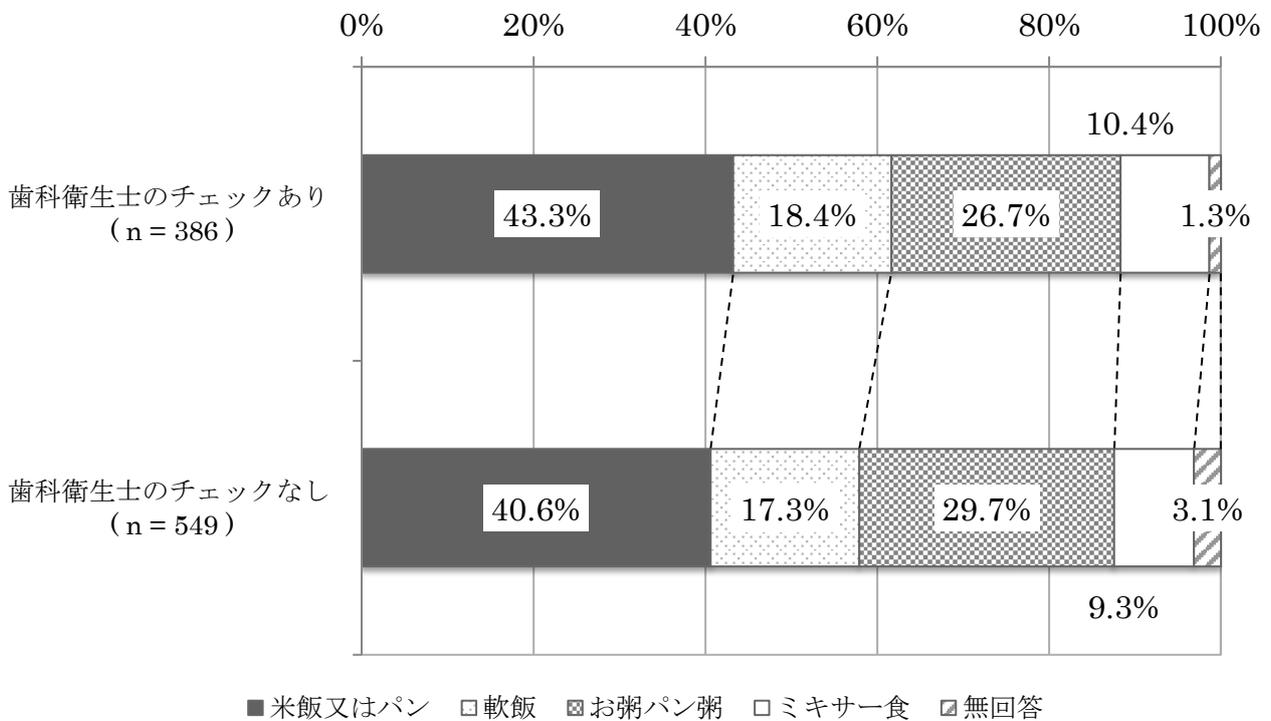
「食事の状況」、「口の状況」、「歯と義歯」に関する項目について、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」別にクロス集計を行った。その結果は次のとおりとなった。

6-1. 主食

「主食」について、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科衛生士のチェックあり」の場合、「米飯又はパン」で167件（43.3%）、「歯科衛生士のチェックなし」の場合、「米飯又はパン」で223件（40.6%）であった。

表 72 主食 [単位:件]

主食	歯科衛生士のチェックあり		歯科衛生士のチェックなし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
米飯又はパン	167	43.3%	223	40.6%	390	41.7%
軟飯	71	18.4%	95	17.3%	166	17.8%
お粥パン粥	103	26.7%	163	29.7%	266	28.4%
ミキサー食	40	10.4%	51	9.3%	91	9.7%
無回答	5	1.3%	17	3.1%	22	2.4%
合計	386	100.0%	549	100.0%	935	100.0%

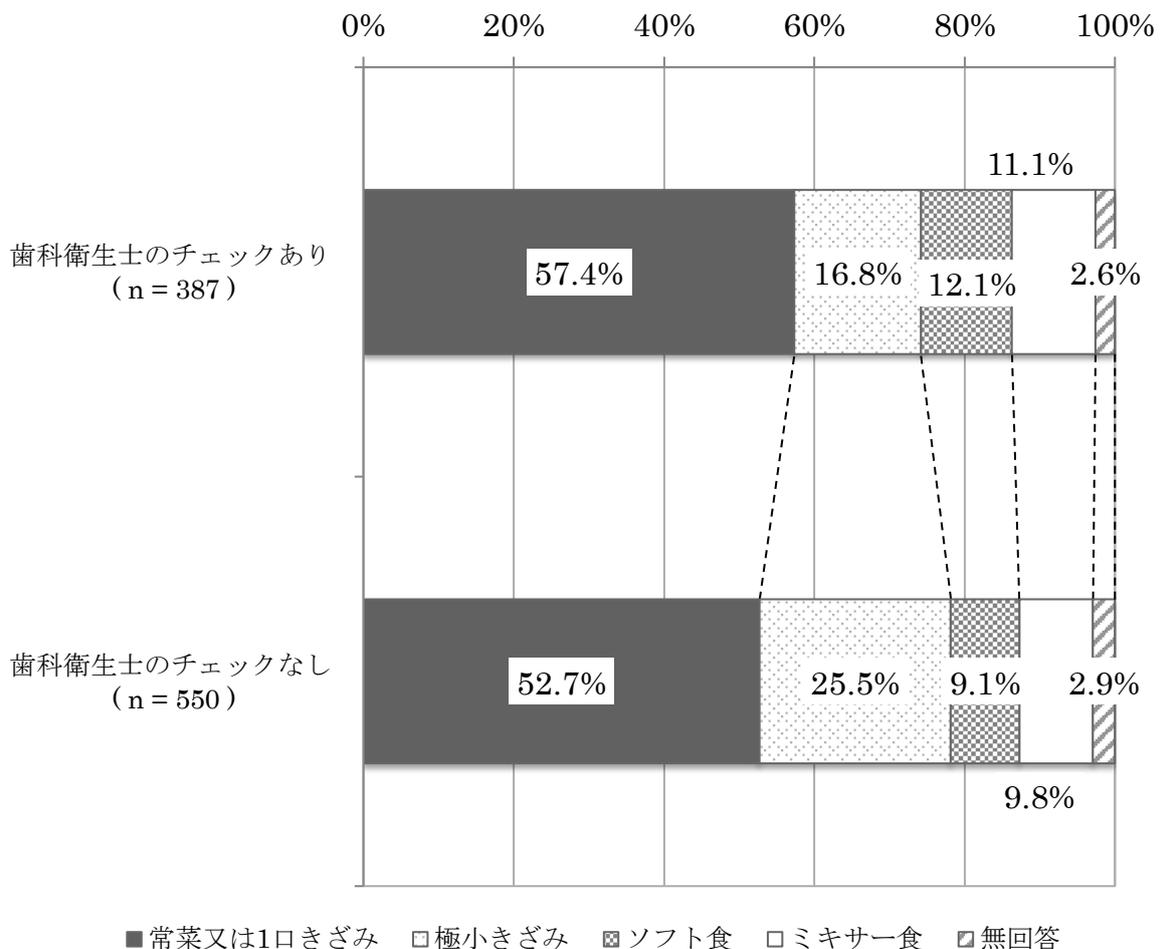


6-2. 副食

「副食」について、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」ごとに最も回答数が多い項目をみてみると、次の通りであった。「歯科衛生士のチェックあり」の場合、「常菜又は1口きざみ」で222件（57.4%）、「歯科衛生士のチェックなし」の場合、「常菜又は1口きざみ」で290件（52.7%）であった。

表 73 副食 [単位:件]

副食	歯科衛生士のチェックあり		歯科衛生士のチェックなし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
常菜又は1口きざみ	222	57.4%	290	52.7%	512	54.6%
極小きざみ	65	16.8%	140	25.5%	205	21.9%
ソフト食	47	12.1%	50	9.1%	97	10.4%
ミキサー食	43	11.1%	54	9.8%	97	10.4%
無回答	10	2.6%	16	2.9%	26	2.8%
合計	387	100.0%	550	100.0%	937	100.0%

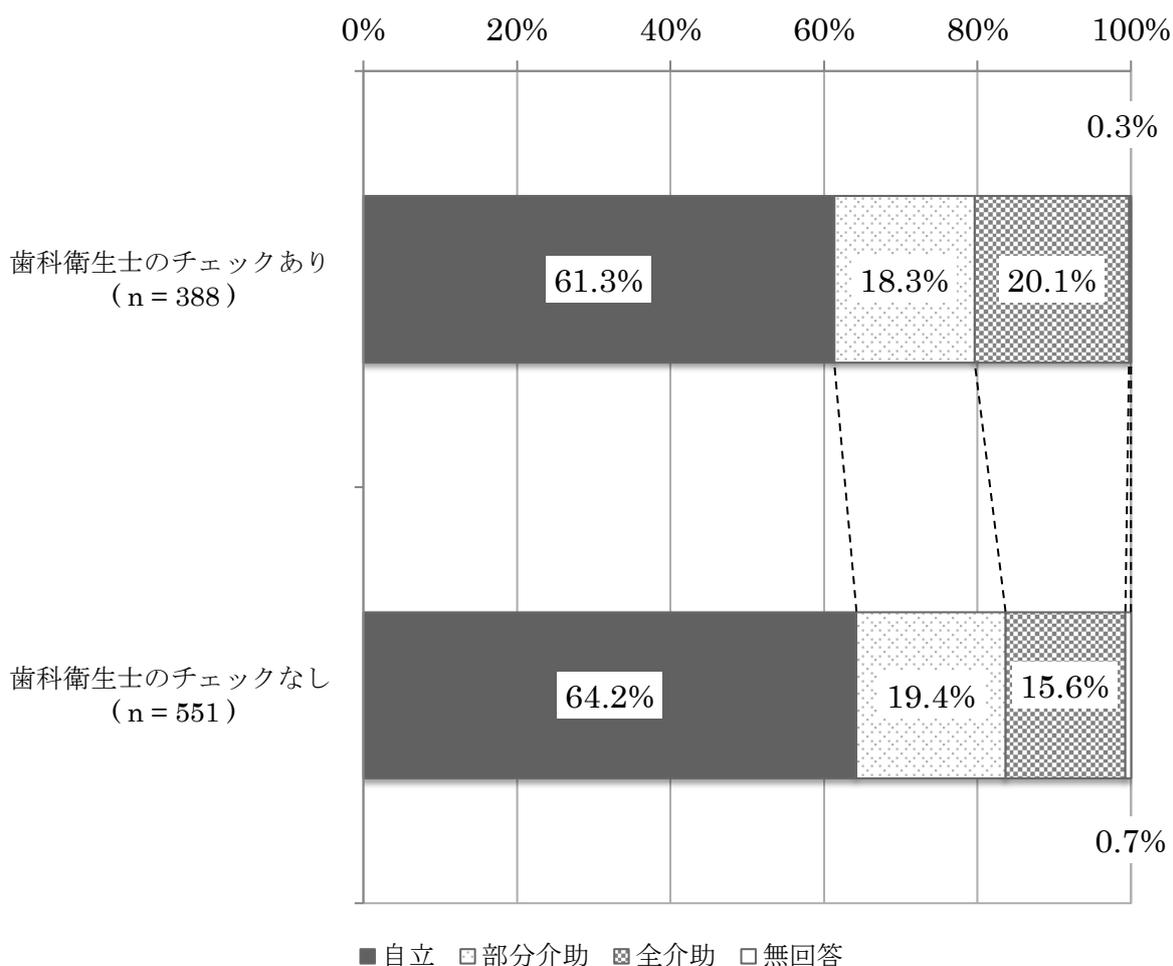


6-3. 食事動作

「食事動作」について、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科衛生士のチェックあり」の場合、「自立」で238件（61.3%）、「歯科衛生士のチェックなし」の場合、「自立」で354件（64.2%）であった。

表 74 食事動作 [単位:件]

食事動作	歯科衛生士のチェックあり		歯科衛生士のチェックなし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自立	238	61.3%	354	64.2%	592	63.0%
部分介助	71	18.3%	107	19.4%	178	19.0%
全介助	78	20.1%	86	15.6%	164	17.5%
無回答	1	0.3%	4	0.7%	5	0.5%
合計	388	100.0%	551	100.0%	939	100.0%

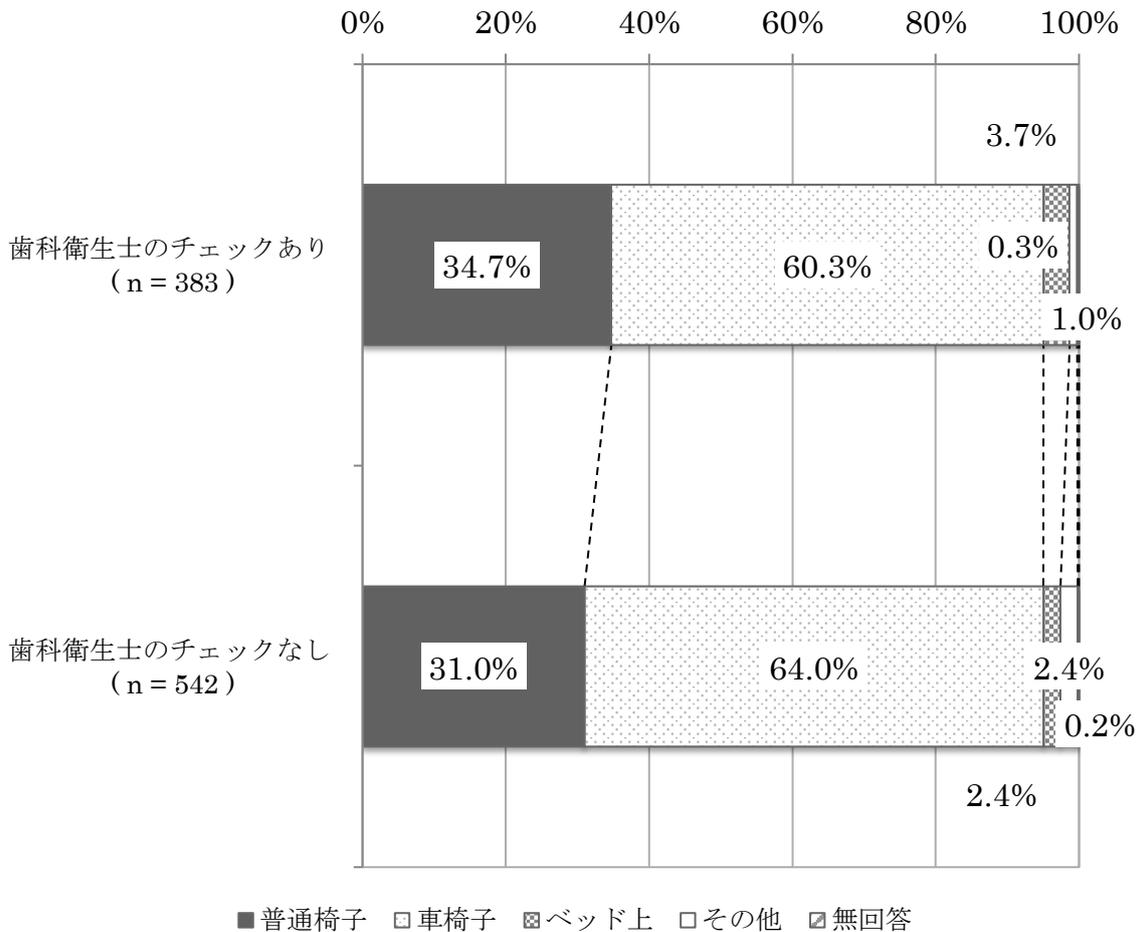


6-4. 姿勢

「姿勢」について、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」ごとに最も回答数が多い項目をみてみると、次の通りであった。「歯科衛生士のチェックあり」の場合、「車椅子」で231件（60.3%）、「歯科衛生士のチェックなし」の場合、「車椅子」で347件（64.0%）であった。

表 75 姿勢 [単位:件]

姿勢	歯科衛生士のチェックあり		歯科衛生士のチェックなし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
普通椅子	133	34.7%	168	31.0%	301	32.5%
車椅子	231	60.3%	347	64.0%	578	62.5%
ベッド上	14	3.7%	13	2.4%	27	2.9%
その他	4	1.0%	13	2.4%	17	1.8%
無回答	1	0.3%	1	0.2%	2	0.2%
合計	383	100.0%	542	100.0%	925	100.0%

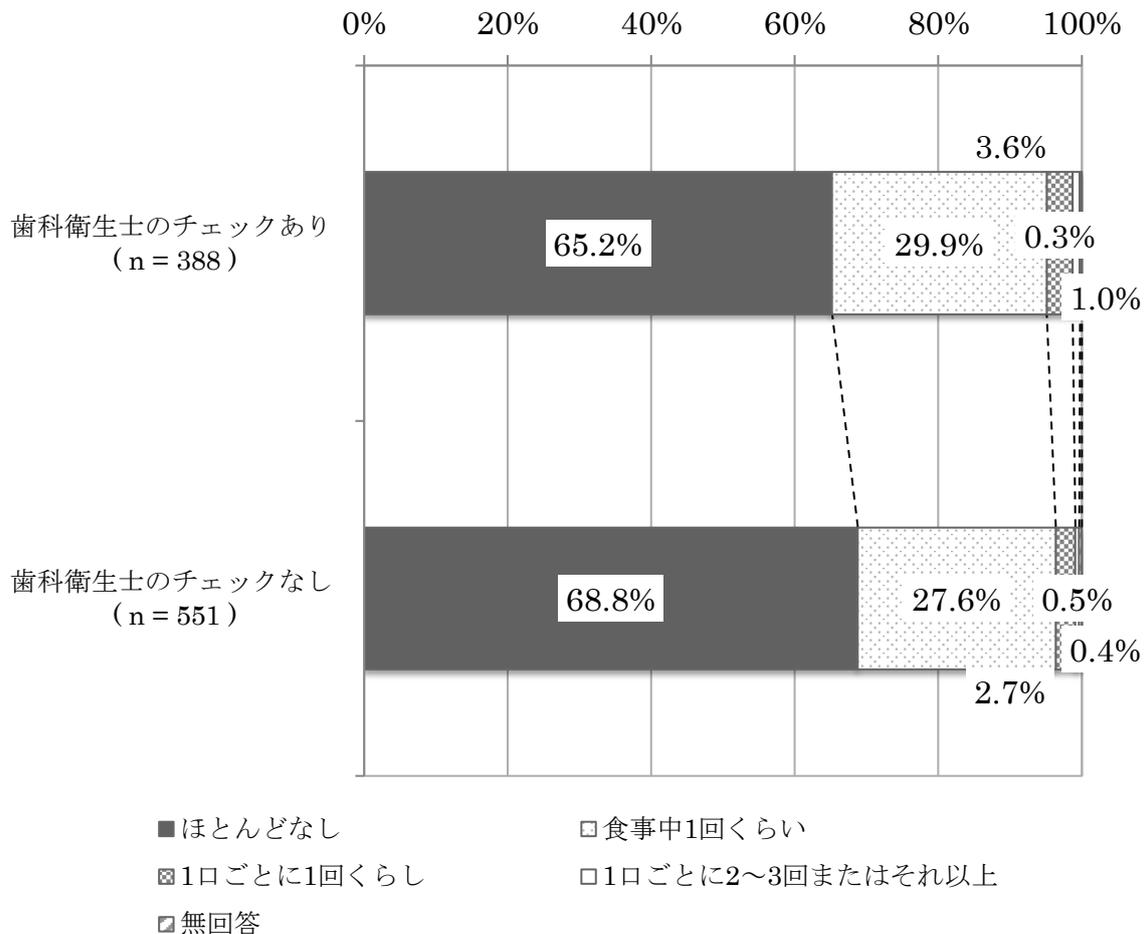


6-5. 食事時のむせの有無

「むせの有無」について、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科衛生士のチェックあり」の場合、「ほとんどなし」で253件（65.2%）、「歯科衛生士のチェックなし」の場合、「ほとんどなし」で379件（68.8%）であった。

表 76 むせの有無 [単位:件]

むせの有無	歯科衛生士のチェックあり		歯科衛生士のチェックなし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
ほとんどなし	253	65.2%	379	68.8%	632	67.3%
食事中1回くらい	116	29.9%	152	27.6%	268	28.5%
1口ごとに1回くらい	14	3.6%	15	2.7%	29	3.1%
1口ごとに2~3回またはそれ以上	4	1.0%	3	0.5%	7	0.7%
無回答	1	0.3%	2	0.4%	3	0.3%
合計	388	100.0%	551	100.0%	939	100.0%

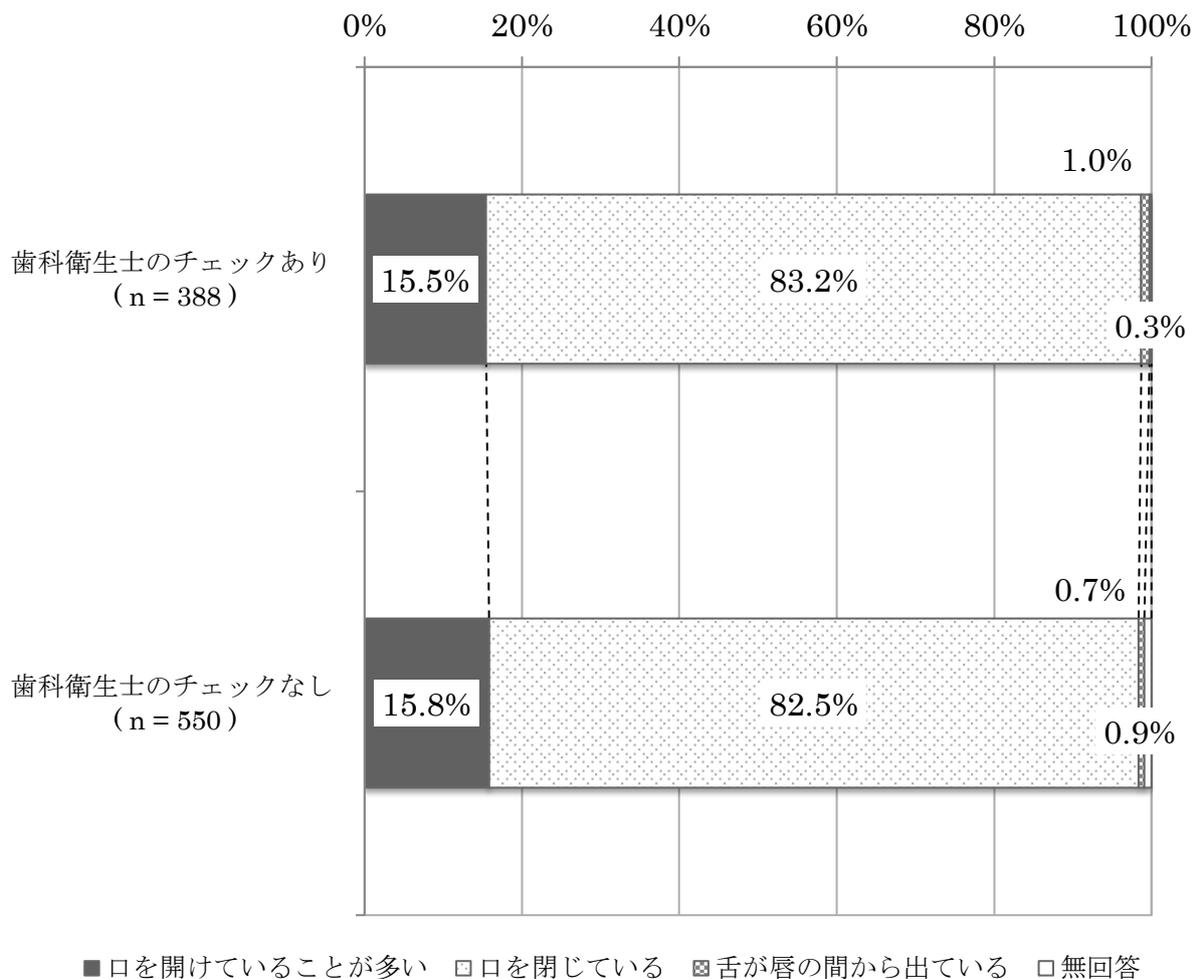


6-6. ふだん（日常）の状態

「ふだん（日常）の状態」について、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科衛生士のチェックあり」の場合、「口を閉じている」で323件（83.2%）、「歯科衛生士のチェックなし」の場合、「口を閉じている」で454件（82.5%）であった。

表 77 ふだんの状態 [単位:件]

ふだんの状態	歯科衛生士のチェックあり		歯科衛生士のチェックなし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
口を開けていることが多い	60	15.5%	87	15.8%	147	15.7%
口を閉じている	323	83.2%	454	82.5%	777	82.8%
舌が唇の間から出ている	4	1.0%	4	0.7%	8	0.9%
無回答	1	0.3%	5	0.9%	6	0.6%
合計	388	100.0%	550	100.0%	938	100.0%



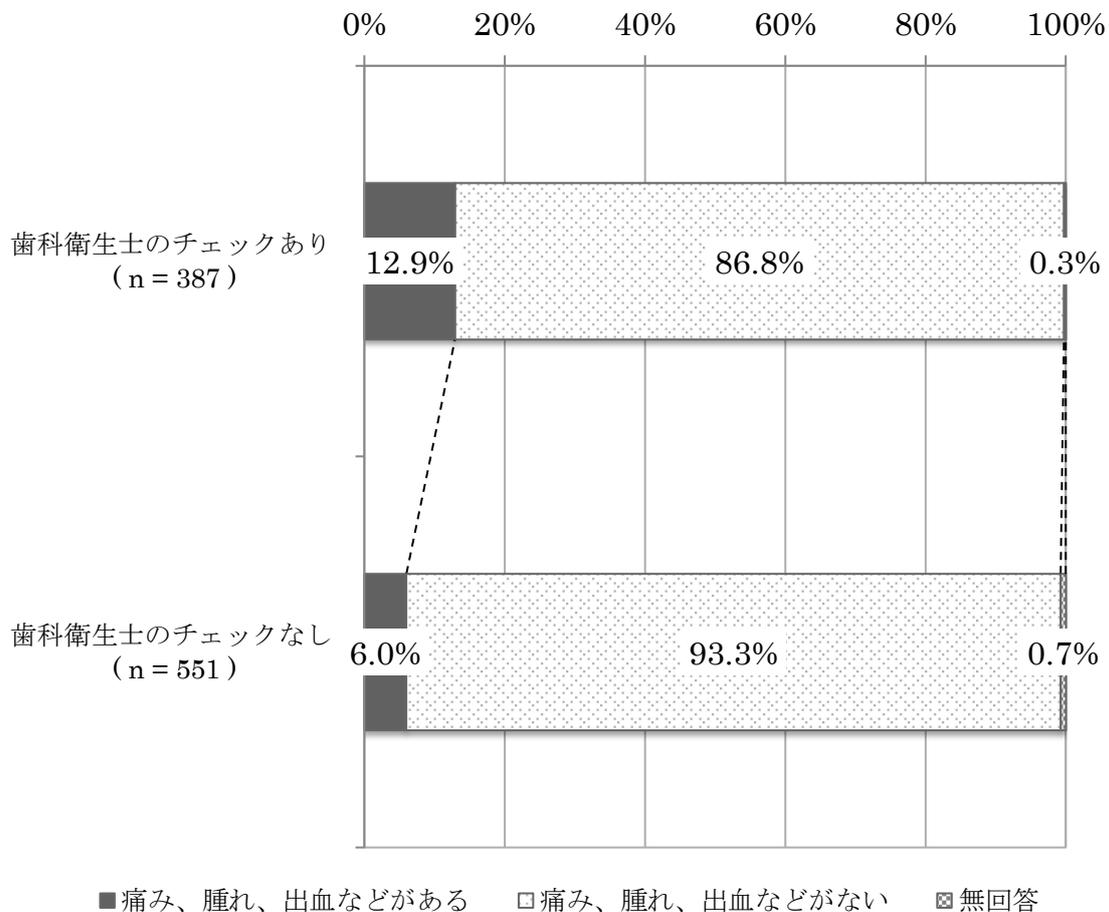
6-7. 歯肉（歯ぐき）などの状態

6-7-1. 痛み、腫れ出血など

「痛み、腫れ出血など」について、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科衛生士のチェックあり」の場合、「痛み、腫れ、出血などがない」で336件(86.8%)、「歯科衛生士のチェックなし」の場合、「痛み、腫れ、出血などがない」で514件(93.3%)であった。

表 388 痛み、腫れ出血など [単位:件]

痛み、腫れ出血など	歯科衛生士のチェックあり		歯科衛生士のチェックなし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
痛み、腫れ、出血などがある	50	12.9%	33	6.0%	83	8.8%
痛み、腫れ、出血などがない	336	86.8%	514	93.3%	850	90.6%
無回答	1	0.3%	4	0.7%	5	0.5%
合計	387	100.0%	551	100.0%	938	100.0%

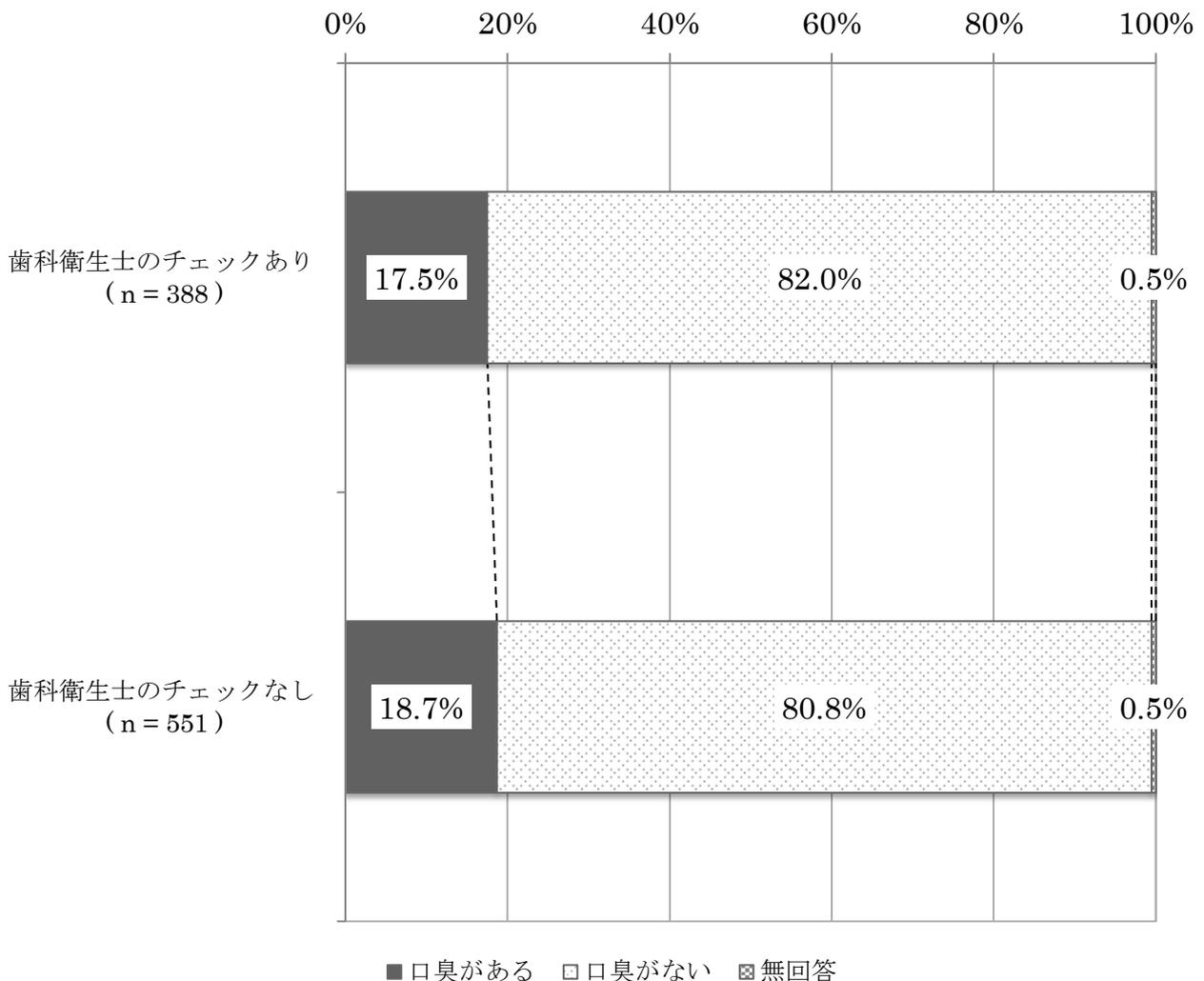


6-7-2. 口臭

「口臭」について、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」ごとに最も回答数が多い項目をみてみると、次の通りであった。「歯科衛生士のチェックあり」の場合、「口臭がない」で318件（82.0%）、「歯科衛生士のチェックなし」の場合、「口臭がない」で445件（80.8%）であった。

表 79 口臭 [単位:件]

口臭	歯科衛生士のチェックあり		歯科衛生士のチェックなし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
口臭がある	68	17.5%	103	18.7%	171	18.2%
口臭がない	318	82.0%	445	80.8%	763	81.3%
無回答	2	0.5%	3	0.5%	5	0.5%
合計	388	100.0%	551	100.0%	939	100.0%

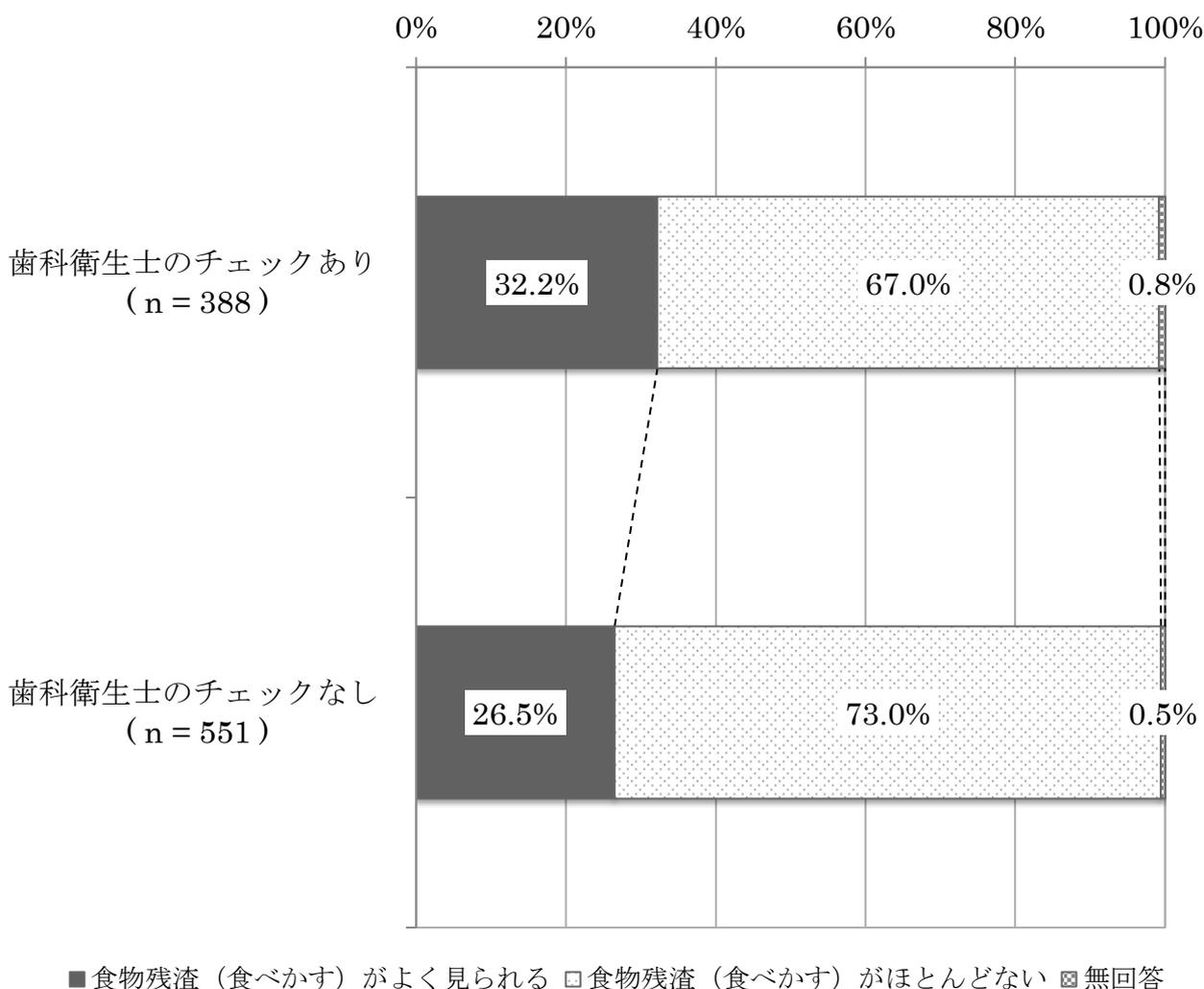


6-7-3. 食物残渣（食べかす）

「食物残渣（食べかす）」について、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「歯科衛生士のチェックあり」の場合、「食べかすがほとんどない」で260件（67.0%）、「歯科衛生士のチェックなし」の場合、「食べかすがほとんどない」で402件（73.0%）であった。

表 80 食べかす [単位:件]

食べかす	歯科衛生士のチェックあり		歯科衛生士のチェックなし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
食物残渣（食べかす）がよく見られる	125	32.2%	146	26.5%	271	28.9%
食物残渣（食べかす）がほとんどない	260	67.0%	402	73.0%	662	70.5%
無回答	3	0.8%	3	0.5%	6	0.6%
合計	388	100.0%	551	100.0%	939	100.0%

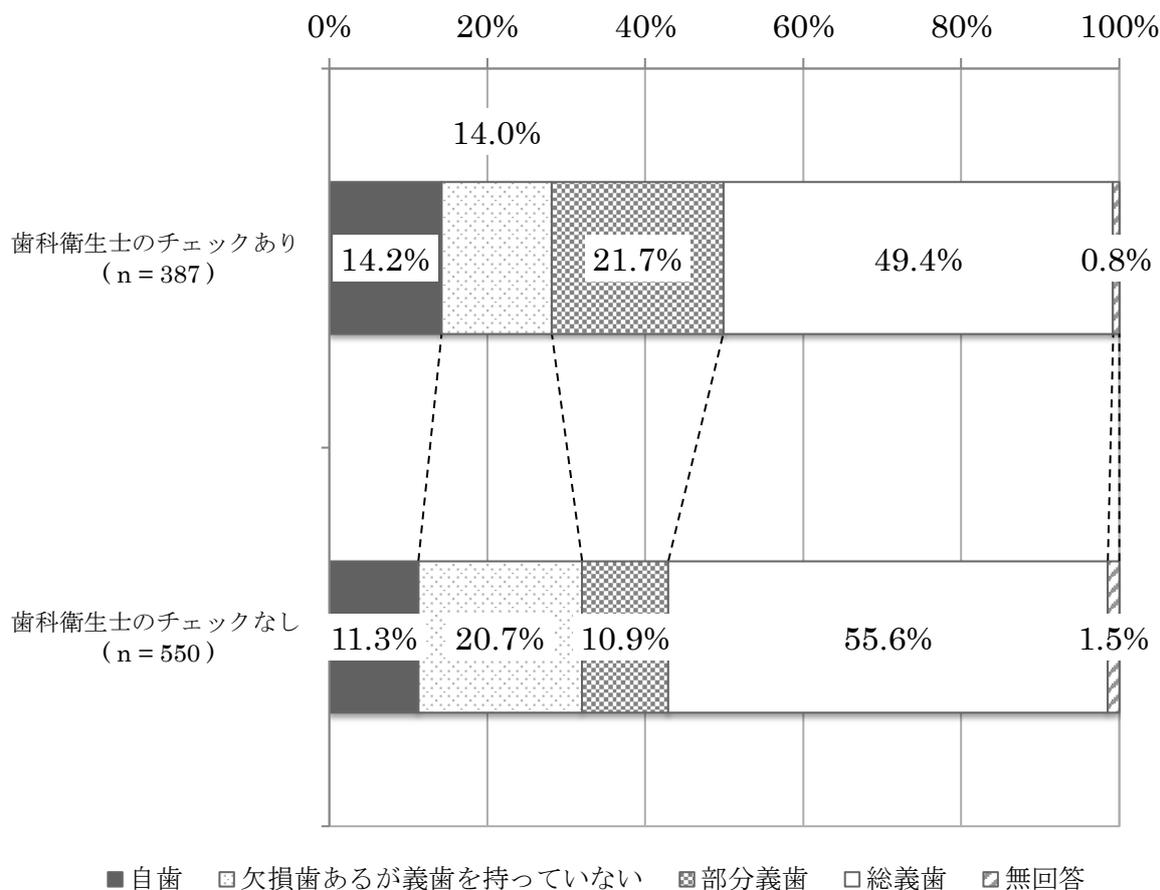


6-8. 上顎

「上顎」について、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」ごとに最も回答数が多い項目をみてみると、次の通りであった。「歯科衛生士のチェックあり」の場合、「総義歯」で191件(49.4%)、「歯科衛生士のチェックなし」の場合、「総義歯」で306件(55.6%)、「合計」の場合、「総義歯」で497件(49700.0%)であった。

表 81 上顎 [単位:件]

上顎	歯科衛生士のチェックあり		歯科衛生士のチェックなし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自歯	55	14.2%	62	11.3%	117	12.5%
欠損歯あるが義歯を持っていない	54	14.0%	114	20.7%	168	17.9%
部分義歯	84	21.7%	60	10.9%	144	15.4%
総義歯	191	49.4%	306	55.6%	497	53.0%
無回答	3	0.8%	8	1.5%	11	1.2%
合計	387	100.0%	550	100.0%	937	100.0%

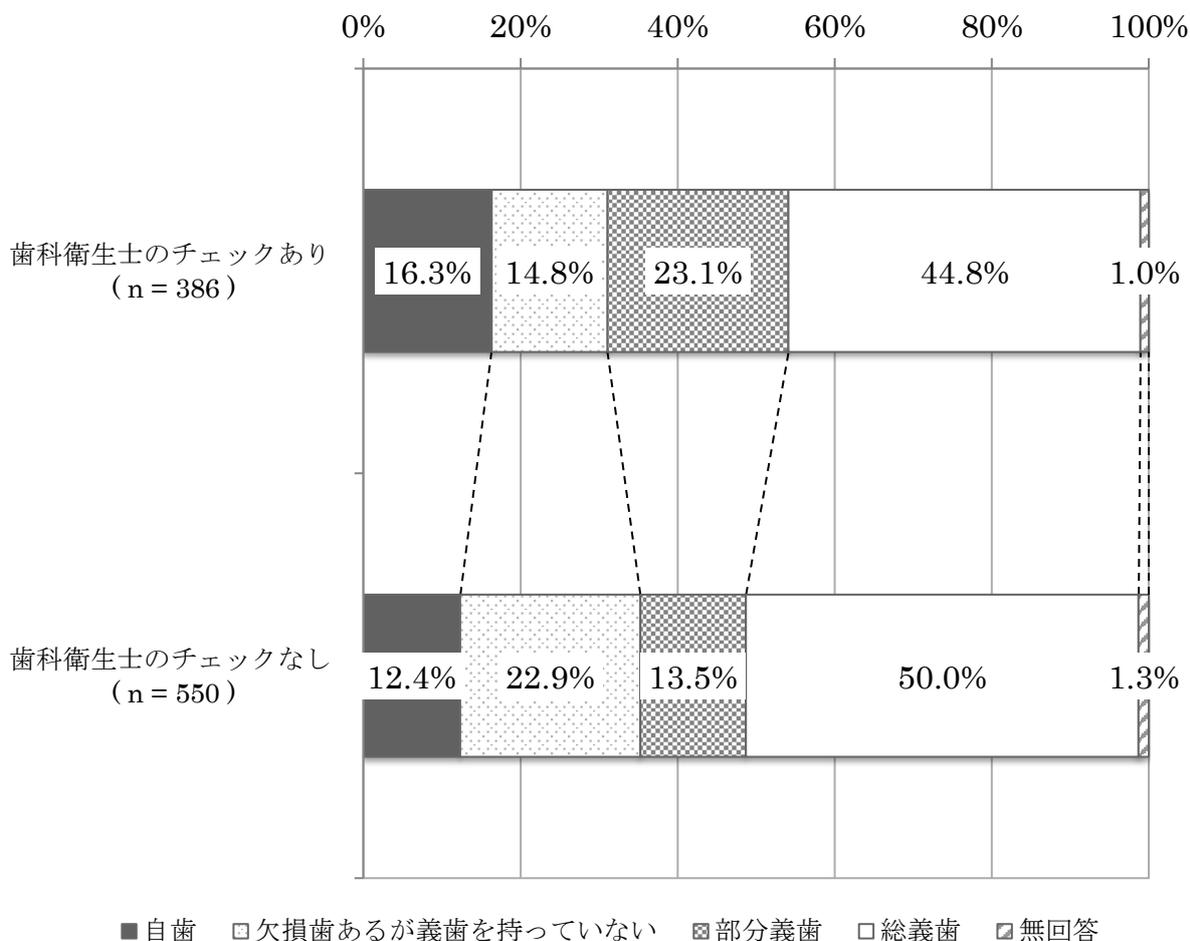


6-9. 下顎

「下顎」について、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」ごとに最も回答数が多い項目をみてみると、次の通りであった。「歯科衛生士のチェックあり」の場合、「総義歯」で173件(44.8%)、「歯科衛生士のチェックなし」の場合、「総義歯」で275件(50.0%)であった。

表 82 下顎 [単位:件]

下顎	歯科衛生士のチェックあり		歯科衛生士のチェックなし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自歯	63	16.3%	68	12.4%	131	14.0%
欠損歯あるが義歯を持っていない	57	14.8%	126	22.9%	183	19.6%
部分義歯	89	23.1%	74	13.5%	163	17.4%
総義歯	173	44.8%	275	50.0%	448	47.9%
無回答	4	1.0%	7	1.3%	11	1.2%
合計	386	100.0%	550	100.0%	936	100.0%



7. クロス集計（最近3か月の義歯調整の有無）

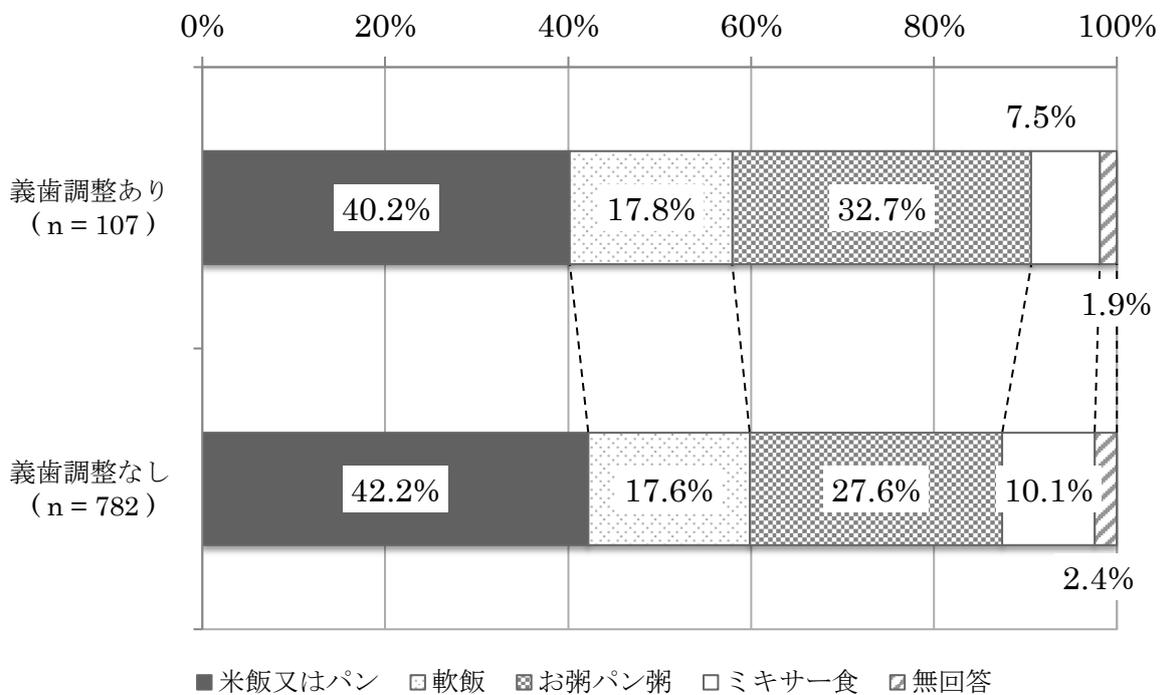
「食事の状況」、「口の状況」、「歯と義歯」に関する項目について、「最近3か月の義歯調整の有無」別にクロス集計を行った。その結果は次のとおりとなった。

7-1. 主食

「主食」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「米飯又はパン」で43件（40.2%）、「義歯調整なし」の場合、「米飯又はパン」で330件（42.2%）であった。

表 92 主食 [単位:件]

主食	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
米飯又はパン	43	40.2%	330	42.2%	373	42.0%
軟飯	19	17.8%	138	17.6%	157	17.7%
お粥パン粥	35	32.7%	216	27.6%	251	28.2%
ミキサー食	8	7.5%	79	10.1%	87	9.8%
無回答	2	1.9%	19	2.4%	21	2.4%
合計	107	100.0%	782	100.0%	889	100.0%

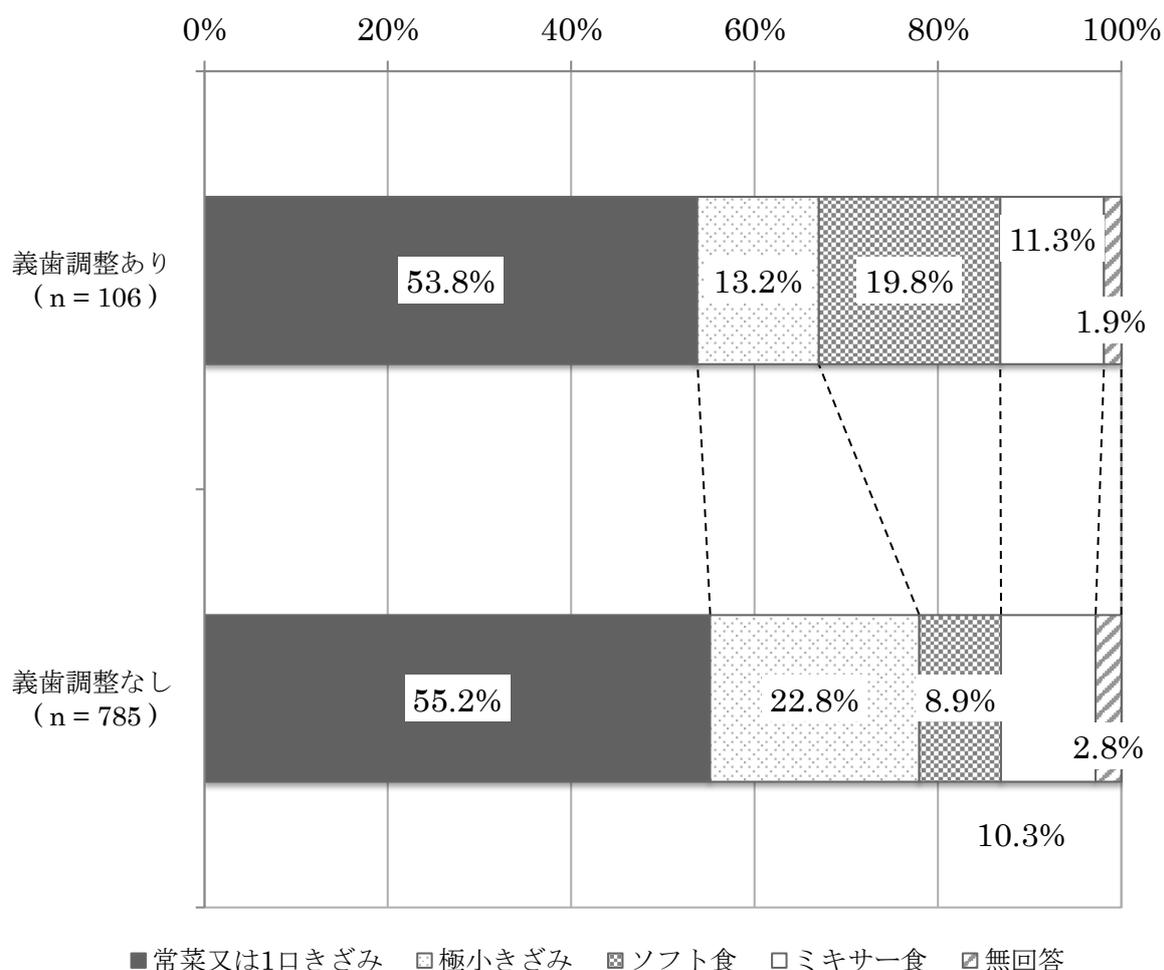


7-2. 副食

「副食」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「常菜又は1口きざみ」で57件（53.8%）、「義歯調整なし」の場合、「常菜又は1口きざみ」で433件（55.2%）であった。

表 93 副食 [単位:件]

副食	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
常菜又は1口きざみ	57	53.8%	433	55.2%	490	55.0%
極小きざみ	14	13.2%	179	22.8%	193	21.7%
ソフト食	21	19.8%	70	8.9%	91	10.2%
ミキサー食	12	11.3%	81	10.3%	93	10.4%
無回答	2	1.9%	22	2.8%	24	2.7%
合計	106	100.0%	785	100.0%	891	100.0%

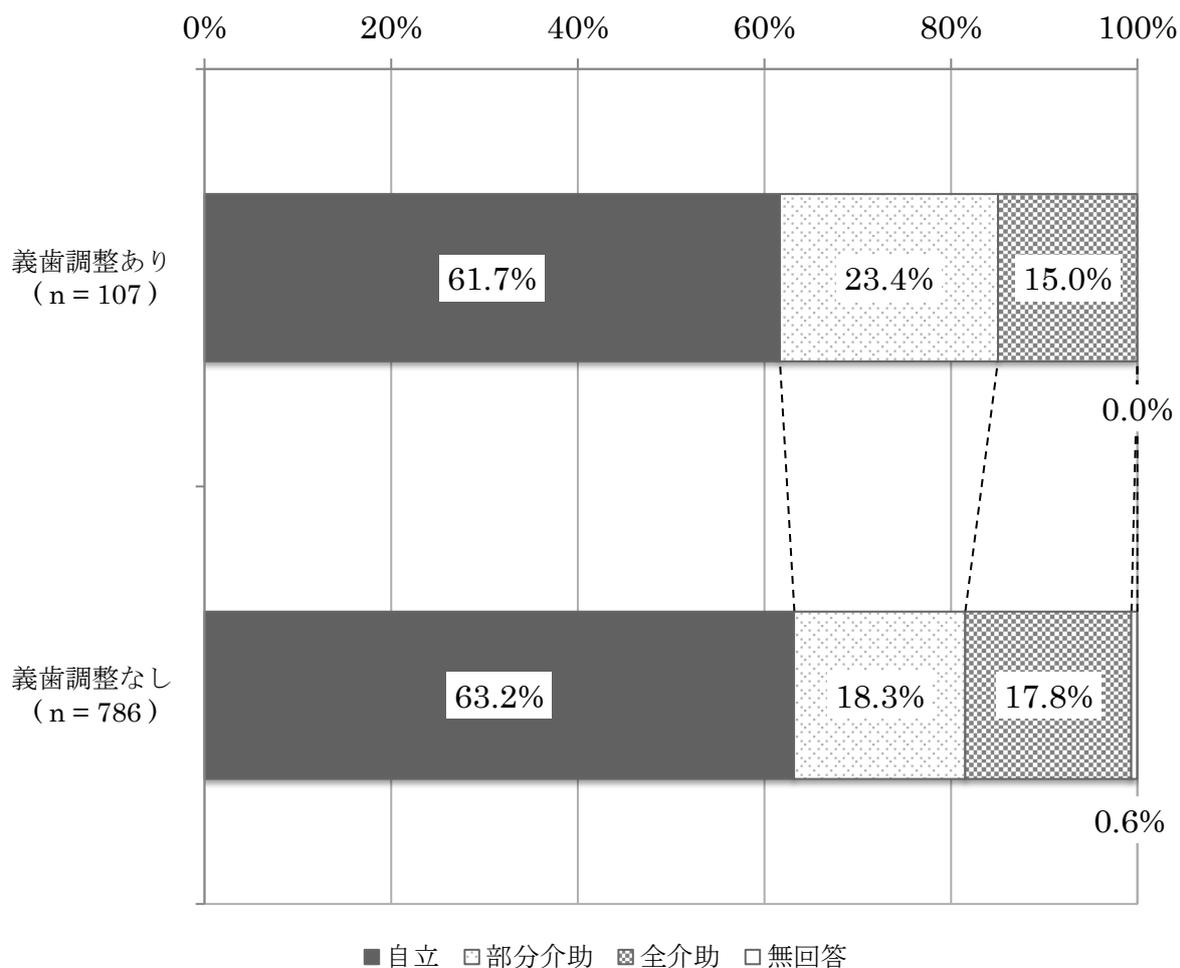


7-3. 食事動作

「食事動作」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「自立」で66件(61.7%)、「義歯調整なし」の場合、「自立」で497件(63.2%)であった。

表 94 食事動作 [単位:件]

食事動作	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自立	66	61.7%	497	63.2%	563	63.0%
部分介助	25	23.4%	144	18.3%	169	18.9%
全介助	16	15.0%	140	17.8%	156	17.5%
無回答	0	0.0%	5	0.6%	5	0.6%
合計	107	100.0%	786	100.0%	893	100.0%

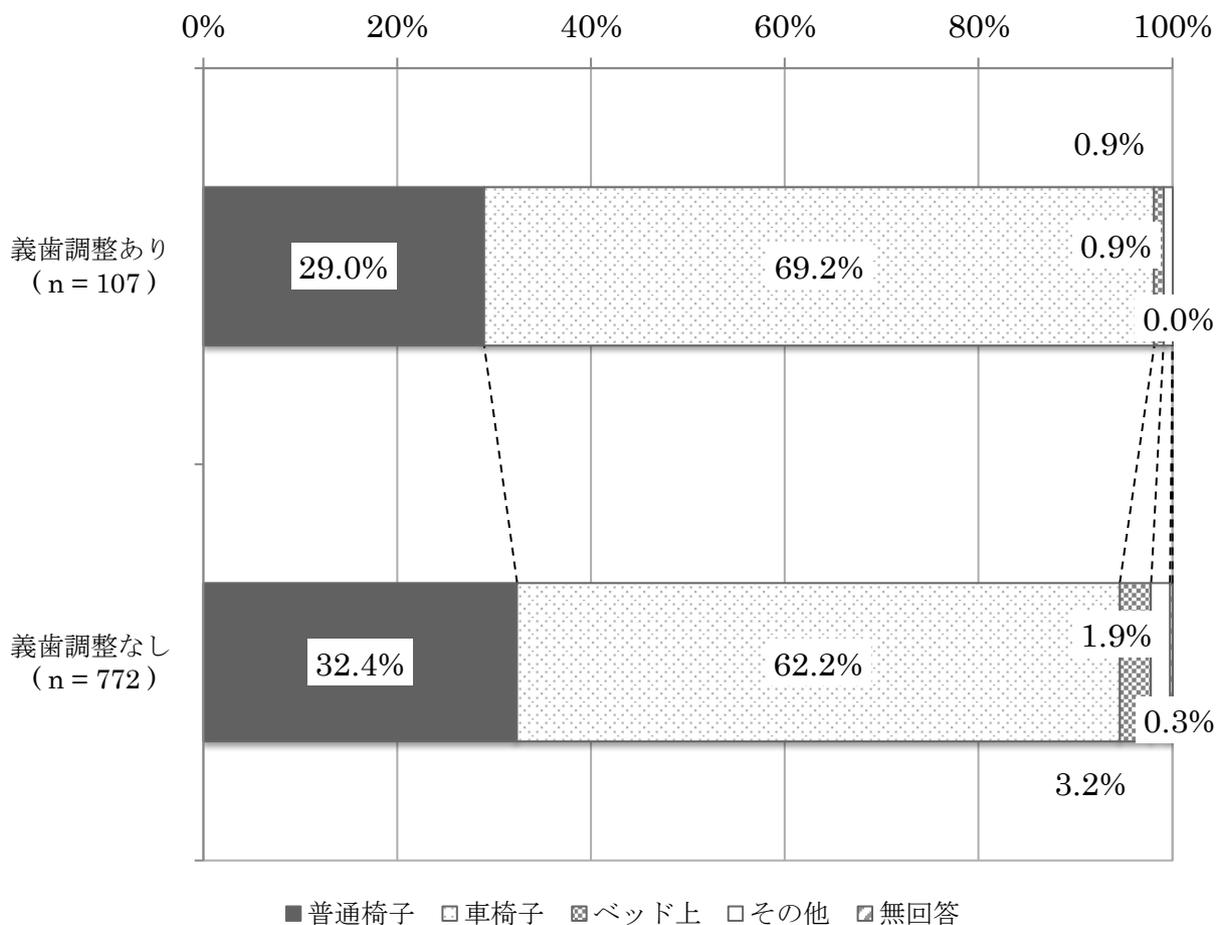


7-4. 食事時の姿勢

「姿勢」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「車椅子」で74件(69.2%)、「義歯調整なし」の場合、「車椅子」で480件(62.2%)であった。

表 95 姿勢 [単位:件]

姿勢	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
普通椅子	31	29.0%	250	32.4%	281	32.0%
車椅子	74	69.2%	480	62.2%	554	63.0%
ベッド上	1	0.9%	25	3.2%	26	3.0%
その他	1	0.9%	15	1.9%	16	1.8%
無回答	0	0.0%	2	0.3%	2	0.2%
合計	107	100.0%	772	100.0%	879	100.0%

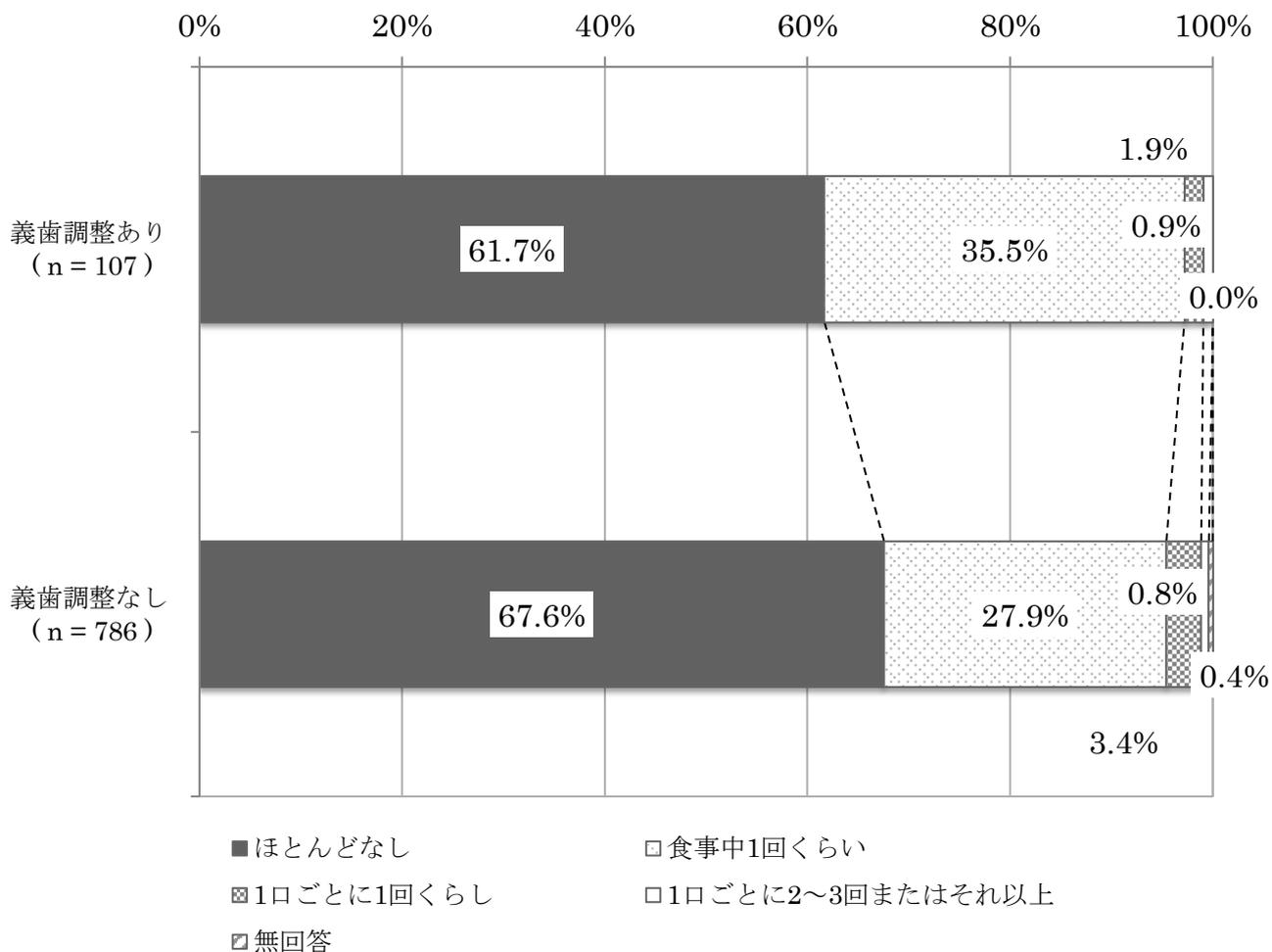


7-5. むせの有無

「むせの有無」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「ほとんどなし」で66件(61.7%)、「義歯調整なし」の場合、「ほとんどなし」で531件(67.6%)であった。

表 96 むせの有無 [単位:件]

むせの有無	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
ほとんどなし	66	61.7%	531	67.6%	597	66.9%
食事中1回くらい	38	35.5%	219	27.9%	257	28.8%
1口ごとに1回くらし	2	1.9%	27	3.4%	29	3.2%
1口ごとに2~3回またはそれ以上	1	0.9%	6	0.8%	7	0.8%
無回答	0	0.0%	3	0.4%	3	0.3%
合計	107	100.0%	786	100.0%	893	100.0%

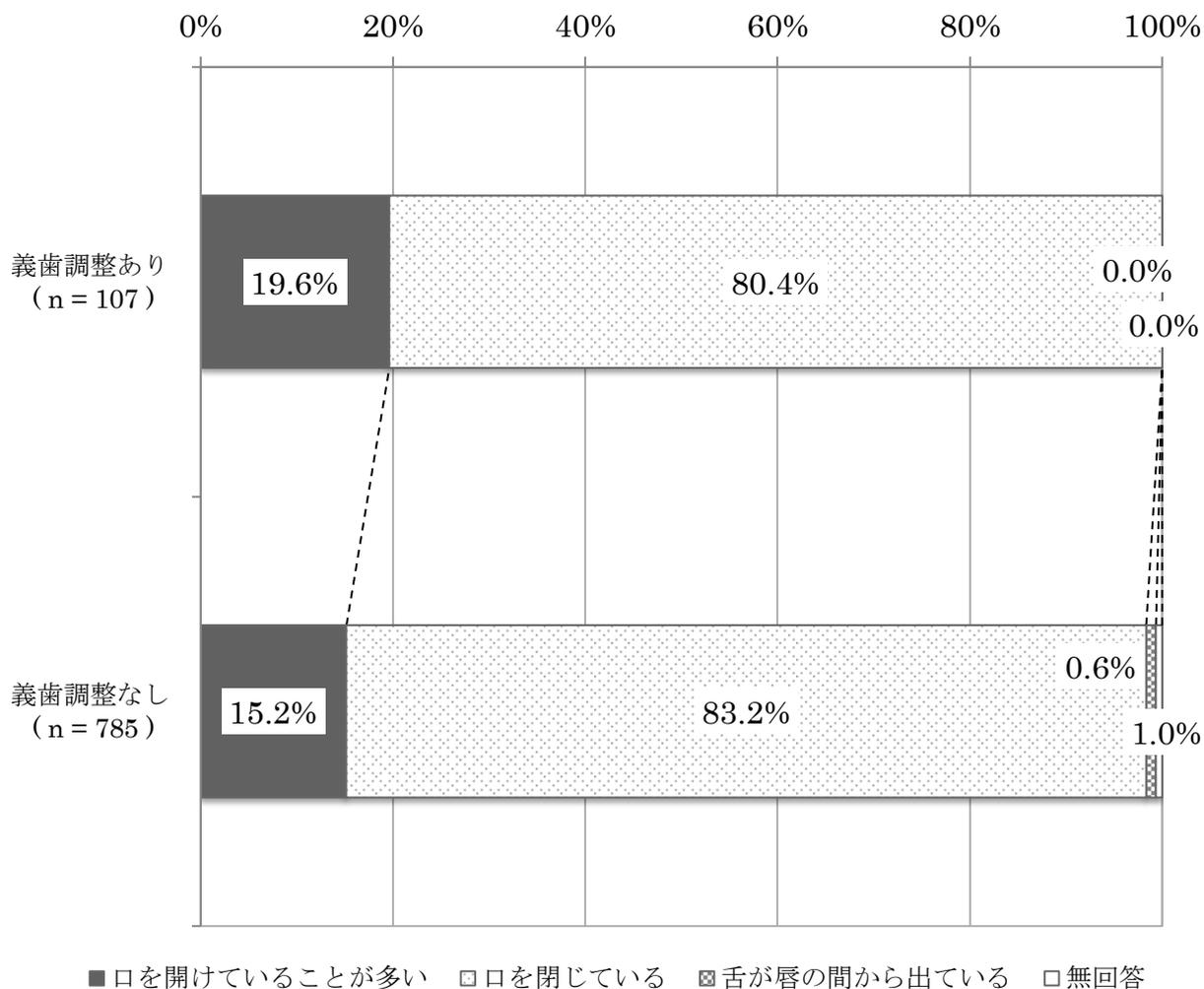


7-6. ふだん（日常）の状態

「ふだん（日常）の状態」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみてみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「口を閉じている」で86件（80.4%）、「義歯調整なし」の場合、「口を閉じている」で653件（83.2%）であった。

表 97 ふだん（日常）の状態 [単位:件]

ふだんの状態	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
口を開けていることが多い	21	19.6%	119	15.2%	140	15.7%
口を閉じている	86	80.4%	653	83.2%	739	82.8%
舌が唇の間から出ている	0	0.0%	8	1.0%	8	0.9%
無回答	0	0.0%	5	0.6%	5	0.6%
合計	107	100.0%	785	100.0%	892	100.0%



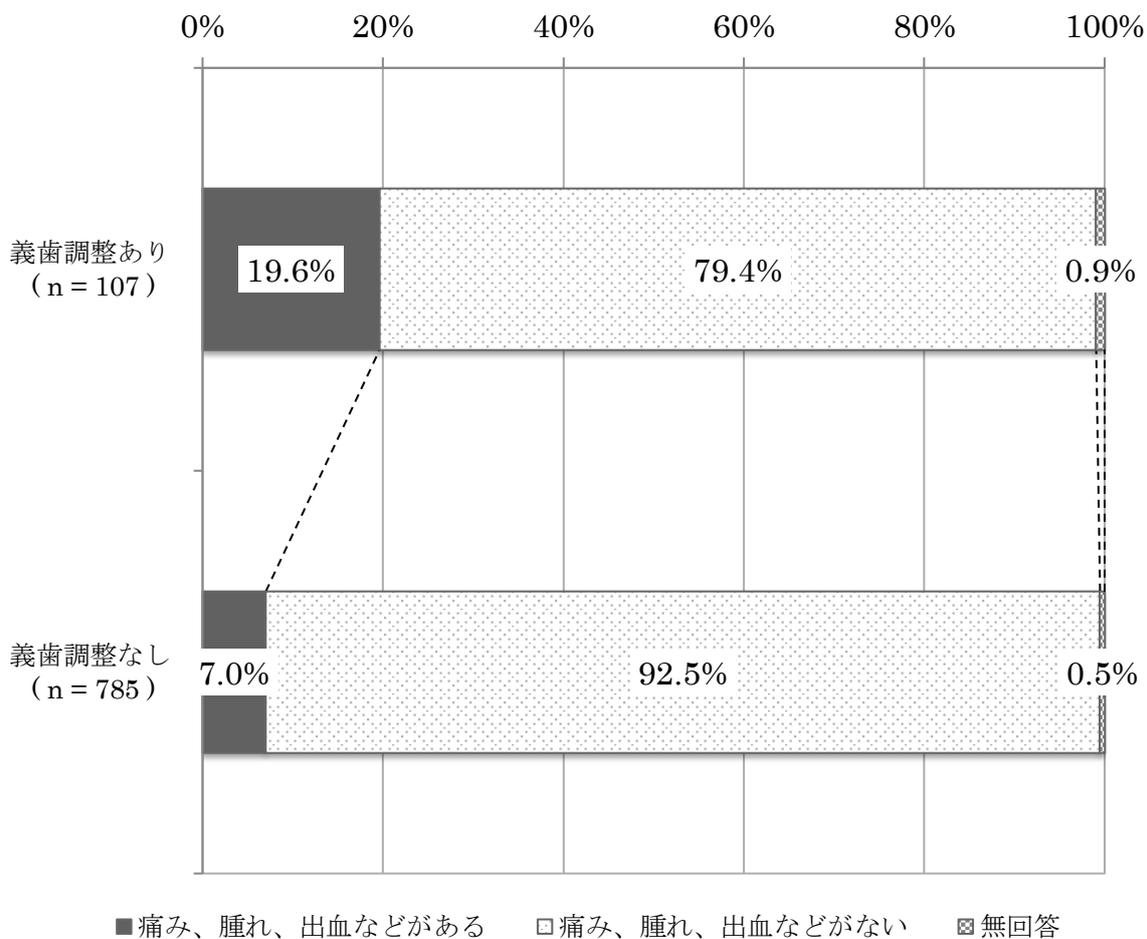
7-7. 歯ぐきなどの状態

7-7-1. 痛み、腫れ出血など

「痛み、腫れ出血など」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「痛み、腫れ、出血などがない」で85件(79.4%)、「義歯調整なし」の場合、「痛み、腫れ、出血などがない」で726件(92.5%)であった。

表 98 痛み、腫れ出血など [単位:件]

痛み、腫れ出血など	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
痛み、腫れ、出血などがある	21	19.6%	55	7.0%	76	8.5%
痛み、腫れ、出血などがない	85	79.4%	726	92.5%	811	90.9%
無回答	1	0.9%	4	0.5%	5	0.6%
合計	107	100.0%	785	100.0%	892	100.0%

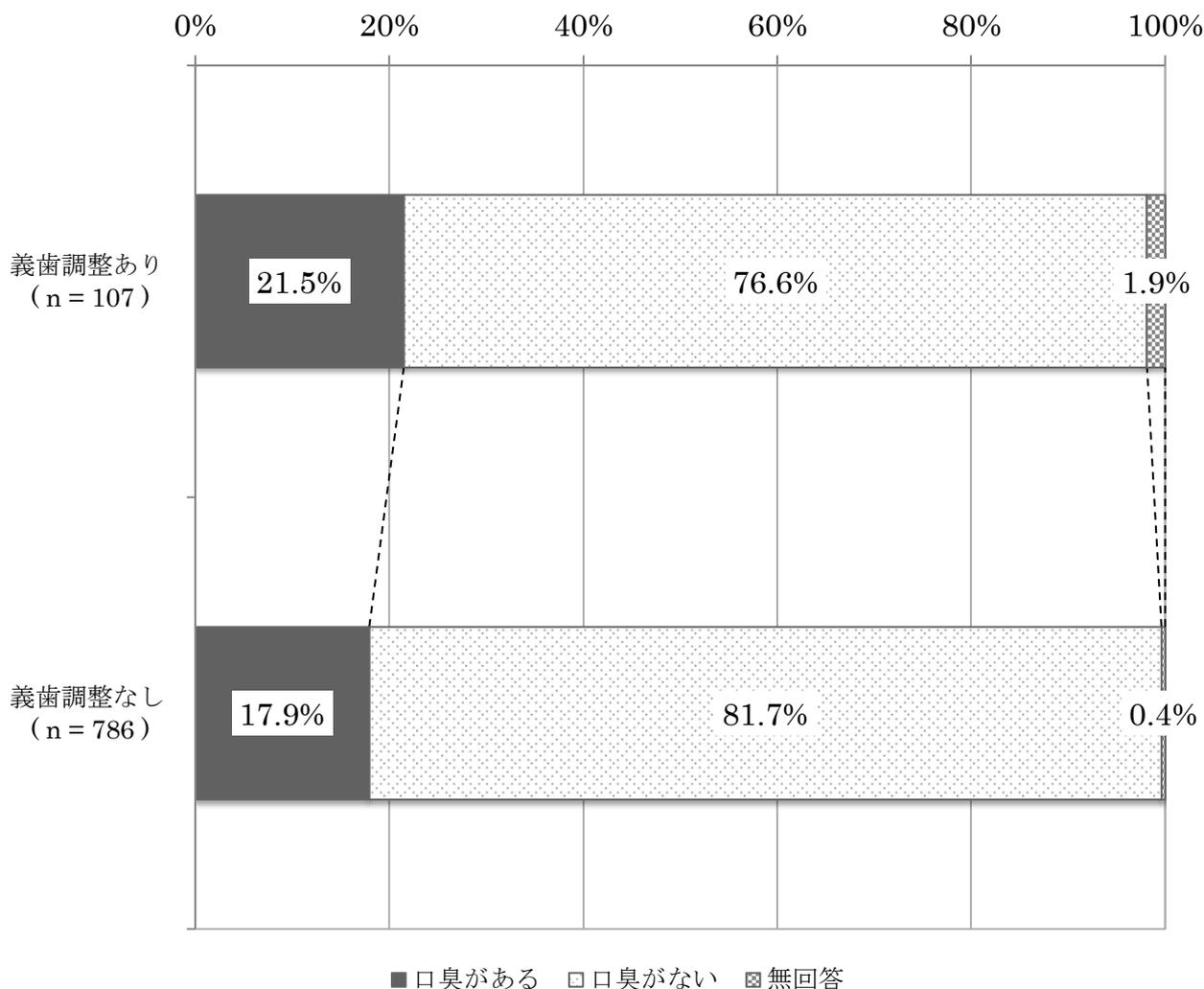


7-7-2. 口臭

「口臭」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「口臭がない」で82件(76.6%)、「義歯調整なし」の場合、「口臭がない」で642件(81.7%)であった。

表 99 口臭 [単位:件]

口臭	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
口臭がある	23	21.5%	141	17.9%	164	18.4%
口臭がない	82	76.6%	642	81.7%	724	81.1%
無回答	2	1.9%	3	0.4%	5	0.6%
合計	107	100.0%	786	100.0%	893	100.0%

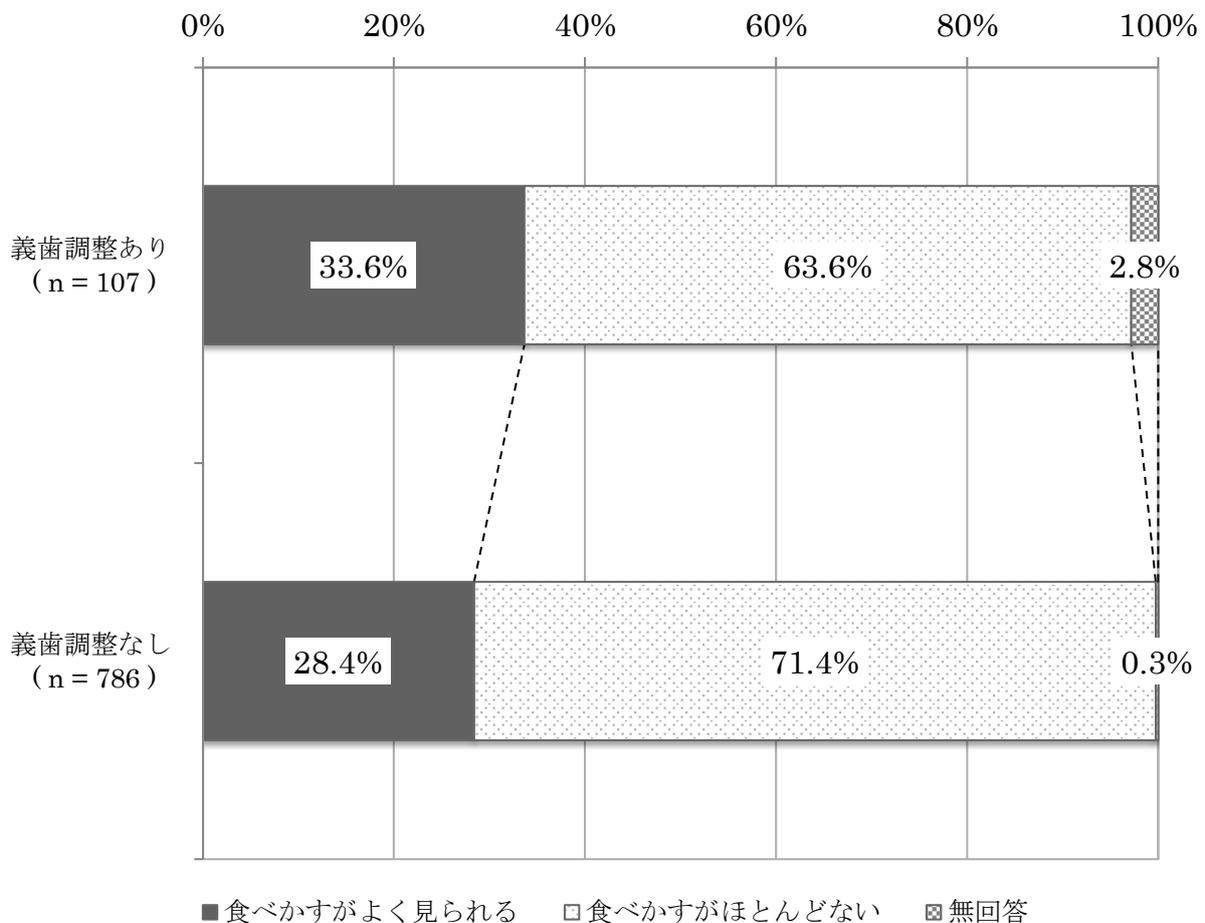


7-7-3. 食物残渣（食べかす）

「食物残渣（食べかす）」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「食物残渣（食べかす）がほとんどない」で68件（63.6%）、「義歯調整なし」の場合、「食物残渣（食べかす）がほとんどない」で561件（71.4%）であった。

表 100 食べかす [単位:件]

食べかす	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
食物残渣（食べかす）がよく見られる	36	33.6%	223	28.4%	259	29.0%
食物残渣（食べかす）がほとんどない	68	63.6%	561	71.4%	629	70.4%
無回答	3	2.8%	2	0.3%	5	0.6%
合計	107	100.0%	786	100.0%	893	100.0%



7-8. 上顎

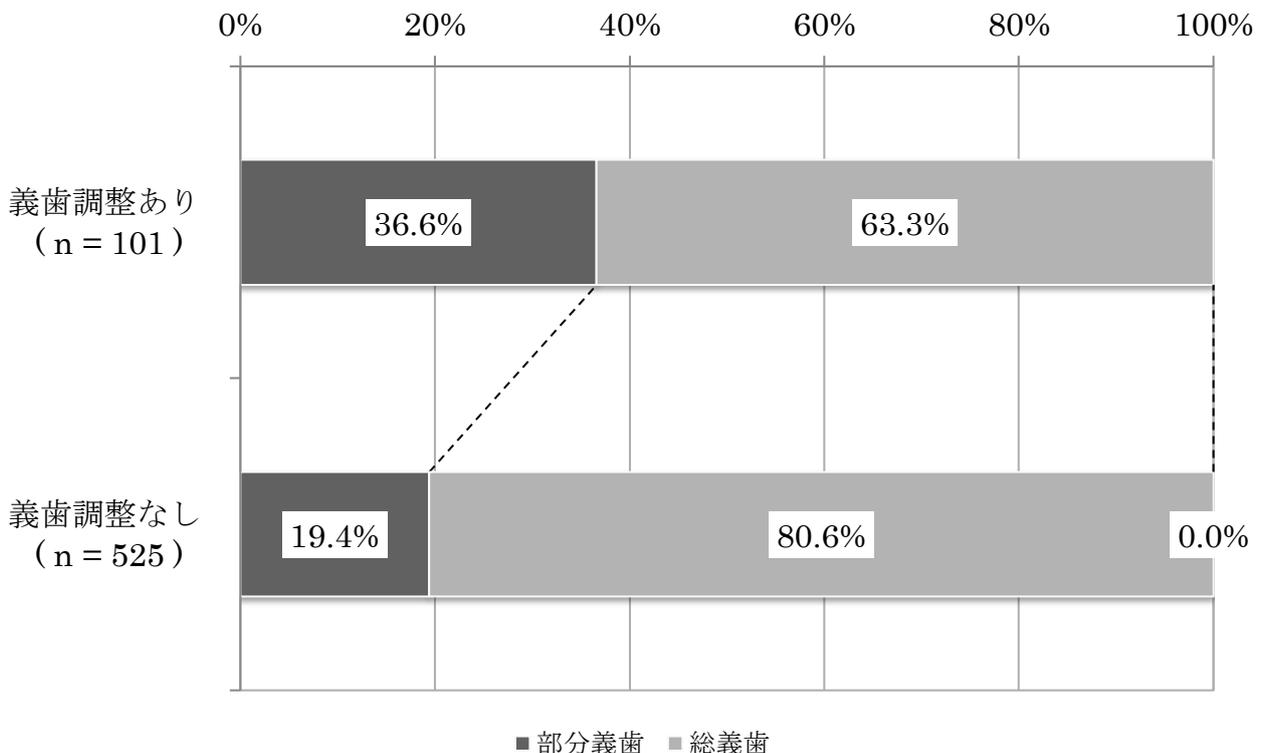
「上顎」の状態を「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「総義歯」は64件(59.8%)、「義歯調整なし」の場合、「総義歯」は423件(53.9%)であった。義歯のある方を対象として表101-1を作成した。

表 101 上顎 [単位:件]

上顎	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自歯	5	4.7%	96	12.2%	101	11.3%
欠損歯あるが義歯を持っていない	1	0.9%	154	19.6%	155	17.4%
部分義歯	37	34.6%	102	13.0%	139	15.6%
総義歯	64	59.8%	423	53.9%	487	54.6%
無回答	0	0.0%	10	1.3%	10	1.1%
合計	107	100.0%	785	100.0%	892	100.0%

表 101-1 上顎 [単位:件]

上顎	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
部分義歯	37	36.6%	102	19.4%	139	22.2%
総義歯	64	63.4%	423	80.6%	487	77.8%
合計	107	100.0%	785	100.0%	892	100.0%



7-9. 下顎

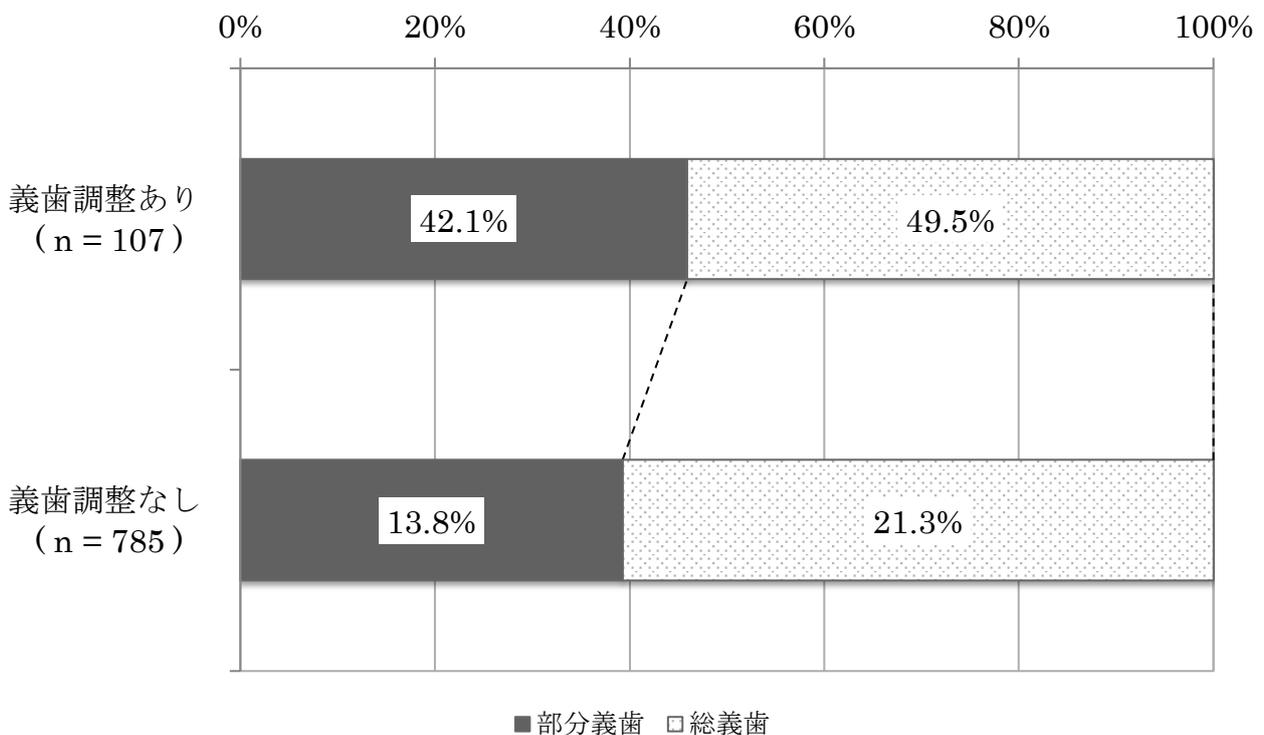
「下顎」の状態を「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「総義歯」は53件(49.5%)、「義歯調整なし」の場合、「総義歯」は383件(48.8%)であった。義歯のある方を対象として表102-1を作成した。

表 102 下顎 [単位:件]

下顎	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自歯	7	6.5%	108	13.8%	115	12.9%
欠損歯あるが義歯を持っていない	2	1.9%	167	21.3%	169	18.9%
部分義歯	45	42.1%	117	14.9%	162	18.2%
総義歯	53	49.5%	383	48.8%	436	48.9%
無回答	0	0.0%	10	1.3%	10	1.1%
合計	107	100.0%	785	100.0%	892	100.0%

表 102-1 下顎 [単位:件]

下顎	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
部分義歯	45	45.9%	117	23.4%	162	27.1%
総義歯	53	54.1%	383	76.6%	436	72.9%
合計	107	100.0%	785	100.0%	892	100.0%

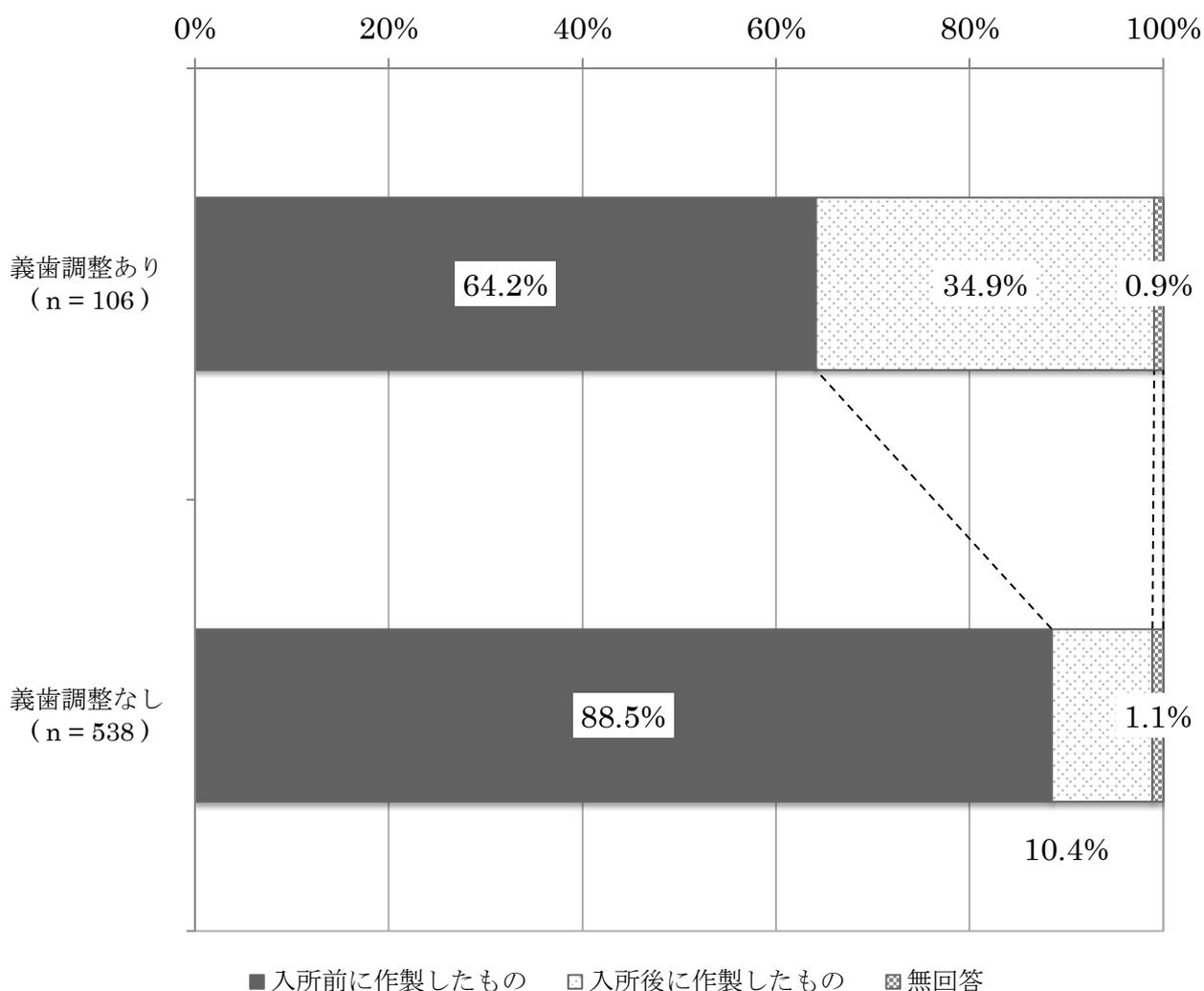


7-10. 義歯の作成時期

「義歯の作成時期」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「入所前に作製したもの」で68件(64.2%)、「義歯調整なし」の場合、「入所前に作製したもの」で476件(88.5%)であった。

表 103 義歯の作成時期 [単位:件]

義歯の作成時期	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
入所前に作製したもの	68	64.2%	476	88.5%	544	84.5%
入所後に作製したもの	37	34.9%	56	10.4%	93	14.4%
無回答	1	0.9%	6	1.1%	7	1.1%
合計	106	100.0%	538	100.0%	644	100.0%

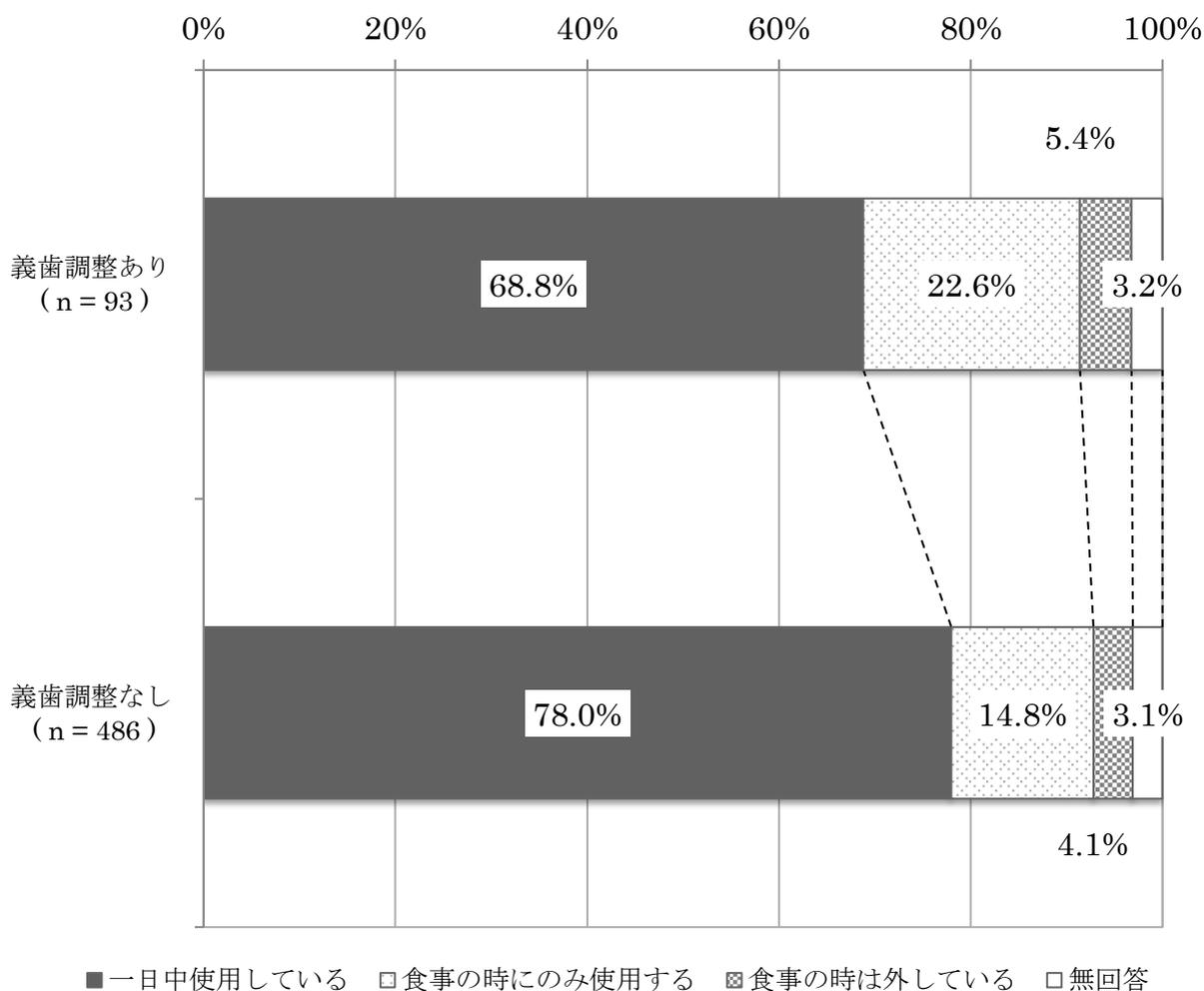


7-1 1. 義歯の使用状況

「義歯の使用状況」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「一日中使用している」で64件(68.8%)、「義歯調整なし」の場合、「一日中使用している」で379件(78.0%)であった。

表 104 義歯の使用状況 [単位:件]

義歯の使用状況	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
一日中使用している	64	68.8%	379	78.0%	443	76.5%
食事の時にのみ使用する	21	22.6%	72	14.8%	93	16.1%
食事の時は外している	5	5.4%	20	4.1%	25	4.3%
無回答	3	3.2%	15	3.1%	18	3.1%
合計	93	100.0%	486	100.0%	579	100.0%

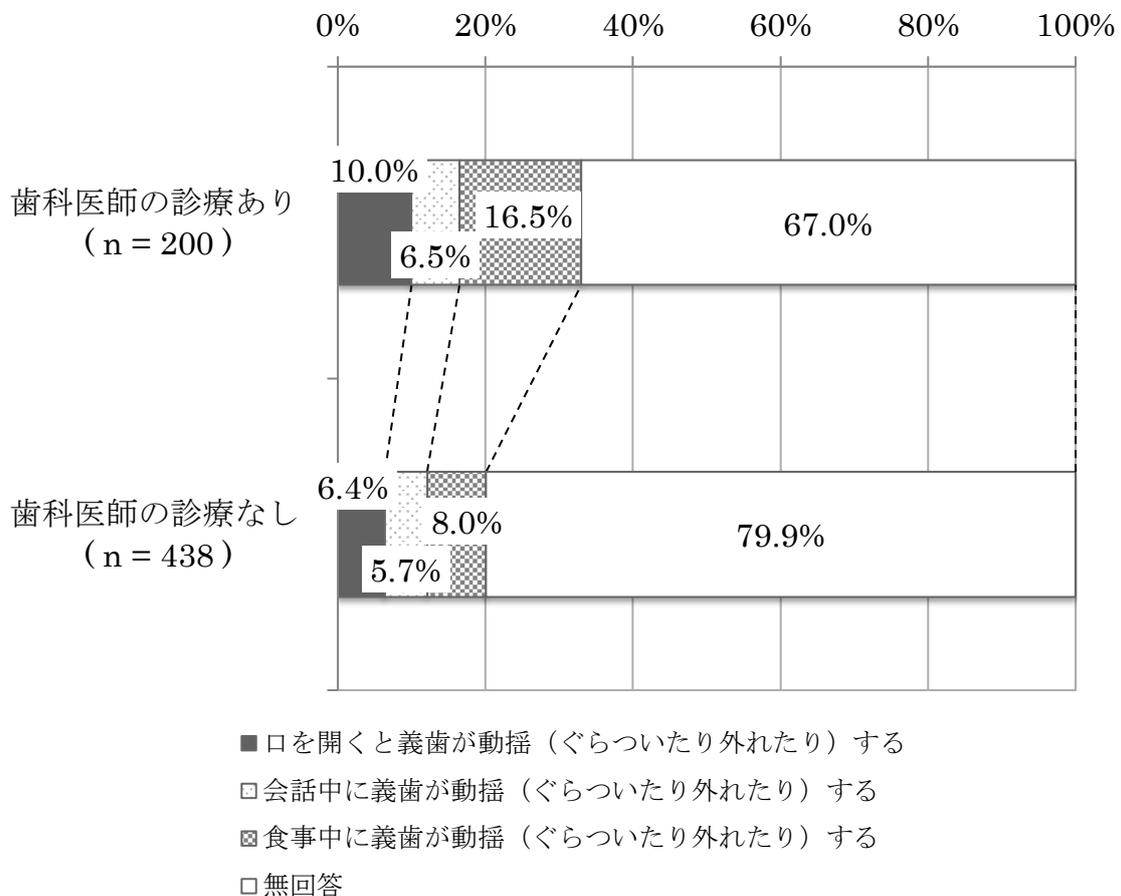


7-1 2. 義歯の適合性

「義歯の適合性」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「食事中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する」で28件（26.9%）、「義歯調整なし」の場合、「食事中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する」で40件（7.6%）であった。

表 105 義歯の適合性 [単位:件]

義歯の適合性	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
口を開くと義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する	9	8.7%	38	7.2%	47	7.4%
会話中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する	7	6.7%	31	5.9%	38	6.0%
食事中に義歯が動揺（ぐらついたり外れたり）する	28	26.9%	40	7.6%	68	10.8%
無回答	60	57.7%	418	79.3%	478	75.8%
合計	104	100.0%	527	100.0%	631	100.0%

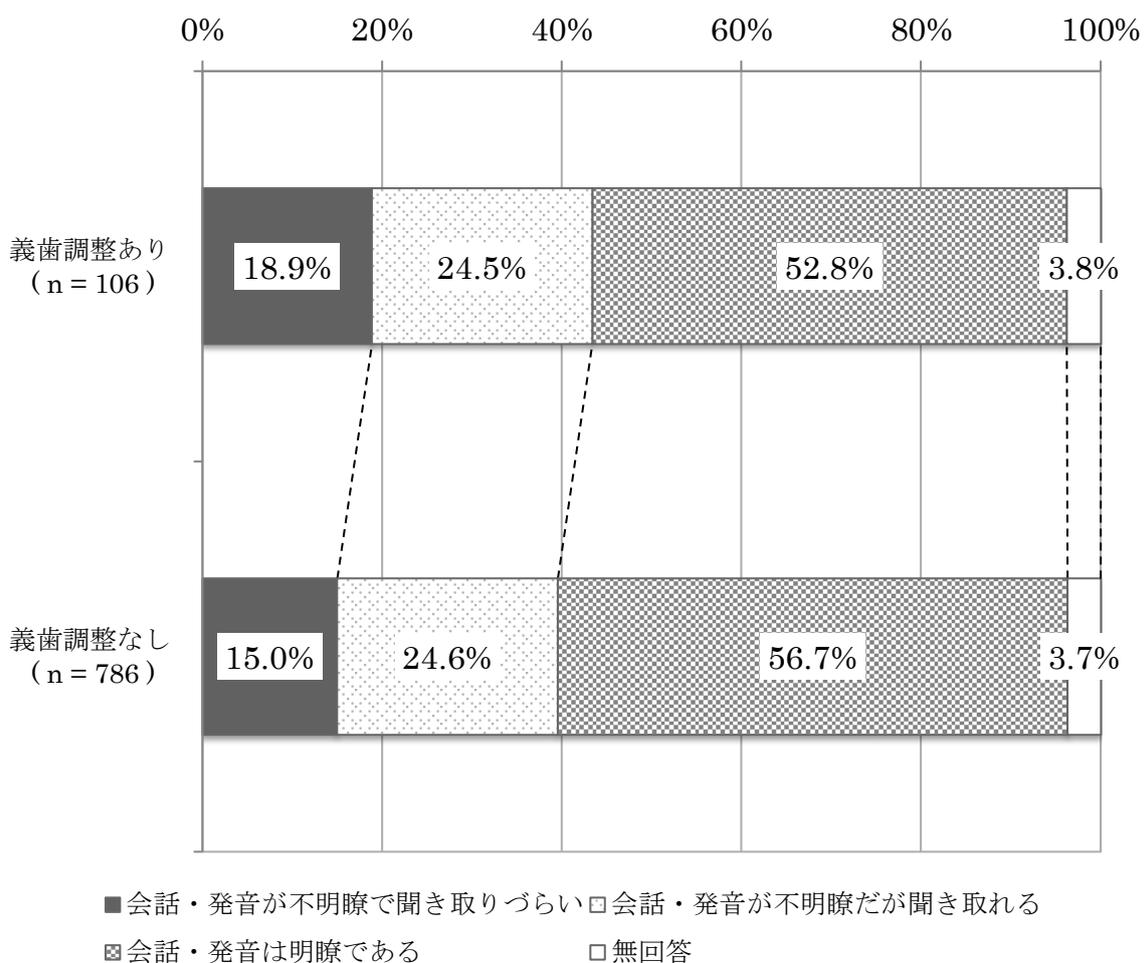


7-13. 会話の明瞭度

「会話の明瞭度」について、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯調整あり」の場合、「会話・発音は明瞭である」で56件（52.8%）、「義歯調整なし」の場合、「会話・発音は明瞭である」で446件（56.7%）であった。

表 106 会話の明瞭度 [単位:件]

会話の明瞭度	義歯調整あり		義歯調整なし		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
会話・発音が不明瞭で聞き取りづらい	20	18.9%	118	15.0%	138	15.5%
会話・発音が不明瞭だが聞き取れる	26	24.5%	193	24.6%	219	24.6%
会話・発音は明瞭である	56	52.8%	446	56.7%	502	56.3%
無回答	4	3.8%	29	3.7%	33	3.7%
合計	106	100.0%	786	100.0%	892	100.0%



8. クロス集計（義歯の有無とバーセルインデックス：機能評価）

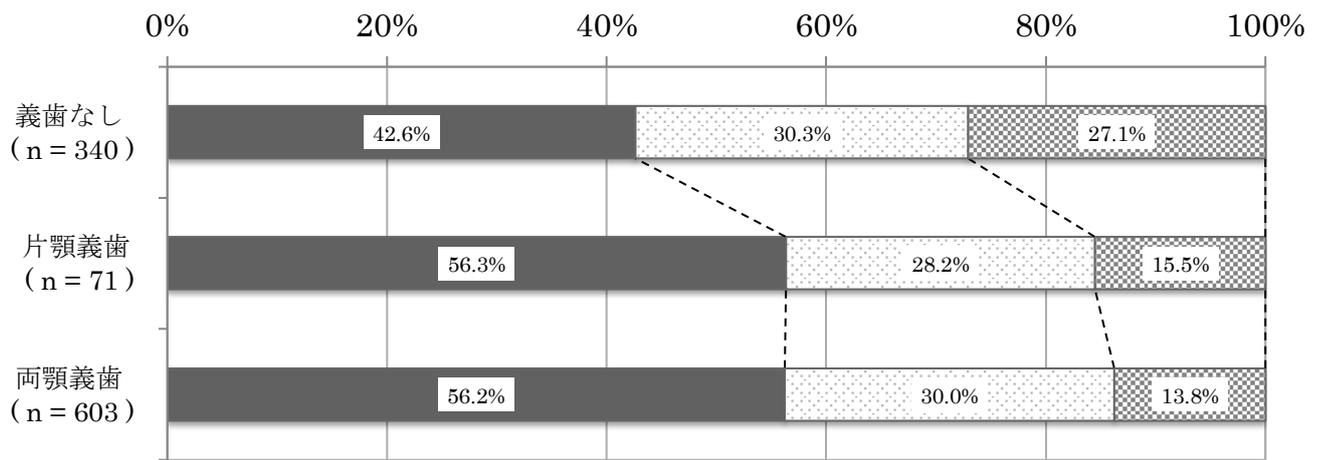
「バーセルインデックス：機能的評価」に関する項目について、「義歯の有無」別にクロス集計を行った。その結果は次のとおりとなった。

8-1. 食事

「食事」について、「義歯の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。すべての場合において、「自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える」が最も回答が多かった。件数と比率をみると「義歯なし」で145件（42.6%）、「片顎義歯」の場合40件（56.3%）、「両顎義歯」の場合で339件（56.2%）であった。

表 3907 食事 [単位:件]

食事	義歯なし		片顎義歯		両顎義歯		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	145	42.6%	40	56.3%	339	56.2%	524	51.7%
部分介助（たとえば、おかずを切って細かくしてもらう）	103	30.3%	20	28.2%	181	30.0%	304	30.0%
全介助	92	27.1%	11	15.5%	83	13.8%	186	18.3%
合計	340	100.0%	71	100.0%	603	100.0%	1014	100.0%



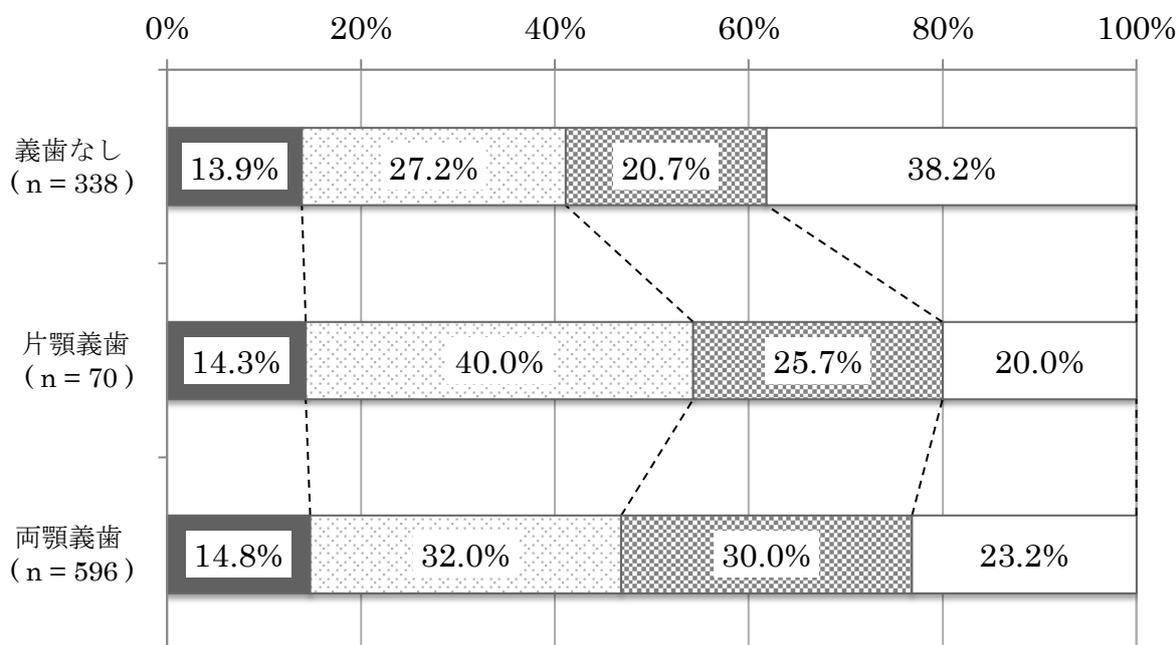
- 自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える
- 部分介助（たとえば、おかずを切って細かくしてもらう）
- ▣ 全介助

8-2. 車椅子からベッドへの移動

「車椅子からベッドへの移動」について、「義歯の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯なし」の場合、「全介助または不可能」で129件（38.2%）であった。「片顎義歯」と「両顎義歯」の場合、「軽度の部分介助または監視を要する」が最も回答が多く、「片顎義歯」の場合、28件（40.0%）、「両顎義歯」の場合、191件（32.0%）であった。

表 108 車椅子からベッドへの移動 [単位:件]

車椅子からベッドへの移動	義歯なし		片顎義歯		両顎義歯		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む（非行自立も含む）	47	13.9%	10	14.3%	88	14.8%	145	14.4%
軽度の部分介助または監視を要する	92	27.2%	28	40.0%	191	32.0%	311	31.0%
座ることは可能であるがほぼ全介助	70	20.7%	18	25.7%	179	30.0%	267	26.6%
全介助または不可能	129	38.2%	14	20.0%	138	23.2%	281	28.0%
合計	338	100.0%	70	100.0%	596	100.0%	1004	100.0%



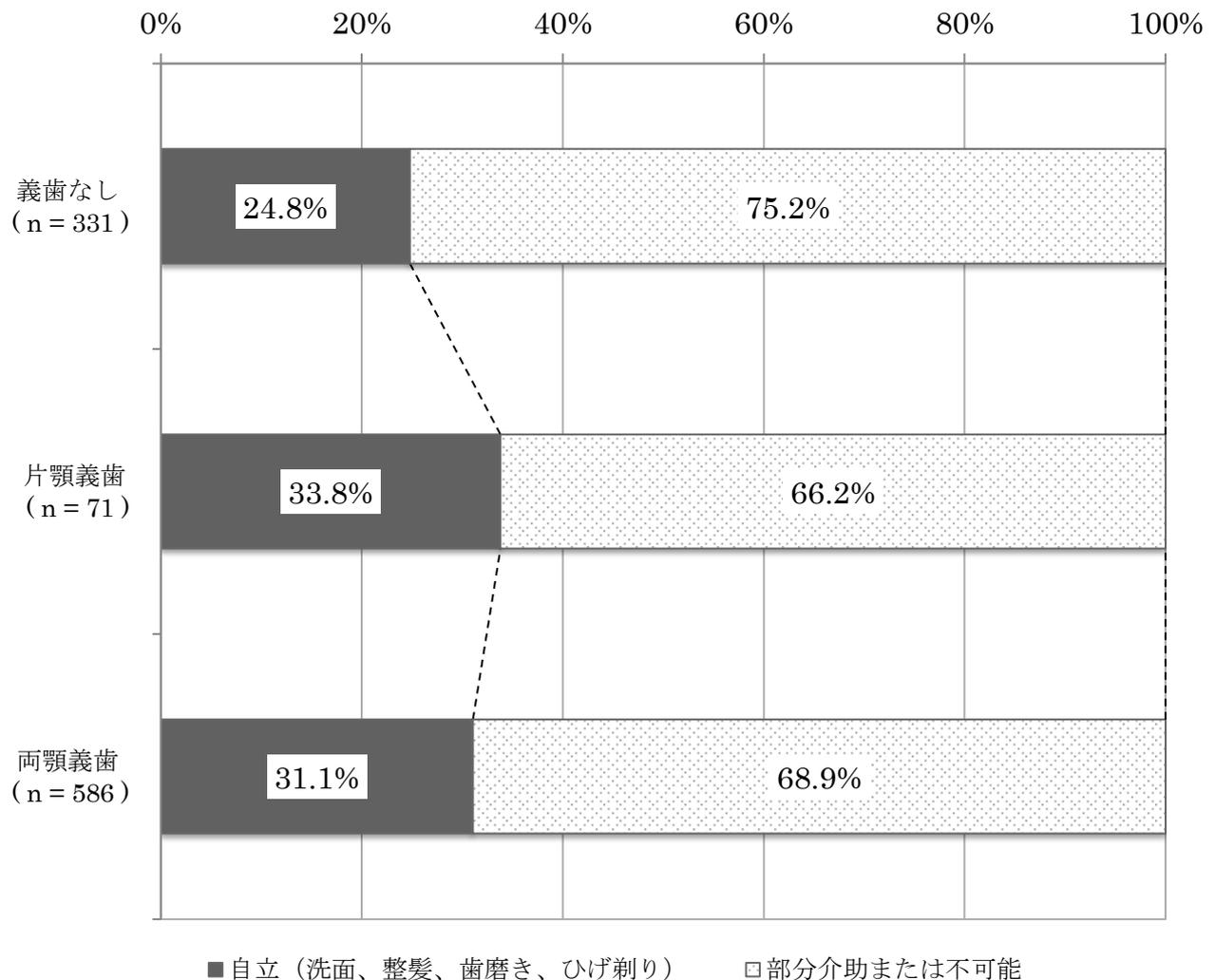
- 自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む（非行自立も含む）
- ▨ 軽度の部分介助または監視を要する
- ▩ 座ることは可能であるがほぼ全介助
- 全介助または不可能

8-3. 整容

「整容」について、「義歯の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。すべての場合において、「部分介助または不可能」の回答が最も多かった。回答数をみると、「義歯なし」の場合、249件（75.2%）、「片顎義歯」の場合、47件（66.2%）、「両顎義歯」の場合、404件（68.9%）であった。

表 109 整容 [単位:件]

整容	義歯なし		片顎義歯		両顎義歯		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自立（洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り）	82	24.8%	24	33.8%	182	31.1%	288	29.1%
部分介助または不可能	249	75.2%	47	66.2%	404	68.9%	700	70.9%
合計	331	100.0%	71	100.0%	586	100.0%	988	100.0%

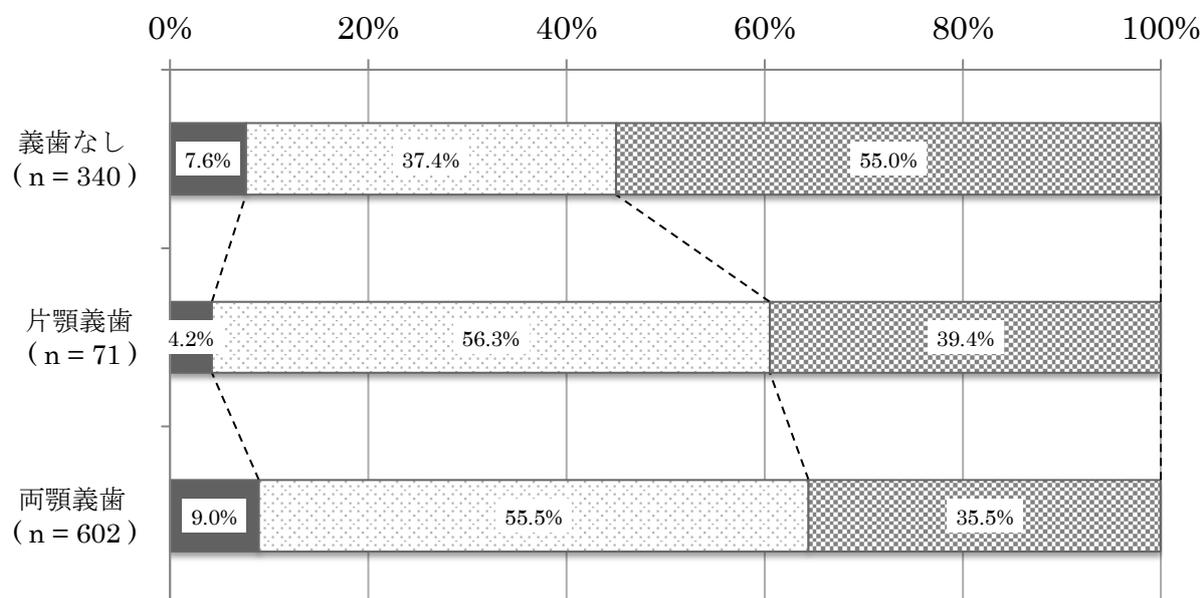


8-4. トイレ動作

「トイレ動作」について、「義歯の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯なし」の場合、「全介助または不可能」の回答が最も多く、187件（55.0%）であった。「片顎義歯」と「両顎義歯」の場合、「部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する」が最も回答が多く、回答数は、「片顎義歯」の場合、40件（56.3%）、「両顎義歯」の場合、334件（55.5%）であった。

表 110 トイレ動作 [単位:件]

トイレ動作	義歯なし		片顎義歯		両顎義歯		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自立（衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む）	26	7.6%	3	4.2%	54	9.0%	83	8.2%
部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	127	37.4%	40	56.3%	334	55.5%	501	49.5%
全介助または不可能	187	55.0%	28	39.4%	214	35.5%	429	42.3%
合計	340	100.0%	71	100.0%	602	100.0%	1013	100.0%



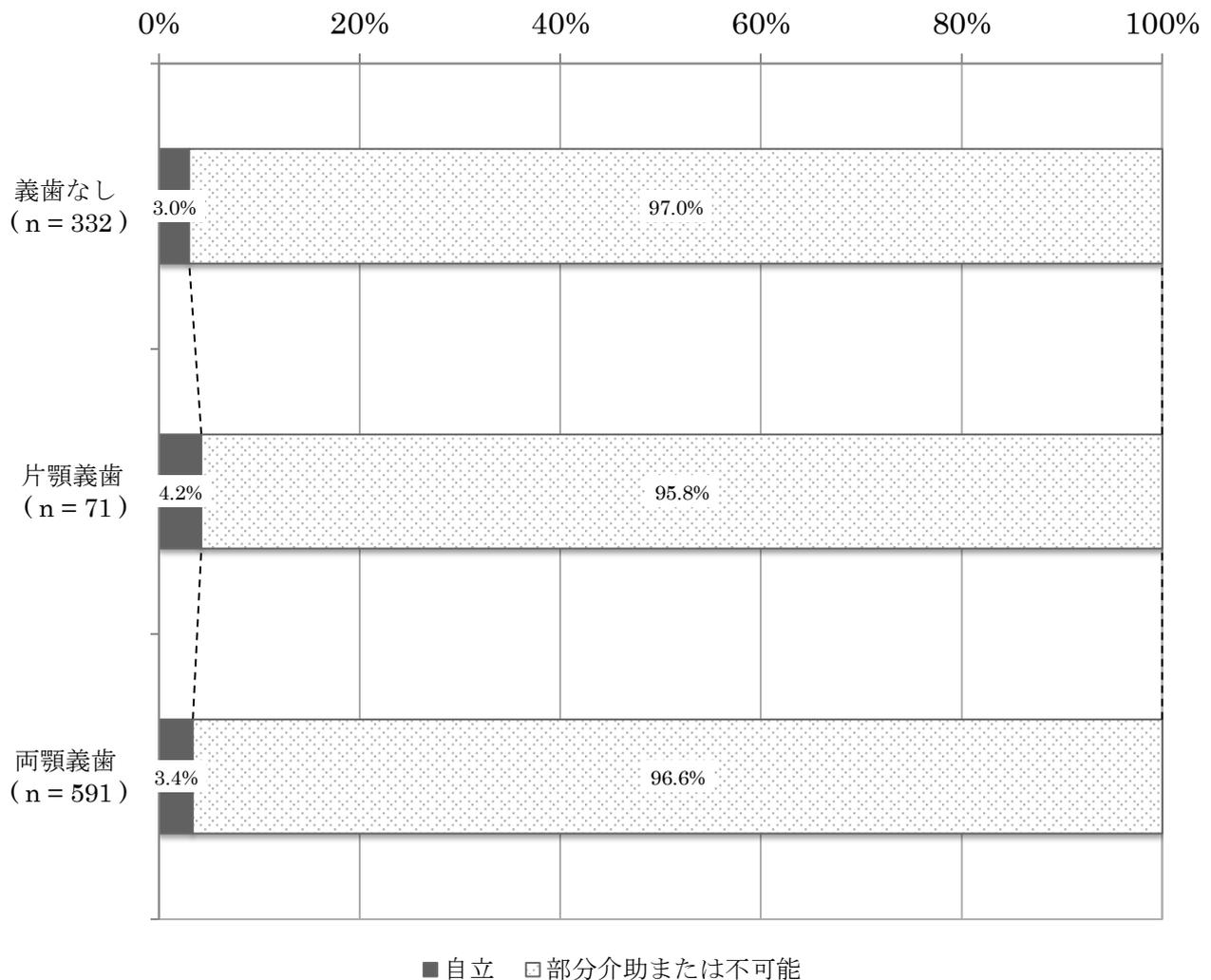
- 自立（衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む）
- 部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する
- ▣ 全介助または不可能

8-5. 入浴

「入浴」について、「義歯の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。すべての場合において、「部分介助または不可能」の回答が多かった。回答数をみると、「義歯なし」の場合、322件（97.0%）、「片顎義歯」の場合、68件（95.8%）、「両顎義歯」の場合、571件（96.6%）であった。

表 111 入浴 [単位:件]

入浴	義歯なし		片顎義歯		両顎義歯		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自立	10	3.0%	3	4.2%	20	3.4%	33	3.3%
部分介助または不可能	322	97.0%	68	95.8%	571	96.6%	961	96.7%
合計	332	100.0%	71	100.0%	591	100.0%	994	100.0%

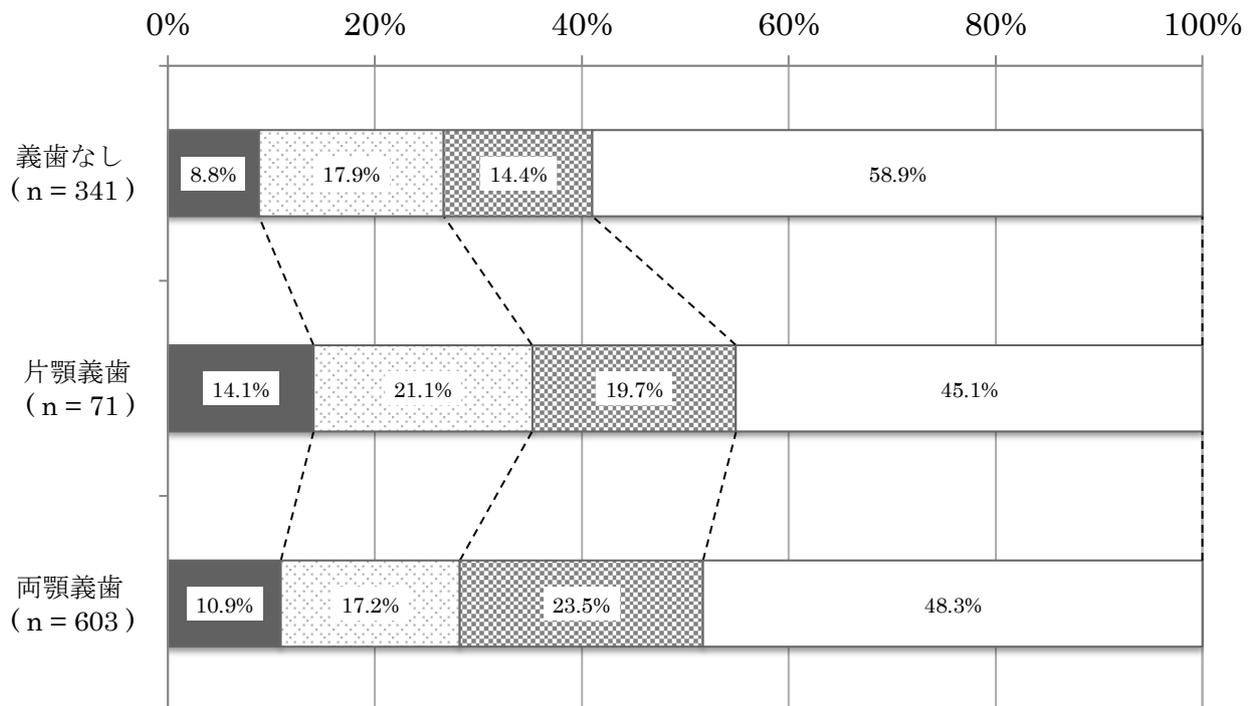


8-6. 歩行

「歩行」について、「義歯の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。すべての場合において、「上記以外」の回答が多かった。回答数をみると、「義歯なし」の場合、201件（58.9%）、「片顎義歯」の場合、32件（45.1%）、「両顎義歯」の場合、291件（48.3%）であった。

表 112 歩行 [単位:件]

歩行	義歯なし		片顎義歯		両顎義歯		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
45m以上の歩行、補装具（車椅子、歩行器は除く）の使用の有無は問わず	30	8.8%	10	14.1%	66	10.9%	106	10.4%
45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	61	17.9%	15	21.1%	104	17.2%	180	17.7%
歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	49	14.4%	14	19.7%	142	23.5%	205	20.2%
上記以外	201	58.9%	32	45.1%	291	48.3%	524	51.6%
合計	341	100.0%	71	100.0%	603	100.0%	1015	100.0%



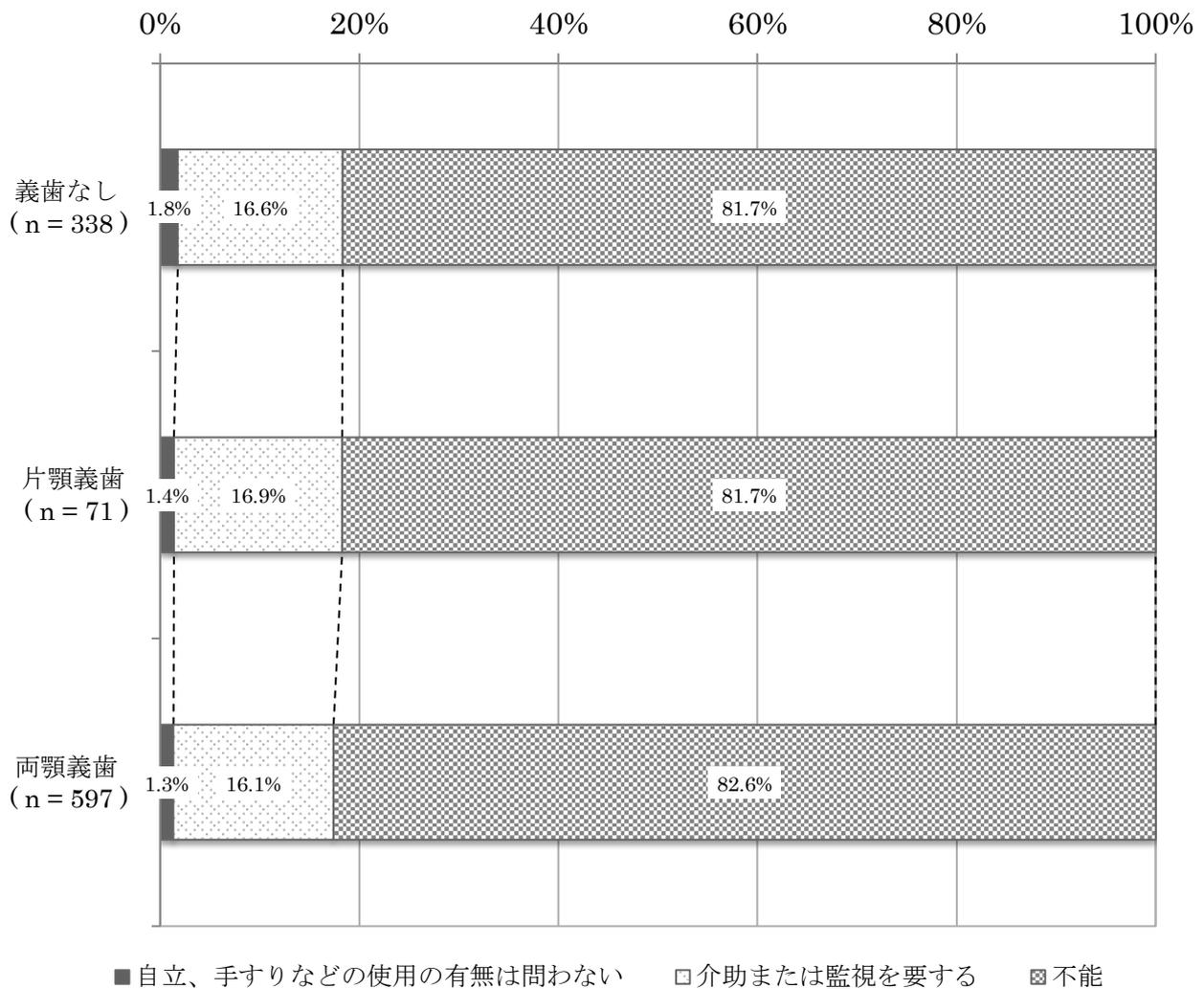
- 45m以上の歩行、補装具（車椅子、歩行器は除く）の使用の有無は問わず
- ▣ 45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む
- ▤ 歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能
- 上記以外

8-7. 階段昇降

「階段昇降」について、「義歯の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。すべての場合において、「不能」の回答が多かった。回答数をみると、「義歯なし」の場合、276件（81.7%）、「片顎義歯」の場合、58件（81.7%）、「両顎義歯」の場合、493件（82.6%）であった。

表 113 階段昇降 [単位:件]

階段昇降	義歯なし		片顎義歯		両顎義歯		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自立、手すりなどの使用の有無は問わない	6	1.8%	1	1.4%	8	1.3%	15	1.5%
介助または監視を要する	56	16.6%	12	16.9%	96	16.1%	164	16.3%
不能	276	81.7%	58	81.7%	493	82.6%	827	82.2%
合計	338	100.0%	71	100.0%	597	100.0%	1006	100.0%

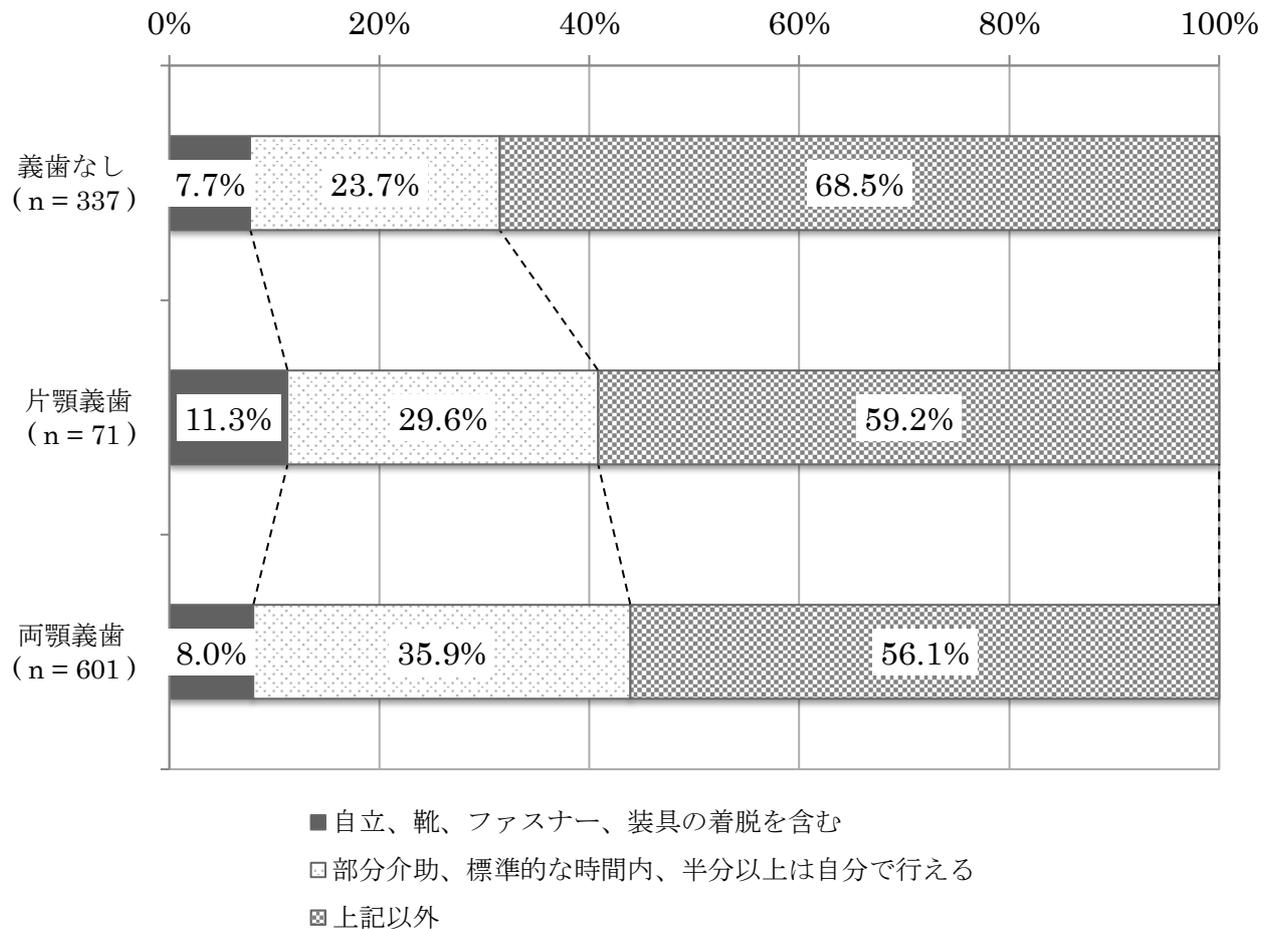


8-8. 着替え

「着替え」について、「義歯の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。すべての場合において、「上記以外」が回答が多かった。回答数をみると、「義歯なし」の場合、231件（68.5%）、「片顎義歯」の場合、42件（59.2%）、「両顎義歯」の場合、337件（56.1%）であった。

表 114 着替え [単位:件]

着替え	義歯なし		片顎義歯		両顎義歯		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	26	7.7%	8	11.3%	48	8.0%	82	8.1%
部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	80	23.7%	21	29.6%	216	35.9%	317	31.4%
上記以外	231	68.5%	42	59.2%	337	56.1%	610	60.5%
合計	337	100.0%	71	100.0%	601	100.0%	1009	100.0%

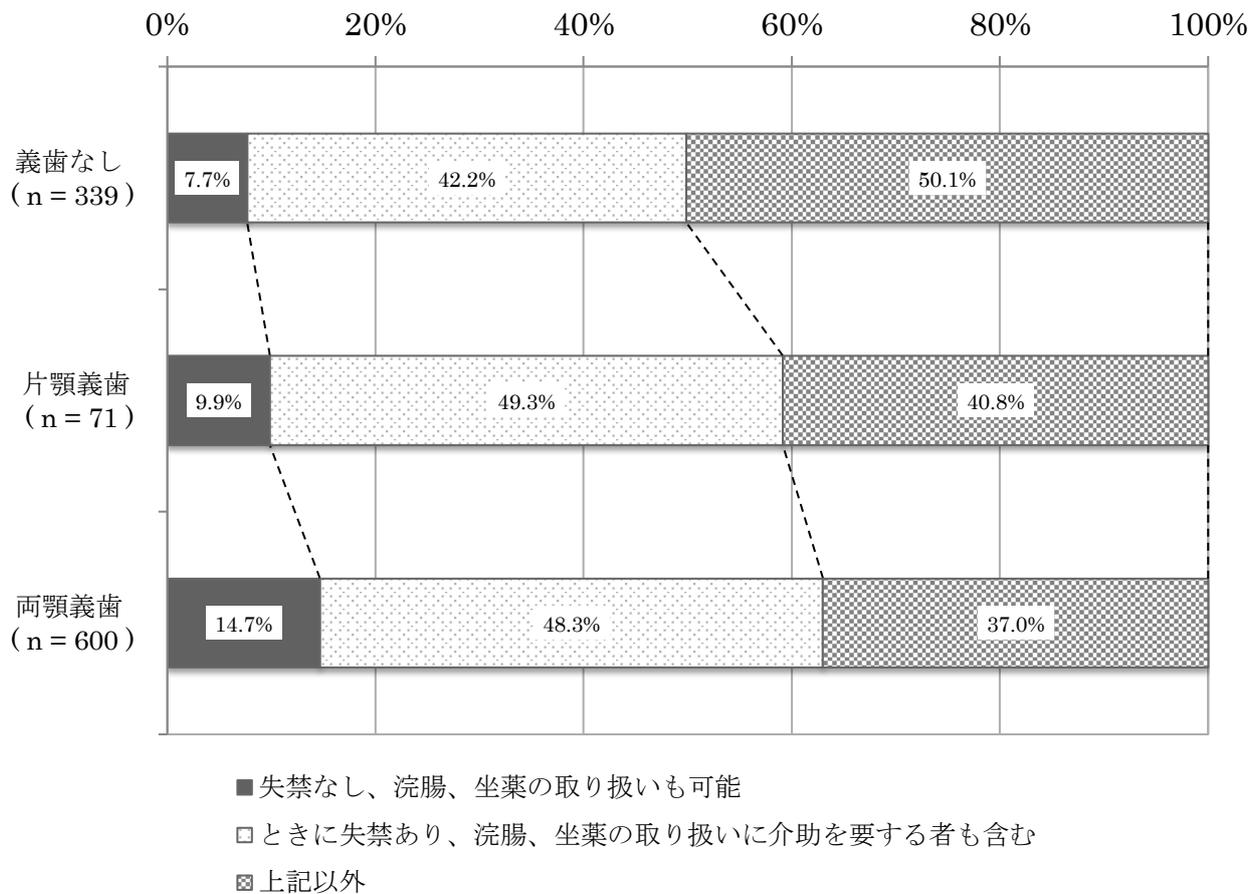


8-9. 排便コントロール

「排便コントロール」について、「義歯の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯なし」の場合、「上記以外」で170件（50.1%）、「片顎義歯」と「両顎義歯」の場合、「ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む」が最も回答が多かった。回答数をみると、「片顎義歯」で35件（49.3%）、「両顎義歯」の場合、290件（48.3%）であった。

表 115 排便コントロール [単位:件]

排便コントロール	義歯なし		片顎義歯		両顎義歯		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	26	7.7%	7	9.9%	88	14.7%	121	12.0%
ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	143	42.2%	35	49.3%	290	48.3%	468	46.3%
上記以外	170	50.1%	29	40.8%	222	37.0%	421	41.7%
合計	339	100.0%	71	100.0%	600	100.0%	1010	100.0%

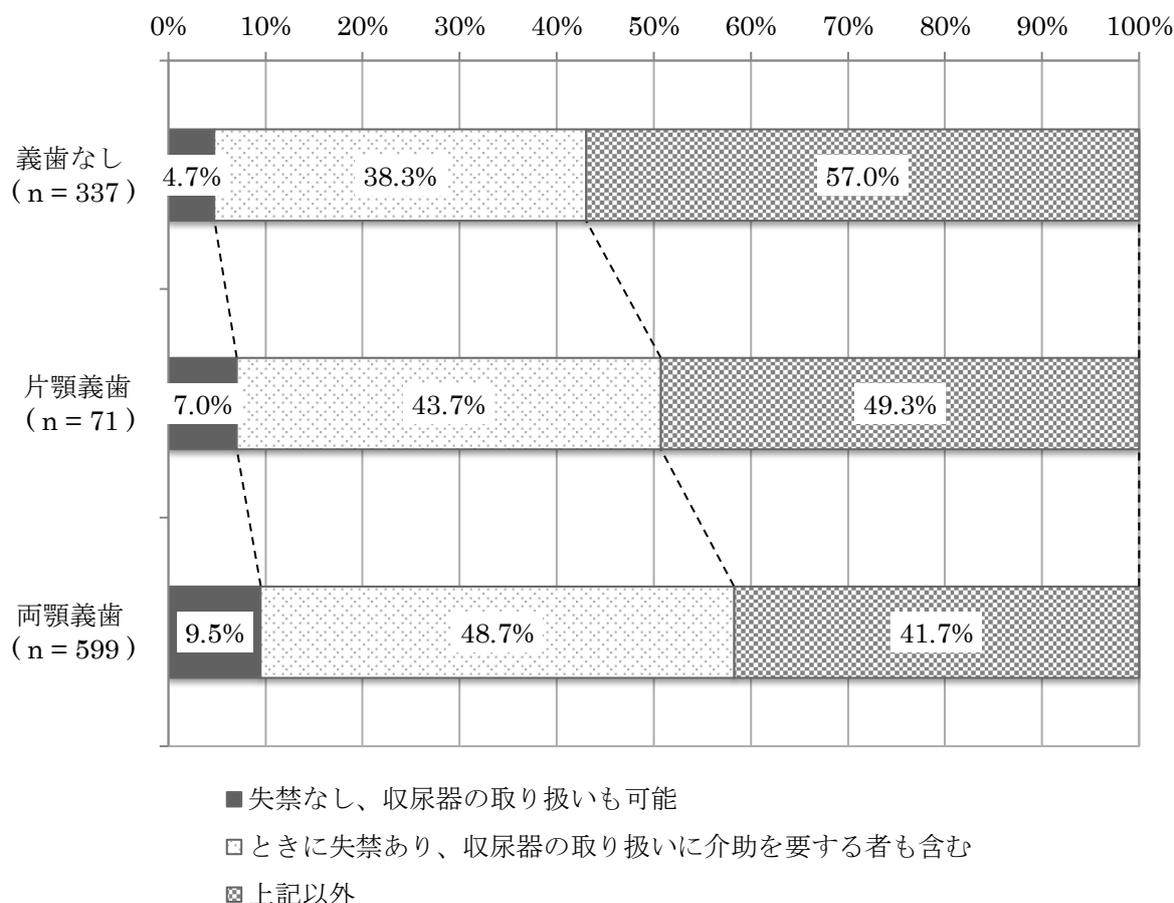


8-10. 排尿コントロール

「排尿コントロール」について、「義歯の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。「義歯なし」と「片顎義歯」の場合、「上記以外」で最も回答が多く、「義歯なし」の場合、192件(57.0%)、「片顎義歯」の場合、35件(49.3%)であった。「両顎義歯」の場合、「ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む」で292件(48.7%)であった。

表 116 排尿コントロール [単位:件]

排尿コントロール	義歯なし		片顎義歯		両顎義歯		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	16	4.7%	5	7.0%	57	9.5%	78	7.7%
ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	129	38.3%	31	43.7%	292	48.7%	452	44.9%
上記以外	192	57.0%	35	49.3%	250	41.7%	477	47.4%
合計	337	100.0%	71	100.0%	599	100.0%	1007	100.0%

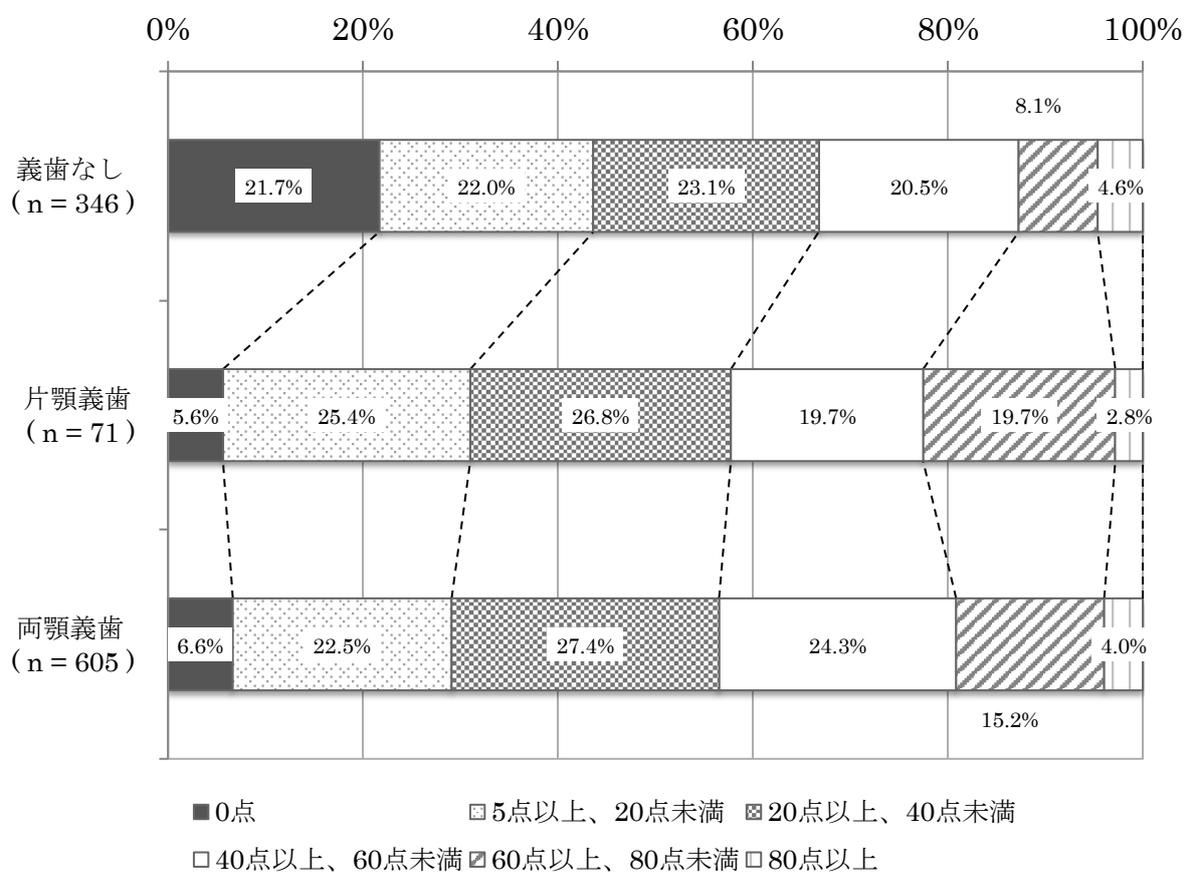


8-11. パーセルインデックス（機能的評価）合計

「パーセルインデックス（機能的評価）合計」について、「義歯の有無」ごとに最も回答数が多い項目をみると、次の通りであった。すべての場合において「20点以上、40点未満」が回答比率が高かった。「義歯なし」の場合、80件（23.1%）、「片顎義歯」の場合、19件（26.8%）、「両顎義歯」の場合、166件（27.4%）であった。

表 117 パーセルインデックス（機能的評価）合計 [単位:件]

パーセルインデックス（機能的評価）合計	義歯なし		片顎義歯		両顎義歯		合計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
0点	75	21.7%	4	5.6%	40	6.6%	119	11.6%
5点以上、20点未満	76	22.0%	18	25.4%	136	22.5%	230	22.5%
20点以上、40点未満	80	23.1%	19	26.8%	166	27.4%	265	25.9%
40点以上、60点未満	71	20.5%	14	19.7%	147	24.3%	232	22.7%
60点以上、80点未満	28	8.1%	14	19.7%	92	15.2%	134	13.1%
80点以上	16	4.6%	2	2.8%	24	4.0%	42	4.1%
合計	346	100.0%	71	100.0%	605	100.0%	1022	100.0%



9. 統計解析（義歯の有無とバーセルインデックス：機能的評価の関係）

9-1. 対象グループの正規性の検定

前項の「義歯の有無」と「バーセルインデックス（機能的評価）」のクロス集計から、若干であるが「義歯」がある方が自立に近い項目の比率が高く見られた。

この点を踏まえて、「義歯の有無」別に「バーセルインデックス（機能的評価）」を群に分け、群間比較を行った。

群間比較に先立ち、各群が正規分布に従うかを、有意水準 5%にて Shapiro-Wilk 検定を行った。検定結果は以下のとおりとなり、すべて有意水準未満になり、帰無仮説が棄却され、正規分布に従うとは言えないという結果になった。

表 118 正規性の検定結果

対象グループ	検定統計量	p 値
食事（義歯なし）	0.7800	0.0000
食事（片顎義歯）	0.7200	0.0000
食事（両顎義歯）	0.7300	0.0000
車椅子からベッドへの移動（義歯なし）	0.8300	0.0000
車椅子からベッドへの移動（片顎義歯）	0.8700	0.0000
車椅子からベッドへの移動（両顎義歯）	0.8700	0.0000
整容（義歯なし）	0.5600	0.0000
整容（片顎義歯）	0.6000	0.0000
整容（両顎義歯）	0.6100	0.0000
トイレ動作（義歯なし）	0.7200	0.0000
トイレ動作（片顎義歯）	0.7200	0.0000
トイレ動作（両顎義歯）	0.7600	0.0000
入浴（義歯なし）	0.1700	0.0000
入浴（片顎義歯）	0.2000	0.0000
入浴（両顎義歯）	0.1700	0.0000
歩行（義歯なし）	0.7200	0.0000
歩行（片顎義歯）	0.8000	0.0000
歩行（両顎義歯）	0.7900	0.0000
階段昇降（義歯なし）	0.4900	0.0000
階段昇降（片顎義歯）	0.4900	0.0000
階段昇降（両顎義歯）	0.4700	0.0000
着替え（義歯なし）	0.6400	0.0000
着替え（片顎義歯）	0.7100	0.0000
着替え（両顎義歯）	0.7200	0.0000

排便コントロール（義歯なし）	0.7400	0.0000
排便コントロール（片顎義歯）	0.7700	0.0000
排便コントロール（両顎義歯）	0.7900	0.0000
排尿コントロール（義歯なし）	0.7000	0.0000
排尿コントロール（片顎義歯）	0.7400	0.0000
排尿コントロール（両顎義歯）	0.7700	0.0000
バーセルインデックス（機能的評価）合計（義歯なし）	0.9100	0.0000
バーセルインデックス（機能的評価）合計（片顎義歯）	0.9400	0.0000
バーセルインデックス（機能的評価）合計（両顎義歯）	0.9600	0.0000

9-2. 義歯の有無ごとの群間比較

前項の正規性の検定結果より、群間比較においては、ノンパラメトリック検定である Kruskal-Wallis 検定を採用した。有意水準 5%にて検定を行った。検定結果は以下のとおりとなった。

表 119 群間比較の検定結果

対象グループ	検定統計量	p 値	有意差の有無 (有意差がある項目は○)
食事	24.8300	0.0000	○
車椅子からベッドへの移動	11.9600	0.0000	○
整容	4.6900	0.1000	
トイレ動作	28.1400	0.0000	○
入浴	0.1500	0.9300	
歩行	7.9400	0.0200	○
階段昇降	0.1600	0.9300	
着替え	11.7600	0.0000	○
排便コントロール	19.2600	0.0000	○
排尿コントロール	22.2300	0.0000	○
バーセルインデックス（機能的評価）合計	27.8600	0.0000	○

上記の検定結果より、「整容」、「入浴」、「階段昇降」以外の項目において、有意差が認められた。義歯の有無によって、各機能評価に違いがある可能性が高いことがこの検定結果よりうかがえる。

10. 総括

本調査における対象施設の概況を単純集計からみると次のとおりとなった。居室タイプはユニット型個室、従来型個室、多床室の種別についてはそれぞれ同数ぐらいの回答が得られた。施設規模としては、30人～90人未満が多く、施設の平均要介護度では4.1以上が多かった。食事や口腔ケアに関する研修については、年に1度程度の頻度で行われている施設が多かった。そして、経口移行加算など加算については取得していない施設が多かった。

続いて、調査対象の利用者の概況を同じく、単純集計からみてみる。女性の比率が高く、年齢は70代から90代が多かった。要介護度は3以上の比率が高く、「障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）」や「認知症高齢者の日常生活自立度」については中程度近辺の利用者が多かった。バーセルインデックス（機能的評価）をみると、食事については自立が多いが、その他の項目については部分介助か全介助が必要な利用者の比率が高かった。ただ、バーセルインデックス（機能的評価）の合計をみると、「5点～60点」の比率が高く、中程度の介護を必要とする利用者が多いように見られた。

次に、「食事の状況」、「口の状況」、「歯と義歯」に関する項目について、「最近3か月の歯科医師の診療の有無」、「最近3か月の歯科衛生士のチェックの有無」、「最近3か月の義歯調整の有無」ごとにクロス集計を行ったが、この結果から次の状況がうかがえた。

歯科医師の診療や歯科衛生士のチェックがあると回答した利用者ほど、「痛み、腫れ出血など」があり、口腔の状況が悪い人ほど医師や衛生士のチェックを受けている傾向がみられた。したがって予防的な診療やチェックというよりも事後的な対応としてこれら診療やチェックがなされているように見受けられた。

「義歯の有無」と「バーセルインデックス（機能的評価）」の関係について、クロス集計を行った結果、「義歯がない」グループと「義歯がある」グループでは、比較的、「義歯がある」グループの方が介助が必要な状況が「義歯がない」グループより比率が低いように見られた。この差について、統計解析を行った結果、バーセルインデックスの7項目と合計において、「義歯の有無」による有意差が認められた。

これらの結果から、口腔状態とADLは明らかに影響していることがいえる。

義歯（部分・総義歯）や欠損歯がある場合、定期的に歯科受診が必要である。高齢者は食事摂取量の低下や体調を崩すことによって、体重の減少ひいては口腔内の状況が顕著に変化する。しかしながら、最近3か月の間に歯科診療されていない高齢者は、448名（66.3%）であった。口腔内の痛みや腫れ出血など顕著に状態の悪化が観察できるものは診療に結びついているが、口腔内の状態が悪くても診療されていない項目が多い。さらに食事動作など全介助や部分介助の高齢者が診療されていない傾向にある。今回の調査から、口腔内の目立たない変化やADL状態の低下については、介護現場のみならず、歯科医師・歯科衛生士も見過ごしている部分が多いといえる。高齢者の口腔機能に対する歯科界のかかわりは、事後的な対応になりがちだが、今後は「高齢者の自立性」を積極的に支える歯科医療としての視点が必要となってくると思われる。

参考資料

1. 施設調査票
2. 介護職員調査票

質問紙 介護職用（日額協同事業）

NO 年齢 性別 要介護度 日常生活自立度 認知症自立度
 () 歳 男 ・ 女 () () ()

バーセルインデックス (Barthel Index: 機能的評価)

	点数	質問内容	得点
1 食事	10	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	
	5	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	
	0	全介助	
2 車椅子からベッドへの移動	15	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	
	10	軽度の部分介助または監視を要する	
	5	座ることは可能であるがほぼ全介助	
	0	全介助または不可能	
3 整容	5	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	
	0	部分介助または不可能	
4 トイレ動作	10	自立(衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む)	
	5	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	
	0	全介助または不可能	
5 入浴	5	自立	
	0	部分介助または不可能	
6 歩行	15	45m以上の歩行、補装具(車椅子、歩行器は除く)の使用の有無は問わず	
	10	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	
	5	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	
	0	上記以外	
7 階段昇降	10	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	
	5	介助または監視を要する	
	0	不能	
8 着替え	10	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	
	5	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	
	0	上記以外	
9 排便コントロール	10	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	
	5	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	
	0	上記以外	
10 排尿コントロール	10	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	
	5	ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	
	0	上記以外	
合計得点			

I. この方に行われている基本ケア

問1. 平均的な1日の水分摂取量 () ml/日

問2. 平均的な1日の歩行量 () m/日

(介助か自立か、および使用する歩行補助具の種類はいずれも問わない)

問3. 平均的な1日の食事摂取カロリー () Kcal/日

問4. 排泄様式

1. おむつ使用 2. 移動等介助でトイレ使用 3. 移動等自立でトイレ使用

II. 食事の状況

問5. 食形態

- 主食 1. 米飯又はパン 2. 軟飯 3. お粥パン粥 4. ミキサー食
副食 1. 常菜又は1口きざみ 2. 極小きざみ 3. ソフト食 4. ミキサー食

問6. 食事動作

1. 自立 2. 部分介助 3. 全介助

問7. 姿勢

1. 普通椅子 2. 車椅子 3. ベッド上 4. その他
()

問8. むせの有無

1. ほとんどなし 2. 食事中1回くらい
3. 1口ごとに1回くらい 4. 1口ごとに2~3回またはそれ以上

III. 口の状況

問9. ふだんの状態

1. 口を開けていることが多い 2. 口を閉じている 3. 舌が唇の間から出ている

問10. 歯ぐきなどの状態

1. 痛み、腫れ、出血などが (ある ない)
2. 口臭が (ある ない)
3. 食べかすが (よく見られる ほとんどない)

IV. 歯と義歯

問11. 上顎

1. 自歯
2. 欠損歯あるが義歯を持っていない
3. 部分義歯
4. 総義歯

問12. 下顎

1. 自歯
2. 欠損歯あるが義歯を持っていない
3. 部分義歯
4. 総義歯

問13. この方の義歯は

1. 入所前に作製したもの
2. 入所後に作製したもの

問14. 義歯の使用状況

(問12と問13のいずれも3(部分義歯)または4(総義歯)と回答した方にお聞きします。)

1. 一日中使用している
2. 食事の時にのみ使用する
3. 食事の時は外している

問15. 義歯の適合性

1. 口を開くと義歯がぐらついたり外れたりする
2. 会話中に義歯がぐらついたり外れたりする
3. 食事中に義歯がぐらついたり外れたりする

問16. 会話の明瞭度

1. 会話・発音が不明瞭で聞き取りづらい
2. 会話・発音が不明瞭だが聞き取れる
3. 会話・発音は明瞭である

問17. 入所後のこの方の義歯調整

1. 最近3か月の歯科医師の診療 (あり なし)
2. 最近3か月の歯科衛生士のチェック (あり なし)
3. 最近3か月の義歯調整 (あり なし)

ご協力ありがとうございました。
取りまとめていただき、返信用封筒にてご返送お願い致します。
〆切は、12/15となります。

プレ調査報告

1 1. プレ調査

1 1-1-1. 属性

プレ調査とし、2018年に高齢者施設入所者 要介護高齢者の口腔機能に関する実態調査をおこなった。回収 228 通であった。要介護高齢者の平均年齢 85.28 ± 7.35 歳（最小 50 最大 100）であった。

表 201 性別 [単位:件数]

性別	件数	比率
女性	173	75.9
男性	47	20.6
欠損値	8	3.5
合計	228	100.0

1 1-1-2. 咀嚼能力にかかわる口腔内の状態

残根、動揺度 3 以上の歯を除く歯の本数は、平均 9.9 ± 9.58 本（最小 0 最大 32）であった。インプラント 4 名であり、インプラントの平均本数は、 4.3 ± 3.30 本（最小 1 最大 8）であった。

表 202 インプラントの有無 [単位:件]

インプラント有無	件数	比率
なし	204	89.5
あり	4	1.8
欠損値	20	8.8
合計	228	100.0

11-1-3. 可撤性義歯有無

可撤性義歯の有無は、上顎可撤性義歯なしが75名(32.9%)、下顎可撤性義歯なしが81名(35.5%)であった。

表 203 可撤性義歯の有無[単位:件]

義歯有無	上顎可撤性義歯		下顎可撤性義歯	
	件数	比率	件数	比率
義歯なし	75	32.9	81	35.5
総義歯	91	39.9	65	28.5
局部義歯	51	22.4	67	29.4
欠損値	11	4.8	15	6.6
合計	228	100.0	228	100.0

11-1-4. 義歯の状態

義歯の状態は欠損値が多い結果となった。上下ともに義歯が会話時に動くは、11名(4.8%)であった。

表 204 義歯の状態 [単位:件]

義歯の状態	上顎義歯		下顎義歯	
	件数	比率	件数	比率
会話時に動く	11	4.8	11	4.8
破損	1	0.4	1	0.4
為害的	3	1.3	0	0.0
適切に機能	54	23.7	51	22.4
欠損値	159	69.7	165	72.4
合計	228	100.0	228	100.0

11-1-5. 補綴物未装着について（2歯以上連続した欠損があるにもかかわらず、補綴物が認められない場合）

入歯をつくったことがあるは、45名（19.7%）、装着のありは、29名（12.7%）であった。

表 205 補綴物未装着について[単位:件]

入歯をつくったことがあるか	件数	比率
ない	18	7.9
ある	45	19.7
欠損値	165	72.4
合計	228	100.0

装着有無	件数	比率
ない	15	6.6
ある	29	12.7
欠損値	184	80.7
合計	228	100.0

1 1-2 . Oral Health Assesment について

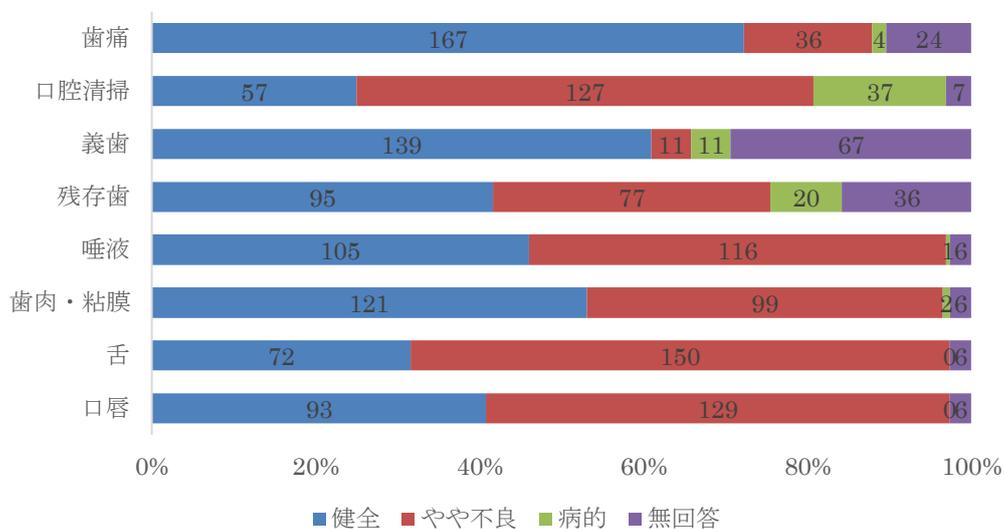
Oral Health Assessment Tool(OHAT)を用いて、各項目について0(健全)、1(やや不良)、2(病的)のスコアを調査した。

病的数値が高かったものは、口腔清掃 0.91±0.65、次いで、舌 0.68±.47であった。

すべてのデータが揃っているOHATスコア(N=219名 満点は16点) 平均 4.02±2.7(最小0 最大12)であった。

表 206 Oral Health Assessment の得点 [単位:件]

	件数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
口唇	222	0	1	.58	.49
舌	222	0	1	.68	.47
歯肉・粘膜	222	0	2	.46	.52
唾液	222	0	2	.53	.51
残存歯	192	0	2	.61	.67
義歯	161	0	2	.20	.55
口腔清掃	221	0	2	.91	.65
歯痛	207	0	2	.21	.46



11-3. 口腔内の状態、周囲筋機能（視診による）

視診による口腔内の状態は、よだれがよく垂れる 14 名（6.1%）、無意識に口が開いている 29 名（12.7%）、頬粘膜にスプーンの裏が吸い付かない口腔乾燥が 100 名（43.9%）、舌苔が多いとわずかに認めるを合わせると 147 名（76.4%）であった。

表 207 口腔内の状態と周囲筋の機能 [単位:件]

よだれ	件数	比率
よく垂れる	14	6.1
よだれはない	207	90.8
欠損値	7	3.1
合計	228	100.0

口唇閉鎖	件数	比率
無意識に口が開いている	29	12.7
普段口は閉じている	192	84.2
欠損値	7	3.1
合計	228	100.0

口腔乾燥	件数	比率
頬粘膜にスプーンの裏が吸い付かない	100	43.9
吸い付く	115	50.4
欠損値	13	5.7
合計	228	100.0

舌苔	件数	比率
多い	48	21.1
わずかに認める	126	55.3
ほとんどない	48	21.1
欠損値	6	2.6
合計	228	100.0

1 1-4. 容易に食べられるか、食べられないかの食べ物について

食べ物について、(2) 容易に食べられる (1) 困難だが食べられる (0) 食べられない (□) 嫌いだから食べない (△) 最近食べたことがないを評価した。

容易に食べられるものは、バナナ 196 名 (86.0%)、煮玉ねぎ 192 名 (84.2%)、サトイモ煮 190 名 (83.3%) であった。

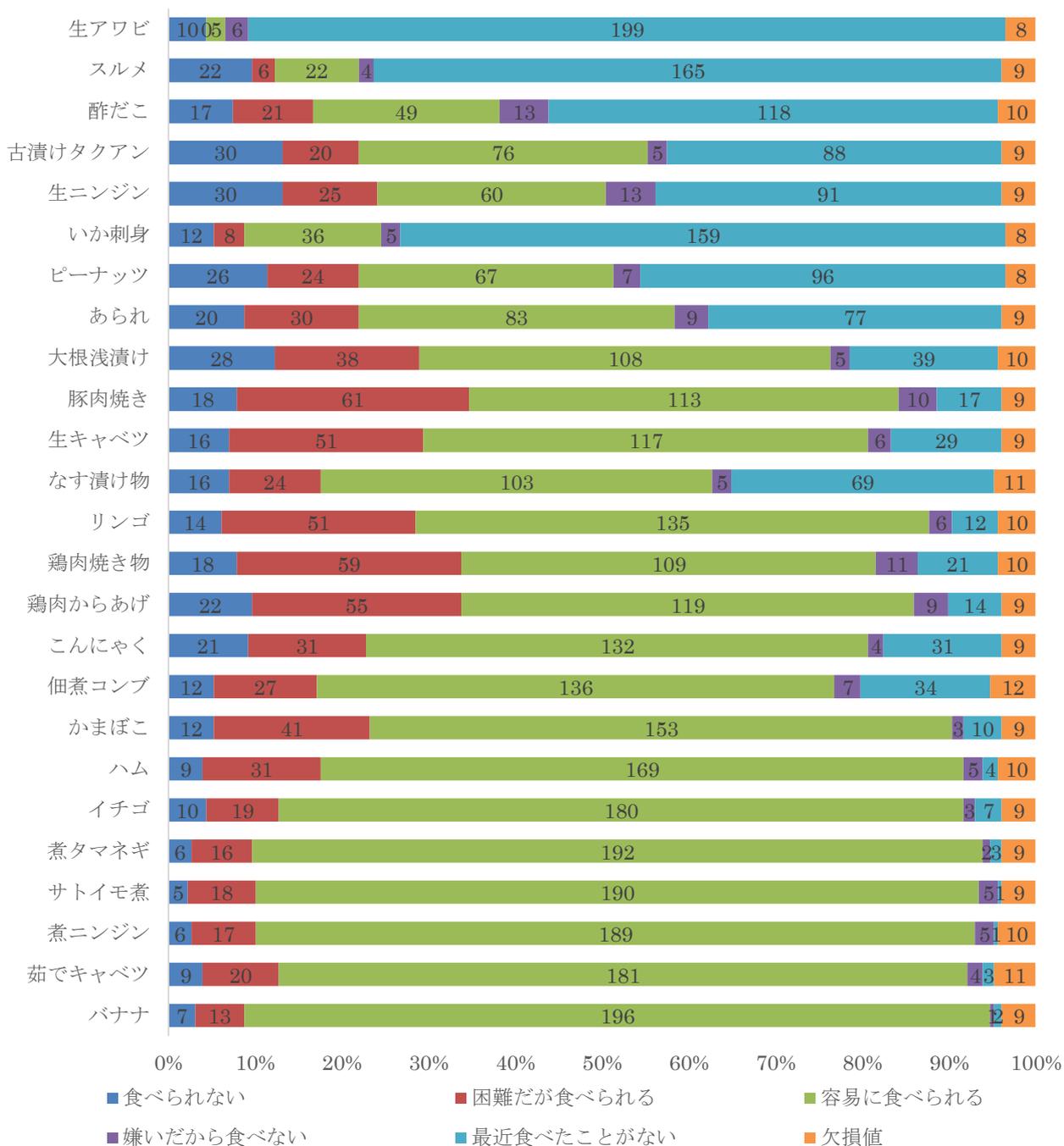


図 201 食べ物 [単位:件]

1 1-5. 嚥下機能検査について

1 1-5-1. 反復だ液嚥下検査 (RSST)

嚥下機能検査 (反復だ液嚥下検査) の 30 秒間空嚥下の回数は、平均 2.42 回±1.26 回 (最小 0 最大 10) であった。

1 1-5-2. フードテストと国民健康・栄養調査質問項目

1/16 カットリンゴ咀嚼秒数は、平均 28.9±15.0 秒 (最小 10 最大 70)、1/16 カットリンゴ咀嚼回数は、平均 30.7±16.7 (最小 8 最大 65) であった。

1/32 にカットした硬いリンゴを前歯でかんだのち、奥歯で咀嚼できるは 24 名 (10.5%)、1/8 にカットした硬いリンゴを前歯でかんだのち、奥歯で咀嚼できるは 16 名 (7.0%) であった。

表 208 フードテスト [単位:件]

咀嚼	1/32 カット	1/32 カット	1/8 カット	1/8 カット
	件数	比率	件数	比率
できない	8	3.5	11	4.8
できる	24	10.5	16	7.0
あやしい	4	1.8	6	2.6
欠損値	192	84.2	195	85.5
合計	228	100	228	100

国民健康・栄養調査質問の各項目では、硬いものが食べにくい・食べにくくなったをあわせると 147 名 (64.9%)、お茶でよくむせる・たまにむせるをあわせると 80 名 (35.1%)、口が渇く・ときどき渇くをあわせると 129 名 (56.6%) であった。

表 209 国民健康・栄養調査項目 [単位:件]

硬いもの	件数	比率
食べにくい	63	27.6
食べにくくなった	85	37.3
食べにくくない	66	28.9
欠損値	14	6.1
合計	228	100.0

お茶でむせる	件数	比率
よくある	11	4.8
たまにある	69	30.3
滅多にない	54	23.7
ない	81	35.5
欠損値	13	5.7
合計	228	100.0

口が渇く	件数	比率
渇く	26	11.4
ときどき渇く	103	45.2
渇く	86	37.7
欠損値	13	5.7
合計	228	100.0

11-5-3. 食事について (食べる能力)

自分の食べる能力は、最も元気のあったころを 100 とすると、現在の平均は、 64.8 ± 21.3 (最小 0 最大 100) であった。食べる能力の制約がない状態を 100 とすると今の食べる楽しみは、平均 79.2 ± 21.0 (最小 0 最大 100) であった。

11-5-4. 食べる能力と判断（複数回答）

本人の食べる能力の判断なしは、127名（55.7%）であった。嚥下力の低下ありは56名（24.6%）、咀嚼力の低下ありは70名（30.7%）、歯の損失ありは37名（16.2%）、全身状態ありは、6名（2.6%）、認知機能ありは49名（21.5%）、本人の希望なしは、216名（94.7%）であった。

表 210 食べる能力と判断（複数回答） [単位:件]

			なし	あり	欠損値	合計
能力の判断	食べる能力	件数	127	95	6	228
		比率	55.7	41.7	2.6	100
能力の判断	嚥下力低下	件数	166	56	6	228
		比率	72.8	24.6	2.6	100
能力の判断	咀嚼力低下	件数	152	70	6	228
		比率	66.7	30.7	2.6	100
能力の判断	歯の喪失義歯不適	件数	185	37	6	228
		比率	81.1	16.2	2.6	100
能力の判断	全身状態	件数	216	6	6	228
		比率	94.7	2.6	2.6	100
能力の判断	認知機能	件数	173	49	6	228
		比率	75.9	21.5	2.6	100
能力の判断	本人の希望	件数	216	6	6	228
		比率	94.7	2.6	2.6	100

11-5-5. 食事介助（複数回答）

食事全介助自立は、166名（72.8%）と最も多く、食事ほぼ自立は36名（15.8%）、一部介助は15名（6.6%）
全食事介助は7名（3.1%）であった。

表 211 食事介助（複数回答） [単位:件]

		なし	あり	欠損値	合計
全食事介助	件数	215	7	6	228
	比率	94.3	3.1	2.6	100
食事一部介助	件数	207	15	6	228
	比率	90.8	6.6	2.6	100
食事ほぼ自立	件数	186	36	6	228
	比率	81.6	15.8	2.6	100
食事完全自立	件数	56	166	6	228
	比率	24.6	72.8	2.6	100

11-5-6. 食事形態（複数回答）

食事形態は、主食米飯 138 名（60.5%）、副食常食 106 名（46.5%）であった。

表 212 食事形態（常食） [単位:件]

		なし	あり	欠損値	合計
米飯・普通	件数	84	138	6	228
	比率	36.8	60.5	2.6	100
軟飯・固粥	件数	177	45	6	228
	比率	77.6	19.7	2.6	100
全粥	件数	190	32	6	228
	比率	83.3	14	2.6	100
五分粥	件数	221	1	6	228
	比率	96.9	0.4	2.6	100
ミキサー	件数	217	5	6	228
	比率	95.2	2.2	2.6	100
流動	件数	222	6	0	222
	比率	97.4	0	2.6	100
非経口	件数	222	0	6	228
	比率	97.4	0	2.6	100

表 212 食事形態（副食） [単位:件]

		なし	あり	欠損値	合計
普通・常食（副食）	件数	116	106	6	228
	比率	50.9	46.5	2.6	100
一口大（副食）	件数	158	64	6	228
	比率	69.3	28.1	2.6	100
粗刻み（副食）	件数	183	39	6	228
	比率	80.3	17.1	2.6	100
細刻み（副食）	件数	211	11	6	228
	比率	92.5	4.8	2.6	100
ミンチ（副食）	件数	222	0	6	228
	比率	97.4	0	2.6	100
ミキサー・ブレンダー（副食）	件数	220	2	6	228
	比率	96.5	0.9	2.6	100
ミキサー・とろみ（副食）	件数	219	3	6	228
	比率	96.1	1.3	2.6	100
ペースト（副食）	件数	217	5	6	228
	比率	95.2	2.2	2.6	100
軟菜（副食）	件数	222	0	6	228
	比率	97.4	0	2.6	100
流動（副食）	件数	222	0	6	228
	比率	97.4	0	2.6	100